

平成 24 年度
鎌倉地域の漁業と漁港にかかる
ワークショップ報告書

資 料 編 II

【ワークショップ議事録】

第8回～第13回

平成 24 年 1 2 月

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第8回ワークショップ会議録

日 時：平成24年6月30日（土） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市役所 第3分庁舎講堂

参加者：公募市民：13名 関係団体：8名 計：21名 傍聴者：15名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生 5名

プログラム

第1部

- ① 平成23年度ワークショップ報告書について

第2部

- ② 本年度ワークショップの検討テーマと開催内容
- ③ 現地踏査内容と注意事項について

終わりに

- ④ 次回（現地踏査と第9回WS）のご案内

配布資料

第8回ワークショップ 次 第

平成23年度ワークショップ報告書

資料－1：平成24年度ワークショップの開催予定と内容について

資料－2：現地踏査用資料

資料－3：現地踏査内容と注意事項について

第8回ワークショップ議事録

(開会挨拶・資料説明他)

事務局：市民活動部産業振興課長の加藤です。このワークショップ（以下「WS」という。）は平成24年度の第1回目となりますが、平成23年度からの通算では8回目となります。平成23年度は当初5回の予定であったWSが最終的には7回開催し、グループワーク（以下「GW」という。）での参加者同士の話し合いを通じて鎌倉地域の漁業が抱える問題や課題について共通認識が得られたことが大きな成果ではないかと考えています。本日、平成23年度の成果を報告書としてまとめて机の上に置いてあります。参加者の皆様からは、市や漁業協同組合（以下「漁協」という。）に議論の前提となる水産振興ビジョンの不足を問題提起されましたが、市としても早急に検討していかなければならない課題ととらえています。また、鎌倉地域の漁業が抱える課題に対しても何らかの対策が必要であり、段階的に実行可能な対策を早急に講じていくことが提案されています。先日の台風4号で船小屋や漁船には被害はありませんでしたが、明日オープンの海水浴場では砂浜の砂が沖へもっていかれるという被害が生じました。最終的に平成23年度のWSの成果として6項目が取りまとめられ、これが平成23年度の成果だと思えます。7回もの貴重な時間をWSのために割いていただいた参加者の方や傍聴者の方に感謝しています。平成24年度の検討内容については後程話しますが、平成23年度の成果を踏まえ、より具体化した提案やご意見をいただければと考えています。平成24年度についても皆様のご協力を得ながら、より建設的なWSを事務局としても行っていきたいと思うので、よろしくお願ひします。簡単ですが平成24年度第一回の開催にあたっての挨拶とさせていただきます。

第1部

① 平成23年度ワークショップ報告書について

「平成23年度ワークショップ報告書」について、鎌倉市産業振興課加藤課長から「資料 平成23年度ワークショップ報告書及び資料編」により説明を行いました。

参加者：報告書案ではなく報告書となっているが、意見があった場合にどのように反映させるのですか。

事務局：WSの主催は鎌倉市であったため、皆さんの平成23年度の意見をお聞きして鎌倉市が責任をもってとりまとめたものです。前回までに確認していただいたものから、表現等の変更や論調の統一などを行ったものです。様々なご意見をいただいた中で、市がこのように答えた、というものを

第8回ワークショップ議事録

まとめています。読んでいただき、明らかな事実誤認や意見があったのに掲載されていないなどがあつたら対応します。市が責任を持って発行するものと考えており、市のHPにもアップしてあるものです。

参加者：今までの会議に参加した自分の印象から、自分としてスッキリしないのは、自分たちがここでやっているものが、どちらの方向に何のためにやっているのか。毎回、突然何か提案され、意見を求められます。意見は整理してもらうものの、資料はWS開催間際に渡され、何も考える暇もなく、また次の意見を求められます。訳が分からず、誘導されながら、いつの間にか7回までやってきたが、資料に対してどんな説明をされても、意図的にWS開催間際に資料を出して口封じし、次の目的に沿って誘導していこうとしています。我々が出した意見を事務局が持ち帰ってどういう議論をしているのか。こんな意見が出たけどこれは抑えていきましょうとか、これは拡大して意識的に持ち上げましょうという取捨選択が市の目的に沿って、咀嚼され、整理され、書類の形で固まってきます。こうだったというの意見の出しようのない間際に提出してきて、次に進んでいるような感じを受けます。この辺りは合理的にスッキリできるようにしてもらわないと、参加者もやっている気がしません。

また、市民感覚でやっているものが意見反映されるようにまとめる時に参加者も入ってやったほうが良いです。自由に意見を言っても闇のところで整理・整頓されるというのは、WSをやっている意味がないような気がします。その辺の運営についてももう少し透明度を高めるように努力していただかないといけないと思います。

事務局：恣意的にどうするという事はないですが、そのように皆さんに思われているのであれば、反省しなくてはならず、平成24年度にはそのようなことに事務局も気を付け運営を行っていきたいと思います。

F T：報告書は持ち帰ってご覧いただき、気が付いたことがあればこの後でも意見を受け付けるということでしょうか。

事務局：この報告書には皆様の意見が入っており、結論づけているものではありませんが、これは自分の言ったことと違うなど事実誤認があれば、訂正をしなくてはならないので、次回まででも結構なので事務局に提出していただくなり、帰り際にその場で言うていただく、または書き出していただければと思います。

第2部

② 本年度ワークショップの検討テーマと開催内容

本年度のWSの検討テーマと開催内容についてファシリテータ（以下「F T」という。）から説明を行いました。

その後、意見交換が行われました。

F T：事務局と今後どうするかについて話し合ってきましたが、最大の難問は、できれば今日に今年度どうするかについて決めることです。自分としては、今日ではなく、事前に皆さんに、自分から提案して、こう進めてはどうかということをやった方が良くはないかと市に申し上げたが、市としては、皆さんの議論を踏まえて進めるべきだということだったので、今日その議論の場を用意したということです。

自分の理解では、昨年度から今年度にかけて申し送り事項がいくつかあり、今年度行われるWSについては、昨年度と同じことの繰り返しになってほしくないです。これについては、先日行った打合せで、加藤課長もそう思っており、もう少しステップを前に進めるような話をしなければ意味がないのではないかと、ということでした。皆さんからの意見にも同じことがありましたので「やり方を工夫しなくてはならない」という課題を自分たちは仰せつかいました。

もう一つは、あるべき論についてはやったので、不十分かもしれないが区切りをつけ、新しい年度は現場に基づいた具体的な検討を進めるべきだという意見もありました。自分もそうであると思いましたので、何とかその方向で話し合いを進められないものかと考えていました。

そこで振り返ると、一つは漁業者からみると「高潮の議論は避けられない、漁港を何とか整備してもらいたい」という意見であり、もう一つは「漁港建設によらない方法を考えてみたい」という意見がありました。またそれとは別に、鎌倉観光と市民生活をどう考えて行くか、そういう問題も一緒に考えていきたいという意見がありました。

これを踏まえて、こんな新しいやり方ができないだろうかと考え、自分からの提案があります。一つは、今後漁業活動の安全性を高めて、あるいは、維持していくために必要なことを検討しませんか、ということです。浜を使った漁業を続けるとすれば浜をどう整備をすれば良いのでしょうか。このままでは台風のたびに大変なことを続けなければなりません。船揚場を今までのままで使うとすればどうするか、あるいは浜小屋をどうするか、位置、規模、形態、新しく整備した時に他の利用を創造できるか、そういうことをきちんと検討しませんか、というものです。

第8回ワークショップ議事録

もう一つは、もし漁港を建設するとすれば、どんな漁港であるべきなのかを検討しませんか、というものです。漁対協の案を検討して、位置、規模、形態、今後の用途、環境、景観、などについて、本当にこれで大丈夫かなどを検討しましょう。

また、その他として、今二つの案を検討するとして、鎌倉市民の生活の向上を念頭に置いてどうしたら良いのかということ、一緒に検討しませんか。自分がこの話を市にしたら、二つ言われたことがあります。

一つは、この浜を使った漁業を続けるとすれば、という仮定ですが、漁港建設があるとしてもいつそれが進むか今のところ見えない状況なので、どうしても今のうちから考えておく必要があるということです。

もう一つは、WSで検討する自由度はありますが、あまりにも荒唐無稽な案を鎌倉市が受け取ったとしても、お蔵入りになってしまいます。そうすると、せっかく検討してもらった意味がなくなるので、ある程度現実路線を踏まえて検討していただく、それであれば鎌倉市も動き易いと思います。

その辺を念頭に置いて、前年度のWSの作業をこのままで進めたらどうかということ。ただ、これを一つ一つ解決すると時間がかかってしまうので、例えば、WSのメンバーである皆さんが検討テーマをそれぞれご自身で選択していただき、私はこっちをやります、私はこっちをやります、というように検討項目を選択して、グループに分かれて喧々諤々やっていくということもあり得ます。そして現地見学会を実施して、その問題についてチェックしたり、あるいは、浜の状況を見ながら考えていきます。それから必要に応じて図面や模型を準備して動かします。学生が何人も来ているが、もしこういう模型があれば検討できるなどがあれば、浜や漁対協の模型を作って、それを基にして、これはだめじゃないか、良いじゃないか、というのを検討します。それから、必要に応じて専門家のレクチャーを受けます。彼[漁港漁場漁村技術研究所の職員を指して]は私の友人ですが、漁港に対して非常に詳しいです。そして浜の利用については必要があれば、砂浜の専門家等をお招きしてレクチャーを受けることもあり得るでしょう。その他こういうことをやったら良いんじゃないかというのは、皆さんと相談しながら決めます。例えばですが、そんな風にして進めたらどうかというのが、私の提案です。

私の提案は申し上げたが、今日は、平成24年度のWSをどう進めるかについて皆さんと話し合っていきたいです。例えば、具体的な話に入った方が良いという同意が得られれば、事務局から色々と進め方を提案する準

第8回ワークショップ議事録

備があります。もし根本的なやり方を議論するというのであれば、それは一旦置いておいて、残り時間でそれを議論したいです。大体40分ほど意見交換を行った後、具体的にどうするかについて話し合います。いかがでしょうか。

参加者：本日のF Tの提案に対し、ほとんど自分は賛成です。WSというのは、本来これをやるものだと思って昨年参加したのですが、中々そこまでたどり着けなかったため、延長して今年度もやっていただきたいと思った方が多いと思います。このような提案がF Tから出たことが良かったのか、メンバーから出すべきだったのかはありますが、この意見に対し、自分は賛成です。漁港に賛成するにしろ反対するにしろ、まずそれに対する検討を皆で行っていくということが非常に大事だと思うので、自分の意見を深める意味でも色々な案を皆で目にし、動かしていくべきではないかと思います。

参加者：趣旨としては理解できるが、やり方としては根本的に考えた方が良くと思います。具体的には報告書P14の3-5-3に「費用対効果の実施」、P16の3-6-2に「代替案に関する意見」というのがありますが、漁港に関して費用対効果をしっかり分析し、それが見合わないものであるならば、3-6-2でいくつか出ている代替案を分析・検討する。このようなことを行政が主体となって行い、その分析・検討結果をここに示していただき、これを自分たちだけでなく、市民を含む多くのメンバーに聞いていただき、費用対効果や代替案に対してこれがリーズナブルなものではないか、という総意を得ることを早急に進めていただくのがやり方ではないかと思います。2、3か月の間に行政がきちんこの二点をまとめ、その後、2回ほど広く周知し、皆から意見をいただく場を設けるとするのが良いやり方ではないかと思います。ただ、行政が主体となってまとめる際に、是非、漁業関係者で参加したい人、WSの方で興味のある人、専門家として興味があったり、何か提供できるという人が検討に参加するという方法が今年一年で成果を出すには最も良いやり方ではないかと思います。

参加者：今、ご提案していただいた内容について、方法論としてはよくわかるし、進めやすいと思うが、内容についてみると要するに漁業を続ける、漁港を整備するという基本的には現在の漁業を継続し、それを安全にするために漁港を造っていくべきで、それにはどんなことが考えられるのかというような分析をこれからやっていきたいと思います。私が何度か言っていることは、果たして鎌倉の漁業を継続するために市民の税金をつぎ込んで良いのかということを含めて、水産業に対する鎌倉市の考え

第8回ワークショップ議事録

方あるいは施策をはっきりさせるべきだというような意見が出たと思います。そういうものを何もはっきりさせないうちにまたこういう議論ばかりをすると、また根本に戻って一般市民が税金の使い道として、どのように今後のことも含めて考えていくのかというものが、別な形で出てきて、また話が元に戻ってしまうという恐れがあるのではと危惧します。

参加者：この一年間色々な立場の色々な目標・目的等の意見は今日この机の上に乗っている報告書等で十二分にあると思います。今、この部屋でこの議論をしているときに、皆さんの頭の中で、鎌倉市という地方自治体が置かれている状況、特に財政状況に全然目線がいかないで、この議論を進めていると、空論で終わると自分は思います。振り返ってみれば、昭和何年から鎌倉の漁港というテーマで経費を使いながら何十年と議論をしてきて今日に至るのです。過去の議論の中で欠落しているところを埋めようとWSという形態をとっていることは良いが、先日終わったばかりの鎌倉市議会で表に出てきた大きな流れが一つあることをお気づきの方もいると思います。鎌倉は1,000億円の借財があり、辻褄があっているようには見えているが返せません。ましてや第1次、2次、3次とやってきた鎌倉市総合計画の実施計画があと三年間であり、計画で既にあげて年月経てきている事案を実行するにも100億円ほど足りません。例えば、漁港の問題は実施計画に入っているから、お金があるというのは基本的には間違いです。今度の議会でPFIやPPPというものを正面切って議案として発言が始まっています。例えば、大船の東口の再開発で区分すると二つぐらいにわかれるが、一つの方は総事業費240億円ぐらいかかると行政が回答しました。それに対してある議員が費用はどのようにみているのかと言ったら行政は、50億円は鎌倉市がみようと思っています、中身は一般会計で15億円、あとの35億円は起債を起こす、と答えました。それに対して議員は言葉を継いで、鎌倉市がそういうことを今でもできると思っていますか、というと同時に、他のお金はどうするかと問うたら、答えられません。深沢地区の国鉄跡地を含むところでも、同じような質問に同じような回答です。それに対して、鎌倉市がすでに進行している作業に、民のお金をどのように導入したら良いかという命題のもとに、提案型の企画提案書をシンクタンクに発注しました。六社ぐらい応札していますが、これは今度の議会でも別の議員が行政とやり取りしている中で、これから鎌倉市は企画提案型の民意の募集を相当やらなければならないと、そして、二十何年間やってきた鎌倉市総合計画の見直しということも整理作業を始めているということですが、このシ

第8回ワークショップ議事録

シンクタンクの場合のエッセンスは民がどうやって積極的に公のために公的なことをやっていくかということです。民の知恵とお金と力と行動力をどうやっていくかというところに主眼をおいて答えは出されるはずでしたが、鎌倉市側が出したスペックが今までやってきた総合計画に軸足をおいて見直しととれるような答申の求め方だったので、二十年前以上とは時代が大きく完全に変わっており、それによって答えを出したシンクタンクに優劣がつかまりました。そういう状況の中で、坂ノ下の問題を考えるときに、いずれは企画提案型で行政はマーケットにふるという場面が必ず来ると思っています。その中には事業予算の取り込み方も含めてPPPやPFIの方式で公募すると思います。自分がこの場で申し上げたいのは、企画提案型になるということを経務局でよく見定めていただけたら、提案募集のスペックをここで議論できると思います。この資料に盛り込まれていることを分解すれば、上位、中位、下位というように優先順位があると思います。条件や注文はお互いに連携しているので、学問的にも今日的な世相観察的にも難しいと思いますが、どういうスペックで企画提案を受け付けたら良いかということが、これを実現化する現実的な道だと感じています。このWSにおいて今後一年間で何をしたら良いかというヒントとなるかと思って話しました。

F T : 今いくつか意見が出されました。自分が提案した方向でやるべきだという意見、費用対効果分析等を含めた行政側の検討結果を示してそれを基にして議論をすべきという意見、代替案の検討を続けるべきだという意見、そもそも漁業をどうしていくのかという未解決の根本的な問題を明らかにしていくべきだという意見、行政も提案募集型の導入をする時期にきておりそのスペックを出すという位置づけでの作業の在り方があるという意見でした。これらの四つの意見について少しディスカッションしたいです。例えば、自分はこう考えるという意見があれば伺いたいです。

参加者 : 話を聞いていて、一番目の方の意見も理解しているが、二番目から四番目の方の意見は賛成できると思っています。確かに前回までのWSを振り返り、様々な議論があった上で今日があるというのも事実ですが、漁業をどうすべきか、という重要な疑問があります。本来、課題やニーズがどこにあるかというものは、当事者の方が考えるものです。市民の立場でそれがおかしいのではないのかと思うのは、それが具体的な案をとった時に費用や効果、あるいは、漁業以外のその他とのバランスの中でどうなのかということがあるのがプロセスだと自分は思います。先生の

第8回ワークショップ議事録

意見の中で一個一個は妥当だと思いますが、安全性をどう考えるか、浜を使う話はどう考えるか、船揚場の利用とか、漁港建設の具体性とか、確かにここだけで言っても最終的には空論になるのではないのでしょうか。我々は空論に延々と時間をかけたのか、ということになりかねません。3月までのWSで漁港は建設できるという案に対してそれは無理という議論になったので、そのバランスはあると思います。二番目の方が言ったようにある程度当事者が考えるニーズについて具体案というものがあり、その中で財政ややり方などを含めて逆にとれるものがあるのか。その方が結果として到達点が早いと自分は考えます。いきなりきれい事という語弊がありますが、大きいところに話が行きたいが、着地点が見えるかという点で堂々巡りにならないか懸念されます。

参加者：補足すると、その書き方について自分が言ったのは、行政あるいは当事者が費用対効果の分析や代替案の検討をしっかりとすべきで、その資料が抜けていること自体、自分としては残念です。今回は現地踏査と書いてありますが、自分が事務局でやる立場なら、現地を見るより実際出ているいくつかの案、例えば和賀江嶋の案や小坪の案等をきちんと検討するとこれは無理とか、これはできるかも、というのがあると思います。現地を皆で見ようという前にしっかり分析をし、この辺のポイントを現地で見ていただくと良いかもしれない、というように進めないただ皆で材木座から坂ノ下まで歩いて、何なのかという話になると思います。一年間かけてしっかり費用対効果の分析をしようとか、そうでないと理解を得られません。こういう代替案があるのではないのかというのをこのメンバーで出したので、それをしっかり受け止めて一番課題を感じている方や行政の方がそれを精査して、この案だったらいけそう、この案だったら無理、というようなことを示すのが今年の第2回WSではないかと感じています。

F T：行政側が主体的に一つの案について様々な分析を行い、その結果を皆に提示し、それを議論するというやり方ができないのか、という意見ですが、それに対していかがでしょうか。

事務局：費用対効果の問題などは自分たちも議論しています。漁業者の側からこういったものがある、それに対してどうなんだ、とした方が早いのではないかという意見がありました。費用対効果について言えば、必要な規模やどのような機能を持たせるかなど、建設費用を出すための具体的なものがないと、それにより発現する効果が何かを出せません。現時点でやるとすれば、鎌倉漁港対策協議会（以下「漁対協」という。）で出た案

第8回ワークショップ議事録

も時間とお金をかければできます。この案でいくとなれば、それも無駄ではないと思います。今回、実施計画の見直しがありますが、やはり防災の関係を第一優先にして考えていくと、そのような予算編成が今後組まれていくのかと思います。鎌倉漁港だけではなく、鎌倉市の中で経常的に使われる福祉の予算やそれ以外の経常的に使わない経費に掛かる事業というのは何百もあります。鎌倉漁港についての事業はその中の一つです。その中の優先順位について、WSで話し合ったとしても結論は出ないと思います。それを決めていくのは議会であり、今後予算化する際に予算がきちんと認められるかという点で判断するしかありません。

また、費用対効果を出すためのスペックについてですが、先ほどFTから例えば、ここにそういったものを造った場合にどのくらいの機能や規模、またはどこの位置にしたら良いかを一つ一つ潰してこういったものが必要と言った場合、これだったらこのくらい費用がかかって、その場合の効果はこのくらいです、と。全国で漁港は三千程度あり、東北地方の漁港は東日本大震災で壊滅的な甚大な被害を受けています。復興の事業費は計上されていますが、それ以外の多くの漁港に対する予算が削られているかということ、半分になってしまうということはありません。やはり古い昭和30年代、40年代に造られた漁港について老朽化が進んでおり、それを新しく造り替えるのではなく、長持ちさせるための予算などは計上されており、新規の漁港も数は少ないが建てられています。そういった予算を鎌倉で漁業があるのであれば、もちろん市民の税金も使わせていただきますが、地元鎌倉の漁業振興のために漁港を造ろうということになれば、市としても国費を獲得していきたいです。そうでなければ、そのお金は他の地域で使われてしまいます。そうであれば、我々鎌倉市民として、あるいは市の職員として鎌倉の漁業を考えた上では、鎌倉で国費などを有効に使いたいという様に自分は思っています。そういった意味で、確かに税金の使い道や優先順位はありますが、それにより漁港が良い、悪いなどの話になってしまうと、どなたかも言っていたように堂々巡りになってしまうと思うので、先ほどFTから出していただいたように具体的な作業を進めた方が、成果が出るのかと思っています。

また、企画提案型の事業にシフトという点では鎌倉にも実績はあり、今後そのようになっていくかと思いますが、全国的には漁港に関してPFIの事業はあったかと思いますが、それは単なる漁港ではなく、マリーナの機能が付属するようなものです。企業がお金を出すため、何らかの収益または集客力が望める施設です。今、鎌倉で考えている漁港はそういう規模を想定していないので、この企画提案型に関して頭の中にイメージがありませんが、今

第8回ワークショップ議事録

のところ漁対協の案で費用対効果がどの程度出るか、また実現可能性がどの程度あるかについてはお答えできない状況です。

参加者：費用対効果について、造るものが決まらないとできないというのは、詳細に正確なという意味でかもしれないが、理解できない部分があります。前回も、茅ヶ崎で数十億なり運営費が膨らむとそれ以上のお金がかかるという意見があったが、全国で三千以上の漁港があるなら、例えば鎌倉で今造ろうと想定しているものに対して建設費・運営費・何かあった時の補修費などは、ざっくりとであればきちんと示せます。議会で議論するわけではないので、WSで市民に広く理解を求めるという意味では、それぐらいのイメージで良いので一か月もあれば出せるのではないのでしょうか。

もう一つは、漁港を造るという出発点は、漁業者の方に色々なニーズがあり、台風などで被害を受けられたと思うが、このようなニーズに対する対策として本当に漁港が良いのかという点も代替案の検討のところで話が出たと思います。代替案一つ一つについて、対策になる、ならないというのが検討できるはずです。実際、WSの中でもヒントは出ています。腰越に避難するのは難しいとか、小坪の船も避難しているなどです。小坪を改修して鎌倉の船も小坪に避難することができるのではないかなど、ひとつひとつ考えていくと色々なヒントがあるはずだと思います。そういうものをしっかりやった上でもう少し我々なり市民を集めて議論する方が、この一年で出る成果としては、早いのではないかと思う。

二番目の他の施策との優先順位が付けられないというのは、確かにWSというのは難しいのではないかと自分では思うし、そのために議会があると思うが、これも、広く広報などを利用して、大船の再整備などのいくつかの問題があると、これくらいのことをやるとやはりこういう予算が必要になってくると広く知らしめて、市民としてはどの優先順位が大切だと思うかという問いかけを、単にHPや広報だけではなく、今は様々なソーシャルメディアを使うこともできるので、そういうもので広く市民の意見を集めることもできるのではないかと思います。市としてはそういう活動に予算なり労力を振り向けた方が建設的なのではないかと思います。

参加者：ざっくりの数値を出すのなら、振れ幅が何%とかも出してもらわないと、それが正しいと思って後でふたを開けてみれば、実は倍ぐらいでしたとか、半分ぐらいでしたとか言ったら、そもそも收拾がつかなくなってしまいます。

また根本的な質問ですが、例えば私はWSに去年参加したときには漁港を

第8回ワークショップ議事録

造るという前提で、こういう漁港を造ろうというのを考えるところかと思って自分は来ました。そしたらいきなり予算の使い方になってしまった。予算の使い方、税金の使い方、市の事業の優先順位といったことはこのWSではやりますとか、やらないとか一度決めた方が良いのではないのでしょうか。

参加者：話をさかのぼって恐縮ですが、先ほどの事務局の話が理解できなくて、整理させて欲しいです。要は最初のところでは、具体案がないと行政として費用対効果は考えられません、というのが一番目の話であり、二番目は代替案というものは行政サイドからは考えませんとおっしゃっていて、三番目では、予算等実現性の問題は考えていない、あるいはまったく別であるとのこと。これが三つのおっしゃっていたことだと思いますが、これはまさに今の政治の問題そのものです。皆があった方が良くないかなぐらいで積み上げでやることを出した後、そんな金ないけどどうするのと言い、金なければ良いじゃん、というのがまさに今の世の中の問題ではないのですか。それが未だにWSの前提にあるので、案は考えません、皆さんでどうぞ、と言われたら、何のために自分たちはやっているのか。元々自分たちは本来当事者ではない。この前のWSもそういった話がきて「おい、ちょっと待てよ」と本当に予算や環境など色々含めて、本当に実現性あるのか。鎌倉市はこの話を進めてしまって大丈夫か、というその問題意識があるから「ちょっと待ってよ。ちゃんと話し合った方が良くないですか。」と言い始めたわけですよ。あえて言えば、案がないと考えられないとおっしゃるけれども、20年かけて唯一できた案が漁港建設であったために、前回WSで漁港建設はどうしますかという話をしたときに、少なくともこのWSの中では、それって手段と目的が見合ってなくて、とてもじゃないけど今のご時世に実現性が乏しいよね、という話になりました。それでは漁業について何にもしなくて良いのか、というとそんなことは思いません。だから、そもそも何が必要なニーズであって、それに対する目的が何で、目的に対してもっと近いやり方がないのか、を考えるのであれば、継続するのはしょうがないし、よろしいのではないですか。やるべきじゃないでしょうか。皆で考えた方が良くないですか。そうしないと、現に困っている人たちはいつまでも放って置かれているだけです。

参加者：一応このWSは漁業と漁港を考える、そういう会議だと思っています。この中で色々な意見が出ますが、そのために議論してもらい、先ほどFTが言われたように、一回現地視察で見てもらって、それから議論というようにした方が良くないのではないかと思います。政治だ、なんだとい

第8回ワークショップ議事録

う話ではなく、まずこの漁業と漁港を考えるWSという題によって皆さん集まったと思うので、先ほど先生が言われた浜などを一回見てもらって、またこういう会議をした方が良いと思います。

参加者：23年度のWSの成果で、漁港の建設は現時点では「経済的にも無理がある、今後も継続して議論するべきである」と無理があるのに議論していく、お金がないのに議論していく。成果をみると、主な成果と書いてあるが「べきである、べきである。」という断定的なことを求められると、今の前提で漁港についてそこまで議論はできないのではないのでしょうか。整備するかこれ以上話を進めていくためには、漁業がこれだけの規模で、これだけの予算があって、これだけの必要性があるという、前提がないと、今までと同じように雑多な意見を出すことしかできません。ここにあるような「べきである、漁港をどうするべきである。」というような意見は、私たちはまだ出せないのではないかと思います。それは経済性の問題も規模の問題も前提がわかりません。

もう一つ、漁港を建てるとなると潮流がどう変わるかなど科学が必要です。私たちはそんな知識もそれを検討する余力もないので、この成果のところ、現時点では無理であると書かれているのに、議論するべきであると、どういう点でどう議論できるのかわかりません。浜を見て色々考えるのは良いが、漁港をどうしたいかというのをきちんと出せるかというのは無理ではないかと思えます。浜を見て色々考えるのは良いが、(1)の方の整備については色々な意見が出せると思えます。ただし、ここの主な意見で「べきである、べきである」というのはWSでは無理だと思います。大体私たちはきちんとした市の代表ではありません。たまたま関心があった、たまたま選ばれた人間なので「べきである」までどうすべきであるかとかは出せないと思えます。雑多な意見が出せるくらいです。

参加者：FTの(1)、(2)のどちらにするかをシビアに議論しなければ、この先何も進まないというのが自分の意見です。漁対協の答申にあったような港をあそこに造るのか。先ほどの方が言われた資料の時点は古いですが、第3次鎌倉市総合計画、第2期基本計画の後期実施計画で、累計106億8,000万円という財源不足があります。これは12月時点なので既に数字は変わっていると思いますが、このような財源不足があり、机上の空論の時期は終わったと思えます。自分自身、このWSはシビアに現状を見ていく必要があります。自分はどっちに触れるのかが出発点になるのではないかと。何もしないというのは、この間の台風で大きな被害があったことが、フィッシャーマンズ通信などに載っているの、安全という喫緊の課題

第8回ワークショップ議事録

があります。また、漁港を造ったら維持管理費などがかかると思うので、そういうのも含めてシビアに、市として市のお金というのを考えた上で、現実的なのか、どうなのか。大震災という社会情勢を経験した後に、鎌倉には14mの津波がくると予想されている中で、漁港や漁業を考えるのは十分大事なことだと思うが、やはり予算的に不可能なものを、物語を考えるようにWSをやっているのは仕方がないので、(1)、(2)どっちにするか、をまず出発点として方向性を示すべきだと思います。

参加者：FTと市役所の方は、実現性や予算があるかということをごここで考えるべきだと思います。これを主催したり、ファシリテートされているのでしょうか。誰かがリーダーシップをとって、そういうことも考えてから、ここで話し合いますよとするのか、それとも実現性はどうでも良いから、市民としてこういう漁港があった方が良いよね、という理想論を作るのかを誰か決めた方が良いのではないのでしょうか。方向性がないから「こういう意見があって、こういう意見があって」となり、皆さんが黙って、WSが終わって、また次ですね、と紙の資料をもらって、また同じ話になってしまっています。

事務局：先ほど少し申し上げたつもりですが、このWSで、噂で鎌倉漁港を造るのに100億円かかるような話を聞いたが、そんなすごいものを造るのはまず不可能だと思います。このWSでは予算の上限を、市の今の財政規模や国や県からの補助がこのくらいということで、ある程度示すこともできると思います。また、市の優先順位や予算までを考えてやっていくのかについては、このWSでは議論することはできないと思っており、またお願いすべきではないと思っています。

参加者：それならそう決めて、賛同する方は次からも来てもらい、賛同しない方は議会に行っていただいて「こういうWSを市でやっているけど実現性のない話であり、お金を使うのはあれなので議会の方でこういうWSをやめてくださいと市役所に言ってください」というようにやれば良いのではないのでしょうか。

事務局：議会も色々な事業を精査し、審査をしています。その中で我々としては、予算ありきというわけではなく、こういったものを造りたいとやるので、それに代わることがあるということをしたくありません。このWSでは予算がないから無理とか、どんな制限をもってやるのか、などは抜きにしてやっていただきたいと思っています。この平成24年度のWSは(1)、(2)について、予算的規模などは少しおいて議論していただきます。優先順位についても構わず自由な意見を出していただきたいです。

第8回ワークショップ議事録

参加者：今まで散々平成23年度に自由に意見を出してきて、一応報告書としてここにあげています。この報告書を取りあえず踏まえると、ここにある代替案を検討しないといけません。このままでは同じ事の繰り返しになってしまいます。例えば「100億円かかるというのは実現性がないから無理」「和賀江嶋は史跡指定されているから無理」など無理なものは置いておいて、掘り込み式など他に構わず、もう一回きちんとしたものを造るのであれば、どうしたら良いのかなど、いくつか書いてある中でピックアップしないといけません。

また、同時に潮の流れなどの専門的なことがわかる先生たちを招く、結果的にお金をかけて進めていっても無駄になってしまうかもしれませんが、三つぐらいを同じように進めていかないといけません。ここで一個に決めて突き進むと何か問題が生じた時に「やはりあっちの方が良かった」ということになります。それでは今まで堂々巡りしてきたことと同じになってしまいます。せっかくここでまとめとして挙がっているのも、この中でお金がかかりすぎるものや和賀江嶋などはやめて、いくつかを同時並行で専門家を入れて進めていかななくてはしょうがないと思います。環境問題などを含めてです。

事務局：その通りだと思います。我々もこの後の決め方として、色々出ている代替案や漁対協に対する検討結果、和賀江嶋や逗子マリーナを使うなど。

参加者：一つ追加して良いですか。逗子マリーナも含めて三つぐらいに絞った中で、現地調査に行かないと「こっちで一回行って、こっちで一回行って、こっちで一回行って」となると、違いがわからないため、皆で見に行ってもしょうがないです。一つにここで話を決めていくのではなく、三つぐらいは同時並行で進めていかないといけません。現地調査も含めてです。

事務局：事前の情報として例えば、逗子マリーナに停泊するのであれば、費用的にどのくらいかかり、それを全部漁業者が負担するとどのくらいになるか、というのは全部調べるようにします。和賀江嶋についても前に一度説明したつもりではありますが、難しい点がたくさんあります。また、小坪漁港や逗子マリーナなどの状況を見るのが一番良いのかもしれませんが、実際に見ることができかわかりませんが、行程に含めたいです。

そして、もう一つ提案されている漁対協についてはどういうところがいけないのか、一つ一つ検証しながらやった方が良いというのは事務局としても思っています。代替案については、我々の方で事前に資料として提示するようにします。

参加者：現地踏査は来月行くことになっていますが、「こういうのが決まって、こ

第8回ワークショップ議事録

の様なものをこのことについて見に行きましょう」ということでなければ、ただの遠足になってしまいます。また、今「来月行きます」と言われても、今日集まって何をこれからやっていくかもわからない状態で、現地踏査に行く段階ではないような気がします。

F T : 今の事務局の日程は「例えば」ということです。ですから、今日の話を受けて、見学している場合ではないということになれば、今後の進め方についても一回検討することになります。ただ、限られた時間の中で「検討します、検討します」ということを繰り返していても、同じことの繰り返しになってしまいますので、そこを何とかしたいです。今おっしゃられた代替案 3.6.2 とありますが、掘り込み式と第1次漁対協の候補地 A などによる漁港建設の再検討に関する話も(2)の漁港建設するについてどうするのだ、ということについてです。もう一つの漁港建設以外の漁業支援策、選択肢の検討、浜小屋等既存施設の強化対策の検討というのは、(1)に相当します。それ以外に環境面や観光などの話があったので、それを(1)、(2)にかぶせる形で、大きく二つの検討項目を用意してそれぞれグループに分かれて検討しませんか。検討すると言ってもただ「どうしましょうか」では話が進まないの、私どもが事務局と相談しながら原案をお出しします。例えば浜小屋等について言えば、どのくらいの規模が必要なのか、船揚場というのはどのくらいの規模のものがいいのか、どうすれば当面は被害を免れることができるか、それを仮に図面や模型に配置します。それでこれはこうできないのか、ああできないのか、というご意見をいただきたいです。そういう準備をする予定でいます。ですから、例えば港を造るという前提とした検討にしても、いきなりどうしましょうかではなく、漁対協の案というのはどういう手順で決まってきて、なぜここが良いと言われているのか、ということから始まり、ここをこうしたらなにが悪いのかについて、港の専門家に話をしていただきながら、港を造るということだとするとここ以外にないのかとか、ここに造るにあたってはこういう造り方はだめなのか、という具体的な検討を皆さんとやりたいと思っていました。

参加者 : 素朴な疑問ですが、全国には私立のマリーナというのはいっぱいありますよね。私立で港を造ってはいけないという法律はあるのですか。根本的な質問です。マリーナは良いですよ。海岸線を使って散々近隣と折衝し、自治体と折衝し、必要な省庁と折衝して私法人が、私立マリーナが全国にありますよね。港はだめなのでしょうか。既存の漁村にマリーナと併存している事例はありますか。お答えいただけますか。2億円ぐ

第8回ワークショップ議事録

らしいの売り上げの母体が20億円ぐらいの投資ができないわけではないです。

事務局：まず、港をどう定義するかですが、日本の法律では港湾法と漁港漁場整備法というのがあります。その法で港に類するものを整備していくというのが原則となっています。例えば葉山のようなマリーナというのは、基本的には各自治体が整備しており、委託管理という制度によって民間が利用しているというのがほとんどの場合です。正確に覚えていませんが十年ほど前から、今お話にあった大きな漁港にマリーナが張り付いているフィッシャリーナという形で漁港を、より多目的に使うという目的で遊漁船や一般のプレジャーボートといったものが広く停泊できるスペースをつくろうと全国に配置した経緯があります。また、皆さんの関心がある埋め立て行為、公有の水面を埋め立てる行為は漁対協の案にもあるように必要になってきますが、埋め立て行為は、埋め立てをする人が当該海域の管理者に許可を得る行為なので、公である必要はありません。この辺だと横須賀に日産の大きな土地が点在していますが、あれは全部民間の埋め立てになっています。施設についても同様です。考え方は色々ですが、港を県あるいは市町村でなければ、造れないという話はありません。それらの行為を自治体などと一緒にやることは、十分可能だということです。今までの考え方で言うと、一企業が単独で港を整備したり埋め立てをしたりということを完全にやっているということはほとんどありません。

参加者：ほとんどですか、絶対ですか。

事務局：私の知る限りではありません。

参加者：須磨、明石であったか、中国地方の沿岸には、既存の何かがあったのではなく、何も無いところにマリーナを造っています。大々的に宅地開発と一緒にやっていた業者があったのですが、それは別に既存の何かがあって、水面のところをどうやって申請したか、いきさつはわかりませんが、私の純粋な質問は、私立マリーナがあって、私立漁港はあってはいけないのか、という質問です。費用対効果だとか、時間の短縮だとか、行政の労働軽減だとか、色々メリットがあるわけですよ。

事務局：おそらく日本国内ではそのケースで、民間が一から最後まで整備をしたというのは、漁港については恐らくないと思います。手続き上、今のところ、その方が大変になるのではないかと思います。先ほど申し上げた横須賀の日産の用地なども、横須賀港の港湾計画に用地の造成として載って、初めて民間の埋め立てが認められます。いずれにしても、海に手を付けるということは、国ないしは県など上位の管理者に話をした上で、

第8回ワークショップ議事録

その計画に載らないとできません。当然、今議論していただいている鎌倉の漁港も、神奈川県漁港計画にしっかりと載せていただかないと最終的には進まないということです。当然、県の方には前々からそういう計画を進めていくということをお話しているところですが、最終的に記載されないと先に進まないというのが現実です。

参加者：それは、海だとそうなのですか、掘り込み式だと国に言わなくて良いとかあるのですか。

事務局：港を造るという行為はどちらでも同じです。港というのは、いわゆる漁港指定というのがあります。漁港指定をするということは、県として新しい漁港の区域を指定するということになるので、掘り込みであろうが、埋め立てであろうが、どちらにしろその行為は必要になります。

参加者：役所もこの頃は柔軟な部分もでてきているので、研究には値すると思いますよ。

F T：おっしゃりたいことは、今後、企画提案型の手法が出てくるだろうから、WSで議論するものが、そのためのスペックをリストアップすることになると良いのではないかとということですか。

参加者：それは本当ですよ。プレゼンテーションの時に役所の方が8人ぐらいならんで、三日後ぐらいにジャッジが出てしまうというのは提案する側からするとキョトンとしてしまうのです。

F T：そのスペックを行政側が市民と相談なく作るのではなく、WSやなんかの形で。

参加者：そうすれば、市民が作ったスペックになる。そして提案者の最終審査もここで審査すればすごく公明正大ですよ。

F T：あと30分を残すところになりましたがどうでしょうか。今までご意見いただきましたが、基本的には大きな考え方が一つあり、それは「このWSでやることと、このWSとは別に市に対して宿題としてやってもらいたいことを仕分けなければならないのではないか」ということです。それを一緒にしてしまうと、このWSでは負いきれないことまでやることになるし、市はWSで市がこれ以外にやらなければならないことの整理が、つかないということになってしまうので、そこをはっきりさせたいと思います。それで自分としては先ほど提案にあったように「代替案がいくつか示されているので、その中で掘り込み式を含んだ漁港施設の再検討をしましょう」という提案を受けて(2)をイメージしており、「建設以外の漁業支援、選択肢、浜小屋等の強化、浜をどうするか」を含めて(1)をイメージしていました。それをただ、利便性等で解決するのではな

第8回ワークショップ議事録

く、観光や市民生活の向上のためにどう役立てるか、ということに被せていきませんか、そういうことをここで議論していただきたいと思っていましたが、今の提案を聞いて面白いと思ったのは、今後、鎌倉市が自費で全部やるというのではなく、民間の活力を導入しながらやるという可能性もないわけではない。その時の審査というかスペックをここで整理するということに意味があるのではないか、これを考えるということは今後どうしたいか、民間が入ってきたときに我々は市民としてどういう要望をその民間企業に要求しなければいけないか、ということ整理することになるのではないか、そういう位置づけだと教えられましたが、そういう考え方に立って、この作業を進めていくというのはどうでしょうか。

参加者：良さそうですが、そのスペックというのは具体的に言うと、どういう項目のことを言うのでしょうか。

参加者：それはちょっと簡単には言えませんが、今しゃべっていることは構想ですよね。構想全体に皆で注文を付けたりにしてこの一年やってきました。それはもうちょっと先生方に入ってもらいます。よく提案協議のスペックというのは、鎌倉市のこの間のものは提案に応募する側が辟易するような文言がいっぱい散りばめられていました。ですから、そこはこの報告書等の中から上位・下位・中位と議論して、これと、これと、これだけは、提案の中の要素として外されたくないとした上で大きな枠を提案してみると、今の鎌倉については色々な提案が相当集まりますよ。

参加者：スペックというものの具体例を挙げていただけると、イメージしやすいと思うのですが。

参加者：それは行政の色々な希望が入ってくることもあります。ただ、私はこのWSで議論してここにまとめた報告内容は貴重だと思います。これが全部入ってでき上がれば、それにこしたことはありませんが、それは難しいので整理して、上位・中位・下位と決めて、それを追及して「あの地区に漁港はできます」とか「いや、もうちょっと枠を広げても良いですよ」っていえば「ついでにプールも改造してこういう風な計画の中でまず漁港を造りましょう」と色々な提案が集まると思うんですよ。

F T：例えば、機能だけだったら考えることができますが、利用や環境や景観などを考える時に、皆さんで議論していただければ「こういう注文をつけましょう」ということが議論の中で出てくるかもしれません。これがスペックになるということですよ。

参加者：がんじがらめにスペックがあると、逆に良い提案が出てこないですよ。

第8回ワークショップ議事録

その代りに出てきた提案の実現性を追求して、このWSで手順と資金とプロセスをどうする気だと質問していけば良いのですよ。その時こっちの案件が阻害されないかとかね。要するに漁港を最終的に手に入れようという大命題に向かってどういう道から行くかということですよ。

参加者：逆に言えば、こういう漁港ならごめんだよ、というのも、そのスペックに照らして考えられますね。

参加者：そうです。除外項目としてですね。そうでないと、鎌倉市のやることは密室になっちゃうんですよ。誰が審査員かわからないままに、いきなりジャッジがきてしまうということです。

F T：例えば、漁港の専門家は皆様から意見のあった掘り込み式の漁港について消極的なのですが「掘り込み式で造ったらどのくらい掘り込まなければいけないか」とか「そのために道路を上げて通さなくてはならないがそれをどうするか」とかいうことを皆さんに返答しながら、可能性のあるのかをまず詰めていただくというイメージも(2)の中に入っているので、漁対協の案の微修正をするというのではなく、もう少し徹底的に話し合います。

ただし、できない漁港を一生懸命詰めてもしょうがないので、専門家に入ってもらい「これはちょっと無理ですよ」というアドバイスをもらったり「じゃあこれはどうか、あれはどうか」というようなことをしたいです。その材料として私どもの研究室の学生が事務局と相談しながら色々と準備しますので、それを使って皆さんが議論できれば良いのではないかな、とそんな考え方で今日は来たのです。それで例えば、こんな風になったというのが出てくると、それにどのくらいお金がかかるかという話が次に出てくるかもしれません。それを詰めて行政に持ち帰って計算してもらい、いくらくらいかかるか、というのを出してもらえれば良いです。しかもお金がかかるとしても、先ほどお話があったように、今後、企画提案型で色々な出資者が出てくる可能性があり、その人たちに仮に依頼するとなれば、ここで議論したことは一つの設計条件として、要望をつけることができます。机上の空論という話もありますが、今みたいな位置づけにすれば、決して無駄ではないと私は思います。

参加者：でも、漁港を造るまで何年もある中で、秋にはまた台風が来るかもしれない、漁師さんたちが今困っている状況です。その対策は別かと思えます。

F T：応急的な話はそうですね。そのアイデアは(1)の検討結果から引き出せるかもしれません。

第8回ワークショップ議事録

参加者：どなたかもおっしゃっていましたが、費用対効果や代替案は具体的なニーズや目的のために、何をどうすると良いのかという話だと思います。その課題なり目的が皆さんあっているようで、ずれているところもあって、そこをちゃんとまず事実として資料を出していただくのが良いと思います。例えば台風被害であれば、これくらいの被害があるとか、漁業者の方にこういうニーズが具体的にあるとそれに対してこういう選択肢が今のところ考えられるんだという資料が一枚で良いのでしっかりあって、そのためにどれを検討するのか、という話だと思います。

先ほどの民間企業を入れるというのは良い発想だとは思いますが、民間企業の目的は営利であり、投資に対してプロフィットを得るということを目的にやるので、この場の課題意識や目的とは必ずしも合致しない部分があるはずなんですよね。そういうことをちょっと切り分けてやっていかないとけないんじゃないかと思います。

参加者：今の意見で具体的という方向性のトーンですが、それだと何も話が進まないと思います。今、先生がこういう方法でやりましょうかという話をさせていただいたところで、目的が何かという話になってしまうと「じゃあその目的ではないからこれは建てられない」とか「この目的じゃないからこういう形のもの造れない」などという方向性になってしまうと思います。ですからここは原点に戻って自由に発想して、あまり制限をつけずに案を出したら良いと思います。例えば「漁港と別にフィッシャーマンズワーフみたいな形で食堂やホテルとかを建てましょう」という案が出てきても良いと思います。そこの部分を民間に任せる、港の部分は純粹に行政がやる、とかっていう様な区分けをピシッとするとか、そういうところは具体的で方向性としては良いと思います。皆さんせっかく色々なご意見をお持ちなので、あまり形式ばった方向性を決めるということではなく、その意見を出し合いながら、鎌倉にとって良いものを建てるという方向性だけを立てれば良いのではないかと私は思います。

参加者：その方向性もいくつかを同時並行にある程度進めていかないとけないと思います。お金をかけたがいらなくなるかもしれませんが、一個だけで進めていくのは、後で問題が出てきたときに、目をつぶって先へ進もうということになってしまいます。事前にそのようにならないように考えて、みんなで話し合っているのはわかりますが、やはりそれだと進みません。最終的に無駄になります。二個は同時に進めないといまでも散々お金を無駄にしているから、そこでやっていると、何にも形のないものに、ずっとちまちまお金を使っているだけなので、ある程度

第8回ワークショップ議事録

無駄も覚悟して同時並行で進めていかないとダメなんじゃないかと思えます。

参加者：私もそう思っており、参加者のおっしゃることも非常に理解しているつもりですが、言いたいことは、何か具体的に絞ってということではなく、課題や目的となったときに、当然漁業者の方の安全や水産業の振興やあるいは観光、地産地消とかいくつか目的はあると思います。それに対して、このアプローチであれば二つの目的に合致するなどの課題を解決するなど、もしかすると、もっと自由な発想から出てきたアプローチが三つ四つの課題を解決するかもしれません。そういうのは良いと思うんですよね。ただ、それを前提として整理して皆で出発しないと、話が噛み合わないんじゃないかなということが言いたいことです。

参加者：ちょっと確認といえますか、これは基本的に前回やったWSのまとめがありますよね。そこでは、漁港は現状では無理であるというところが一番だと思っていますが、それを踏まえてこれをやろうということは良いのですよね。それともう一つ確認なんですけど、漁港をどんなものを造れば良いかということではなくて、(1)も含めて代替案を考えるということですよ。

F T：それはこれからの話し合いですが、私のイメージとしては「浜を中心に考えたらどんな浜になるんだ」また「漁港を造るとしたらどんなことになってほしくないからどうすれば良いんだ」ということを今のうちから考えるということです。

参加者：それは代替案としていくつか考えてくださるということなので、(1)も含めて考えてくださるということで良いんですよ。

F T：どっちかをやるということではなく、それぞれ「この場合はこう、この場合はこう」というように考えます。例えば、(1)も(2)もいくつかの案が出てくるかもしれません。

参加者：わかりました。(2)だけになっちゃうのかなと思ったので確認です。まず前回は踏まえて今回はスタートですねということと、(1)も含めて代替案を考えてくださるということですね。

F T：考えてくださるのではなく、皆さんで考えるということです。

参加者：でも代案は出してくれるんですよ。

F T：代案は出します。

参加者：それを基に、ということで。

参加者：少し出た代替案に関してですが、掘り込み式の再検討というのを、専門家を交えてということだったのですが、どう進めるのかイメージが見え

第8回ワークショップ議事録

ません。私たちが再検討しようとしてもできることはないのです。

F T : 例えば、彼[漁港漁場漁村技術研究所の職員を指して]は私の友人でかつ漁港の専門家だが、彼に掘り込み式でこの規模で造ったらどうなりますか、ということ投げかけて、彼にラフな絵を書いてもらいます。それを基にして我々が模型を作って皆さんに提示して「掘り込み式にするにはこのぐらいの掘り込みが必要で、そのために道路をこうしてやらなければなりません」とします。それで「じゃあ、この道路の傾斜はどこまで来るんだろうか」とか「例えば、こうはできないのか、こうはできないのか」という話を続けていきたいと思います。

参加者 : 建設会社とか、将来仕事になると思えばタダで、漁港を造るとしたらこういう規模でこんなくらいでというのを一個ぐらい出させることはできないのですか。

事務局 : 今、F T からご説明がありましたように、代替案については私の方で、通常港湾の土木をやっていると、メートルあたり大体いくらという概算工事費の算出というのをやりますが、それで概ね一つの施設を造るのにいくらぐらいかかるのかとか、今言ったような掘り込み式をするのなら、土をどけるのにどのくらいお金がかかるのかというのを概略的につかむことができます。そういうものを提示することにより、例えば A 案だったらいくらぐらい、B 案だったらいくらぐらい、というのは示すことができます。先ほどから出ている B/C の話で、効果というのはどちらでも大きく変わらないと思うので、当面は皆さんに建設にどのくらいかかるかというコストの部分指標にさせていただくという感じを受けております。

また、今ご提案のありました一般の建設会社にサービスで素案を書いたただけないかという話がありましたが、おそらく5年前、10年前くらいには積極的にサービスしてくれる会社があったと思いますが、今は皆さまご存知のように総合評価とか一般競争入札のように完全に仕様や工事の内容が公表されて誰でも入札できるという状況になっており、そのような中で、建設会社やコンサルがそこにサービスを投資するというのは中々難しいというのが現状です。ある程度地場のものを知っていて、このぐらいだったら少しサービスするよという部分的なサービスは得られますが、中々皆さんに満足していただけるような、絵まで仕上げていただくというのはちょっと難しいのかなと思います。その意味ではなんとか私の方で概略的な絵のイメージなどを作るので参考にさせていただけたらという様に考えています。

参加者 : 要するに代替案、掘り込み式もあるが、先ほど市から少し意見がありま

第8回ワークショップ議事録

したが、これをどう具体的なものによっていくのかというイメージがないので、それをどうやるのか提示していただきたいです。もっと話をまとめて提案していただくのも良いです。今の段階で私たちにもっと具体化しろというのは無理です。

参加者：パワーポイントの次のページで最初おっしゃっていましたが、分けてやっていくというのが具体的な方法の提案なんですよ。

F T：そうですね。

参加者：ここに行く前に、次回の提案なのですが、代替案が具体的に4つか6つ出ています。掘り込み式、腰越、小坪、逗子マリーナ、和賀江嶋、浜小屋、これらそれぞれについて、もう少し今わかっている状況や準備できる範囲で「こういうイメージになります、こういう費用になります」というのを一回ちゃんと整理して出してもらうのが良いんですよ。その時にさっき言った目的がいくつかあるはずなので、漁業者の安全性という目的があるとしたら、掘り込み式漁港の上に施設を造り、観光や地域活性化みたいなものもできるとか、逗子マリーナでやるんだとしたら、そこに朝市みたいなものを作って地産地消を推進できるとか、あると思うんですよ。これの選択肢と課題を解決できること、目的を整理したものを出発点としてやるべきではないかと思います。

F T：腰越などとの共同利用や和賀江嶋の活用ができないのか、については行政からおそらく大変難しいという話が出ると思います。あくまでも提案なのですが、一つ的前提は、今後漁業者が安全に漁業活動ができることがまず狙いの一つであり、同時に、鎌倉観光と市民生活の向上に向けてそれがどんな寄与をするのか、ということまで一緒に考えませんか、というのが言いたいことです。参加者がおっしゃったように漁業活動の意味を再検討しましょうと言われてしまうと、身動きが取れなくなってしまうが、参加者の方が漁業活動の安全について考えてよろしいということであれば進めます。

参加者：三つのグループに分けようということなんですか。

F T：そういう可能性がないこともないですが、(1)にしる(2)にしる、いずれにしる観光や市民生活と関わりを持ってくるわけですから、これを被せることを前提にしてやってはどうかということです。つまり、単に機能的な問題の検討だけなら、行政でできるわけですが、皆さんの観光や市民生活の向上というものを被せたときにこれがどう変わるか、ということをやってみたらどうかということです。

参加者：じゃあ、前年度出た具体的な代替案ごとに検討グループを作るのではな

第8回ワークショップ議事録

く、三つの方針に従って。

F T :たとえば(1)をやりたい人、(2)をやりたい人に分かれて。

参加者 :二つに分かれるのですか。

F T :例えばです。2チームに分かれて検討し、それをお互いに発表するというイメージでした。

参加者 :このことに関心を持つのは当然のことですが、このWSのそもそものことからいって、やはり港を造るという大きな前提が漁対協で出て、それについて皆でどう考えるかという議論から、段々と造るだけではないということで、選択肢が出てきています。いずれにしても、私が先生と事務局の話を聞いて思うのは、最初にも申し上げたかと思いますが、議論のための議論であり、変な言い方をするとお遊びやゲーム感覚で「こういうことだったらどうだろう、こうなったら良いね」とか、現実にならないものに本当にお金や時間をかけて良いのかと思います。先程の参加者の方もそれに近いことをおっしゃっていたが、いずれにしても、そこを逆に言えば市が「いや、これは造るんですよ。大体20億円なら、市は5億円で県と国から10億円もらえるんだから、やはり推進して他の県で港造るよりも鎌倉に引き込んだ方が良い。できますよ。」とその後「維持費について、毎年1億円ぐらいだったら付けられます。だから具体的にもっと積極的に進めましょう。さあ、どういう方法が良いかな。」というのであればわかりますが、その辺が全くわかりません。あるいはお金がつかない、つきっこないだろう、というような前提で「あなた同調しますね」と言われても困ります。果たしてそれに意味があるのかどうか、というのが一番前提の問題です。それに税金の使い道として、こうやってお金かけるということについても、もっともっと福祉で足らなくなっている時代に、実現もしないようなものだけに時間とお金をかけるというんだったら、鎌倉市の考え方はおかしいんじゃないかと私は思います。

参加者 :すみません。だからそういった市の考え方がおかしいとか、お金はつかないかもしれないからこんな議論をしてもしょうがないというものもあるとは思いますが、ここは前提として、実現するかわかんないが、とりあえずこういったモデルっていうのを作ろうっていうところなんですよ。

F T :そういうつもりです。

参加者 :そうですね。それだったら、議会で予算がつかない限りはやってもしようがない、という話になってしまいます。だからそれを言い出すと、それはお金がついてから、じゃあまたここでやりましょうという話ですよ。

第8回ワークショップ議事録

参加者：それでも良いと思います。

参加者：それでも良い人は予算がついてから集まれば良いし、じゃあこのWSは予算がつかなくても理想のモデルを作る会ですよとする。それに賛同する人だけが来れば良いじゃないですか。

参加者：そういうことにするのだったらそういう依頼になるのだが、今までの流れの中ではそうではありません。

参加者：今後どうするかということじゃないですか。だから市役所や先生にバシッところ、と一任して決めちゃえば良いじゃないですか。

参加者：賛同する人はついてきてくださいとするのですか。

参加者：だって、いつまでたっても意味ないですよ。

参加者：たった今お話があったように、予算がつかしました、集まってくださいと言ってもこんな論議でいつ予算が執行されるのかわかりません。逆に今年度で執行しなくてはならないとなった時に、そこから検討に入ったのでは何なりません。逆に行政の良いように漁港を造られちゃうという話になります。できるのか、できないのかという話ではなくて、今こうやって話をして、我々の意見としてはこういうものがほしいね、というのを提示しておかないと、いざ何かあったときにやはり遅いということになってしまいます。ですから、その前段階としてこの話をしているのであって、予算がないから今できない、国にもお金がないなど、でもお金はどっかにいってるんですよ。そのお金をもってこられれば、ベストな状態です。子供がお小遣いを親にねだるとき、プラモデルを買いたいからお小遣いを頂戴っていうのと、ただお小遣いを頂戴というのでは、やはり親の対応は違うと思います。それと同じだと思います。やはり今の段階で市民の意見を提示しておかないといけないと思います。ですから、このWSで議論して良い方向に持っていきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局：参加者の意見に関してですが、市も何もプランがなくして予算をつけることはできません。ある程度市で考えた机上のプランで予算要求をしたとしても、どうやって決めたんですかということになります。例えば、こういったWSや協議会などで十分意見を聞いて、こういった方向で参加者は考えている、市としてもこのようにやりたい、ということであれば、予算要求をするにしても全く違う話です。こういう集まりが全くなく、ただ思いつきの様に市で予算を要求したとしても、まず通らないと思います。そういう点で市としては、漁港についての事業を立ち上げていますので、このWSや今までの協議会の成果を踏まえて、財政課に説明す

第8回ワークショップ議事録

る材料として貴重な意見とします。議会としても、2年前の予算については修正予算ということで出していただいていますし、その後のWSの方向というのは非常に注目されているところだと思います。だから、ある程度の方向が出れば、当然議会にも報告しますし、予算要求の際には、WSでこういう検討結果が出て、こういう意見をいただいていますとなります。市としてもそれに向かってやっていきたいと予算要求できると思いますので、やはりこういった過程の中では、こういった話し合いというのは大変重要なことだと私は思っています。

参加者：報告書の中でも費用対効果の分析の実施についてありますよね。色々な意見の中に、必ず算定できるはずであるとあります。なので今回、漁港の整備を考えるのであれば、費用対効果の分析についてどっかで実施したいわけですね。

F T：コストは計算できますが、効果が難しいのです。

参加者：ちょっと話がまたずれて恐縮なんですけど、なぜこのWSを作ったかという話になりますが、目的に対する一つの案としての漁港建設は、3月の段階で、ほぼ具体性に乏しいだろうという話がありつつ、ただ、当事者の方たちは喫緊の課題があるとなりました。それをほっとくわけにはいかなんじゃないですかという議論だったと思うんです。今おっしゃったように、ある一定の前提があって、漁対協案でも、机上の空論でも、理想論でも、それを前提でやるんだという前提をはっきりさせてやることは、それはそれでわかりましたということなのですが、じゃあ、その間に喫緊の課題はほっといて良いんですか。ほっといて良いのであれば、やってもしょうがないです。一から作りかえた方が良いのではないかと思います。現に今壊れた台風被害など、今の状況が絵になるまで5年や10年かかるかもしれません。その間ほっといて良いんだったら、無理して継続する必要なかったんじゃないかと思います。

F T：現在は、起こった災害に対してどのように対策しているのですか。

事務局：今回の台風4号の時には浜小屋の被害はほとんどありませんでしたが、浜崖ができて船の出し入れができなくなりました。それには県の緊急養浜対策で対応していただき、砂を入れてもらいました。この間一週間程度、出漁ができない状況です。2年前はもっとひどく、浜小屋のほとんどがつぶれたり、屋根が壊れたりや浜小屋の床に砂が何十センチも溜まって、その復旧に大変な時間とお金がかかりました。それから漁船も被害を受け、その時はかなりの被害金額になったと思います。それに対しては、我々は特段手当ができず、漁業者の皆さんが自らかけている保険や

第8回ワークショップ議事録

自分たちで浜小屋を復旧されたりということがあります。大きい台風は3年に一度程度あります。以前はそれほどなかったと思いますがここ10年ほど今まで以上に被害の発生頻度が高く、被害額も大きくなる傾向にあります。

参加者：喫緊の課題があるから、それに対する対策としてどうするかという話があり、その案として漁港という案がありました。それが難しいなら、じゃあどうすれば良いんですかというのが私の理解なんです。だとすると、喫緊の課題は5年かかるか10年かかるか知りませんが、とりあえずほっといて、問題があっても何らかの形でしのげるのであれば、何でもとも漁港を造る必要があるんですか、という話になってしまいます。暴言で恐縮ですが、ほっといても何とかしのげるのであれば、そもそも何で漁港が必要なんですか。

事務局：先生が言われた(1)の浜を使ってやるとすればという議論でできると思っています。例えば、10年、20年先になってしまいかもしれないということで、こんな話を今してどうするんだということもあるかもしれませんが、これだけの人が集まって話をしているので、すぐに着工できないということであったとしても、ここに漁港を造るのに何が課題で、どの様に克服すれば造れるのかという議論をする下地を、去年も話し合った中で、できているのではないかと思います。例えば、我々がこれから漁港を造っていく時に、どういったものであれば、近くに住んでいる方や海を使っている方などが、納得していただけるのかをやはり知りたいです。

参加者：それであれば理解できます。(1)というのはむしろ、現実的な目先の課題の対策を考えるチームであり、(2)が言葉は悪いですが、空論というか理想論追求チームということなんでしょうか。

F T：そういう位置づけはそのグループが段々と決めていくことだと思います。現実の問題をとにかく克服すれば良いという位置づけで(1)を進めるのか、それともより長い期間で浜の問題を考えましょうというのを(1)のチームが課題化するかはまだわかりません。

参加者：それならわかりました。

参加者：(1)の方はどんどん具体的につめてもらって浜小屋とかに活かしてもらいたいと思います。先ほどの費用対効果の話ですが、市から費用とか良いから、まず案を作ってそれから費用を出して、それで予算がとれたらラッキーのような話がありました。そういう風に聞こえます。まず費用は良いから案を出しましょう、という様に聞こえたんですが、それが今の行政のすごい問題なんじゃないんですか。民間で言えばビジネスプラ

第8回ワークショップ議事録

ンであり、効果が難しいと言いますが、それを一生懸命算出していかないと予算の有効活用なんてできないじゃないですか。ですから、掘り込み案の再検討をするのは良いのですが、費用ももちろん出し、効果もできる限りきちっと検討するべきだと思います。

F T : 案が出ればその概算のコストは計算できるのでそれは出します。決していくらかかっても良いということではありません。

参加者 : それだけの意味があるかをきちっと議論しましょう。

事務局 : 今F Tが言ってくれた通りで、私の言い方が悪かったかもしれませんが、お金で縛ってあまり意見が出てこないというのは、良くないと思います。意見を出していただいて、ここまでやるとこれだけかかります、というのを出していくというお話をしたつもりでした。

参加者 : 家計でも企業でもお金を使うとなれば、どれだけかかるか全部イメージしながらやるのが当たり前でしょう。

参加者 : お金がかかる、だから、お金がないからできないでしょう、というのが、昨年度の現実的ではないというものの根拠ですよ。それはそうだと思います。これからの日本を考えていくときに、そんなに土木工事に色々なお金をかけられる状況ではないと思います。でも、お金だけでこういうプロジェクトの是非を判断して良いのかと思います。私が言いたいのは、では漁港をお金があったら造って良いのかということはどうして考えないかなと思います。

夢物語かもしれないが、どっかの企業や鎌倉市で、由比ヶ浜を整備しなくてはならないから予算をつけようとなった時にお金がないから検討しなかったということだと、じゃあお金がついたからそれは造らなければならなくては、いけないと思います。その時に、今まで市民の声をくみ上げておかないと、漁港ができてしまうと思います。私が気にしているのは、先ほど参加者の方がスペックとおっしゃいましたが、ここで市民がスペックをちゃんと作っておかないと、行政主導あるいは企業主導の漁港を造られてしまうんじゃないかと思います。お金だけが歯止めになっているから、我々としてはお金のことは今回は別にして、こういう漁港は造ってほしくないという意見をちゃんと出しておかなければいけないと思います。そのためには、具体的に今ある代替案を検討する、あるいは我々が理想とする浜の使い方を検討する、あるいは別のところに移した方が良いんじゃないか、あるいは環境的にはどうか、観光的にはどうか、景観的にはどうかという様に、こういうのは許せるけどこういうのは絶対に鎌倉にふさわしくないという意見をちゃんと積み上げていかなければ、お金だけが歯止めというのは後ですごく痛い目を見る

第8回ワークショップ議事録

んじゃないのかな、というのが私がこのWSに参加している本当の意図です。

参加者：一つだけ確認したいのは、F Tが先程、代替案で出されたものは多分全部無理だと市から説明があるはずですよとおっしゃいましたが、これから議論していくときに、去年出した代替案が無理という前提でゼロベースからもう一回考え出すのか、それともある程度これを踏まえた上で、それが本当に無理なのかというのを詰めていくのか。先ほどの話だと、もしかすると掘り込み式などができるかもしれないじゃないですか。あるいは先ほどのPFIの話などをすれば、資金的にもできるものがあるかもしれないですよ。あるいは浜小屋のように喫緊のものについてはすぐに予算を付ければできるものもあるかもしれません。そういう出発点というのが私は建設的だと思っていて、またゼロベースでスクラッチで、自由に考えましょう、とやるのは少し建設的じゃないという気もしています。そこはどちらなんですか。

F T：まず、今の状況ですと、次回の見学会はとてできないので、WSにしなくてはならないと思いますがそれは可能ですか。

事務局：可能です。

F T：それで、今のお話にありました、前提条件をちゃんと整理して、何を検討するのかをちゃんと明文化してほしい。それまでに、市として宿題としてやらなければいけないことと、我々が作業として取り組むべきことをちゃんと整理します。同時に昨年来の代替案がいくつかありましたが、その代替案については、こういう事情で妥当ではないという見解を市がお持ちであれば、それをご披露頂いて説明をしてもらいます。例えば、和賀江嶋がなぜいけないのかなどです。その上でよろしければ、概ねこのような方法で作業を開始したいと思います。(1)と(2)に分かれてやるべきなのかも含めて次回に検討したいと思います。同時にどういう作業をするのか、作業イメージがわからないという意見もございましたので、作業イメージが湧くような準備をこれからします。例えば、こんな風に検討したらどうでしょうかということをお示しいたします。こうやっていく中で、例えばどちらの問題に関心をお持ちかによってその次に見学会をやり、その見学会で関心に応じて色々質疑応答をしたり現場で意見交換をしたりするというのをやって、段々と作業に入っていきたいと思っています。よろしいでしょうか。(同意)

ありがとうございます。そのように作業に入りますので、ぜひともご参画くださいますように。

参加者：資料は事前に送ってくれるんですね。

第8回ワークショップ議事録

F T : 内容についてですか。どういう検討をするかについてですか。作業イメージについてはここでご紹介します。

参加者 : メールで意見を言えるのか。メールアドレスがあるのか。

事務局 : 私どものところの通知にあると思います。また市の産業振興課のHPを見ればわかります。

参加者 : 作業イメージもできるだけ事前に知らせていただくと、意見をもって参加できると思います。

F T : できるだけやります。それではどうもありがとうございました。

終わりに

事務局から次回の日程調整、閉会挨拶を行いました。

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第9回ワークショップ会議録

日 時：平成24年7月28日（土） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市役所 第3分庁舎講堂

参加者：公募市民：10名 関係団体：10名 計：20名 傍聴者：10名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生7名

プログラム

第1部

- ① 第8回ワークショップの議事概要
- ② 漁対協案と代替案の定性的な比較

第2部

- ③ 検討テーマについて
- ④ 全体ワーキング

終わりに

- ⑤ 次回のご案内

配布資料

第9回ワークショップ 次 第

資料－1：第8回ワークショップで出された主な意見

資料－2：漁対協案・代替案の定性的な比較

資料－3：解決したい課題とその対策例および懸案事項

第1部

① 第8回ワークショップの議事概要

第8回ワークショップの議事概要について、事務局から「資料-1 第8回ワークショップで出された主な意見」より概略説明を行いました。

その後、以下の通り意見交換が行われました。

参加者：話し合いを行うにあたってのところになるとと思いますが、前にどなたかが発言した、この部分は絶対駄目ということだけを示しておけば他の案などは考えなくても良いのではないかと、という意見があったと思います。それでまとめてはどうかという意見があったと思います。

事務局：その意見は付け加えさせていただきます。

② 漁対協案と代替案の定性的な比較

漁対協案と代替案の定性的な比較について、事務局から「資料-2 漁対協案・代替案の定性的な比較」について、概略説明を行い、その後、意見交換が行われました。

事務局：それではお手元の資料-2の方をご覧くださいと思います。非常に文章が多くなってしまっていますので、少しわかりにくいかと思うのですが、かいつまんでご説明をしたいと思います。

最初に申し上げておきたいのは、ここに示しました内容については、全てを網羅している訳ではございません。あくまでも概略的な入口という風にお考えいただきたいと思います。昨年度のワークショップ（以下「WS」という。）の中でいくつか代替的な案があるのではないかとという風に、過去、お話をされていった中にも出てきた訳ですけれども、まずは鎌倉漁港対策協議会（以下「漁対協」という。）等で話し合われてきました埋め立てによる案、それに代替するべく掘り込み式の案、そして和賀江嶋を再整備する案、現況の機能を強化させて何とか今の形で運営できないかという案、それから、周りに色々港がありますので、そういった港に機能を移せないかという案、というのが概ねあったと思います。

今、ここに申し上げた五つの案を並行的に比較させていただいて います。一番上が概要ということで、埋め立てによるものなのか、掘り込んで港を造るのか、この二つが港を造るという大きな案になります。代替案の2というのが和賀江嶋の案ですが、ここは、今皆さんの前に大きな地図がありますが、一番こちら側ですね、奥の方にあります和賀江嶋、鎌倉時代の港だったと言われておりますが、ここを再整備してはどうかという案。現況の機能等を今ある位置、それぞれポストがあると思うの

第9回ワークショップ議事録

ですが、坂ノ下、材木座、飯島、これらの部分でそれぞれ機能を強化させてはどうか、あるいはどこか一箇所に集約できないかといった議論があるかと思います。それと、この浜からは漁港の機能をなくすというか移行させるのですが、周りに、例えば鎌倉市で言いますと腰越漁港とか、色々な港を利用できないだろうかという案が出されています。それぞれこういった整備を考えた時に、考えられる影響というものを表の中では一番左側に示しています。例えば地形や自然に対する影響、あるいは海域利用への影響、それから、自然環境、そういったものに影響があるでしょう。あるいは景観や眺望、物を造れば当然景色を変えてしまいますので、そういった影響を与える可能性があります。同じく、そういった関係から、観光あるいは交通などに影響があるのではないかと、といったことがここに整理してあります。

大きく申し上げますと、まず皆さんが十分ご懸念されている通り、例えば埋め立てをしますと、その埋め立てによって新しい施設が海にできますので、それによって波の流れに影響が出ます。そういったもので、現状の浜の地形などに影響が出るでしょう。あるいは浜の利用についても波の影響により、例えばサーフィンを楽しんでいる方などへの影響は十分考えられます。その一方、港を造るということは、今ある浜小屋といった機能を浜から撤収することになりますので、浜全体の利用に対しては寄与することが大きいのではないかと、いう風に考えています。

一方、やはり、物を造る場合には、特に埋め立て案、従前から色々ご意見が出ていましたが、直接的に藻場ですとか、岩礁帯、生命のゆりかごと言われておりますが、そういったところをつぶしてしまう可能性があります。その影響がどのくらいなのかというところに気をつけておく必要があると考えています。このような問題が特に港を造る時に多く出されてくるだろうと思います。

もう一つ、港の整備の代替として和賀江嶋という話題が、これまでもこのWSでも出されています。ちょうど中段真ん中あたりに赤い字で示しておりますが、この和賀江嶋については、国指定の史跡です。これは従前私どもの方からも申し上げている通りで、中々ここを整備するというのが現状では事実上不可能であるというのが現段階での結論となっています。遠くの方は少し見づらいので後ほど動いていただいても構わないので、和賀江嶋を見ていただきたいのですが、和賀江嶋の周りに青の線が入っております。少し図面範囲を超えていますが、これが史跡としての指定の範囲です。思ったよりも広いところで、この範囲の中は事実上、

第9回ワークショップ議事録

手はつけられないということですので、その辺はご理解いただきたいと考えております。

現況の浜にある機能を強化したりする場合、こういった影響が出るかですが、現況を全く変えなければ当然影響もなく、今のままですが、それでは浜で今解決したいことが十分対応できません。それに対して、例えば今ある斜路の機能を強化すると、浜への影響が当然出てきてしまうということが言えます。

もう一つは、浜小屋を集約することにより周辺のどこかの浜を解放し浜の利用を向上させるということも考えられますので、その辺のところを取捨選択して考えて行けば、もしかしたら素晴らしい案ができるかもしれないので、今後も少し話を進めていけるのかと考えております。

最後に他港への移行ということですが、これにつきましては、現在私の方で多少なりとも把握しておりますのは、とりあえず、周りにいくつかの港がありますが、そこでは漁業をするスペースも含めると、漁船を受け入れていく、漁業をそこで営んでいくというスペースが確保できない、ということはつかんでおります。実際にマリーナなどのプレジャーボートを停めるようなスペースでは、漁船という漁業が入り込むスペースが中々難しいということを考えております。マリーナというのは基本的に大型の船を水面係留し、小型の船は陸揚げするということになっておりますので、利用の仕方としても、やはり、通常前浜へ出ていきたいという漁業とは少し使い方が異なってまいりますので、その辺の問題もあって、他港への移行というのは難しいのではないかという風に考えております。ここで他港への移行ということについて少し詳しい情報を事務局の方からお伝えしたいと思います。

事務局：お手元の2枚目の方に周辺のどんなところに港があるかというのを示している図があると思います。坂ノ下、材木座、といった地区から考えますと、江ノ島の湘南港、腰越漁港、逗子マリーナ、小坪漁港、葉山マリーナがあると思います。

葉山マリーナのところには隣接して葉山港という港がありまして、こちらの方でもプレジャーボートの受け入れをやっていると思いますが、そういう形になっています。

湘南港に関しましては、今、陸上係留のところにディングーヨット129隻の空きがあるということですが、これはもう陸上に係留する小型の船の置き場です。全長5m程度のものです。

それから、腰越漁港に関しましては、ただいま、漁船が全部入りきれて

第9回ワークショップ議事録

いません。充足率としては 88%程度という風になっておりまして、余裕はないということです。

それから逗子マリーナに関しましても、基本的には余裕がないということと、民間マリーナですので、常時係留という形になりますと、非常に金額のかかるものです。例えば係留ですと、保管料が 1 年間で 286 万円というのがホームページに出ています。それ以外にも保証金ですとかそういったものが掛かりますので、一般的に民間マリーナ、例えば葉山マリーナと言ったものも、同じような料金設定になっているところでございます。

小坪漁港に関しましても、今現在使われている漁港でございまして、これに関しても、鎌倉の漁船を全部受け入れるほどの空きはないとのことですので。受け入れたとしても数隻であろうということをお願いしております。それから、葉山港も葉山マリーナの方も、今のところ空きが無いという状況です。以上です。

事務局：「資料－2 漁対協案・代替案の定性的な比較」の一覧表に戻していただきたいのですが、私どもが今回この構想を色々検討していく上で大きな課題となっておりますのが、道路交通等への影響があります。今、元々の坂ノ下の埋立地の前面側に埋め立て式で造る場合には、当然そこと港をつなぐための出入り口が必要となってきますので、そういった出入り口を造ると 134 号線への影響が出るのではないかとということが懸念されます。実際には、この一番下のアスタリスク印、真ん中になります。漁業者の方々が 100 人も 200 人も出入りする訳ではありませんし、事実上ここの出入りの利用は早朝、どんなに遅くとも昼までということで、時間帯としては交通量のピークとなるころとは概ね外れてくるので、それほど影響を与えるものではない、軽微だろうと想定しております。

例えば、皆さんの中からも再度検討してほしいということで掘り込み式というお話が出たのですが、ちょうど今一番向こう側の市営プールの前、あるいはその背後、といった土地を利用して掘り込み式ができないかということですが、そこと海との間に 134 号線が通っている関係で、そこと海との間は航路で船が行き来できるようにしなければなりませんから、当然 134 号は少し路面を上げて橋梁化してそこを乗り越えなければならぬという課題が考えられます。この二つの埋め立てなのか、掘り込みなのか、というのは道路の部分をお互いに検討しながら、何が良いのかということを検討しなければいけません。それと、下から 2 番目の欄で

第9回ワークショップ議事録

すが、主な工事ということで、本当は皆さんへ具体的な金額を挙げさせていただければ良いのですが、規模をどのくらいにするかということがまだ明確になっていませんので、中々金額として皆さまにお示しすることはまだ難しい段階です。最終的にもう少しWSが進んでいく段階で、金額的なものがもし提示可能であれば、概算ではありますが、私の方からお出ししたいと考えております。ここでは、どんな施設が想定されて、どんな工事が考えられるのか、といったようなことを挙げさせていただいています。一番左の埋め立てからいきますと、例えば防波堤とか護岸、係船岸、それから当然埋め立ての工事が入ります。それから港の中を通すためのアクセスも含めて道路の工事が必要となります。それと、将来的には維持管理のための泊地や航路の浚渫ですとか施設の維持補修費等が掛かってきます。これは、どこの案をとっても大体同じなのですが、例えば掘り込み式ですと、先ほどの話のように、134号関連の工事を含めなければならないということがあります。そういった内容をここに列記させていただいております。今、浜小屋は砂地の上に建っていますが、そこをしっかりと人工地盤化して波の立たないところ、波の上がらないところに浜小屋を作れるようにしてあげたり、ということも考えられます。そういった施設の整備はお金が掛かります。他港への移転ということは、他の港を造る案ほど金額は掛からないのではないかという考えです。もし他港へ移るのであれば、再整備の必要がなければ今以上にお金が掛かるということはありませんので、そういったことがこの主な工事の欄に書いてあります。

先ほど申し上げたように、和賀江嶋の案と他港への移行という案、この二案については、今の和賀江嶋の史跡としての状態、それと今ご説明しました他港には十分なスペースが無いという二つの条件がございますので、この二つの内容については、今後このWSの中で検討をしていっても、実現に至ことは難しいので、基本的な検討項目からは除いていただければ良いのかなという風に考えております。

従いまして、今後、この左側の二つの案、漁港として何かを造る案、それから、今の浜の状態をより良くしていく案、この二つの案が主な検討としてはあるのではないかと考えています。これはあくまでも具体的なイメージをつくる場合ということですので、先ほど提案や意見のあった制約事項だけを提案すれば良いのではないかというのも、当然、含めていただけてよろしいと思います。先ほどちょっと見ていただいた図などがあるのですが、埋め立て式というところで平成22年度と書いてありま

第9回ワークショップ議事録

すが、これは第3次の漁対協等に漁業者さんからの提案で出させていた
だいた平面の案です。これは、全体の規模としてはかなり大きくなって
いるとイメージしていただいて良いと思います。ただ、例えば、天日干
し用地ですとか天日加工場ですとか、スロープの延長ですとか、本当に
これで足りるのかという精査は必要です。ですから、漁対協でこれが認
められたものではございません。掘り込み式については、過去、具体的
な資料というのが市の方から出されている物がないので、イメー
ジとして県内の平塚漁港、これは相模川の中にある古い漁港ですが、こ
の平面図です。あと、既往施設の強化の方につきましては、提示できる
資料がございませんので、今回は提示を割愛させていただいております。
あと、参考ということで先ほどご説明のあった周りにどんな港があるか
という資料になっております。資料-2については以上です。

参加者：資料に関する質問が三点ほどあります。

他港への拠点移行は難しいということで検討から外すという話があり
ましたが、施設の機能強化との組み合わせで案があり得るのではないかと
いうのが一点です。例えば緊急の時や台風の時には、他港を借りるとい
う案があるのではないのでしょうか。

二点目として、腰越漁港の充足率が88%という話でしたが、隻数でど
の程度の余裕があるのか教えていただきたいです。

それから、アスタリスク印のところに周辺交通への影響に関して書いて
ありますが、実際に周辺に住んでいる者からすると、朝の通勤時のマイカ
ーでの渋滞に重ならないのか、渋滞以外の騒音や匂いなどがこの資料には
盛り込まれていないようですが、その影響についてどのように考えている
のか教えてほしいです。

事務局：一点目の、現況の施設の強化と部分的な他港利用についてですが、荒天
時に小型船を他港に逃がすという考え方はあると思います。ただ、漁業
者というのは多くの漁具を持っています。これは是非現地に行って漁業
者さんがこういうことをやっているというのを皆さんにも理解していただ
きたいです。たくさんの道具と網を直したり保管したりするような
色々なスペースが必要です。そういった機能を併せて他港にもっていく
のが難しいということです。逃げるスペースとしての他港はあり得ます
が、漁協全体を動かしていくのは難しいということです。例えば、自分
の家の普段使わないものをコンテナ倉庫に入れるということはできるだ
ろうが、漁業の場合、毎日使うものがあったり、季節ごとに入れ替えたり
する必要があるので、ある程度の規模のものは一度に動かさなくては

第9回ワークショップ議事録

ならないということをご理解いただきたいです。

また、腰越の隻数ですが、腰越の場合は鎌倉と違い多少大きめの船もあります。最新の平成22年度のデータだと71隻あります。その内訳ですが、鎌倉は1トン未満の船が多いですが、腰越には5トンから10トン、10トンから20トンと、トン数で言えば圧倒的に大きい船があります。充足率88%というのは、腰越の整備後に実際の隻数・大きさを勘案し係留可能な延長を充足率の計算法から算出すると、係留する船に対して必要な延長の比率が全体で88%であり、まだ100%に達していないということです。ただし、新しく造る部分に幅20m程度の斜路式の船揚場があり、これについては鎌倉漁業協同組合（以下「漁協」という。）が台風時などに一時的に避難できるような部分として確保しています。小さい船が15、16隻入る程度のスペースです。いずれにしても計算上ではありますが、今の腰越の船、小型の船を一時避難させたとしても、まだ100%の充足率は満たない状況です。拠点として移行するのは大変むずかしい状況です。

最後の騒音・匂いについては考慮しなくてはならない項目だと思えます。話が進んでいく中で検討しますが、影響がないということはないと思います。腰越の時にも騒音や臭気などについて想定しているので、鎌倉で整備する場所が決まれば、その調査や実際に漁港を使用する際の臭気、工事の内容によって生じる臭いについてもきちんと予測し、対策を立てることが必要となってくると思っています。

参加者：今の説明がよくわからなかったのですが、12%の空いている部分の隻数がどのくらいあるのかということと、それプラス15、16隻は緊急時に対応できる、つまり30隻ぐらひは腰越の方にスペースがあると理解して良いですか。また、今必要となる隻数をもう一度確認したいです。

事務局：100%というのがちょうど充足しているということであり、それに対して88%というのは満たしていないということで必要な係船施設の延長がまだ12%不足しているということです。船の大きさにもよるので何隻分ということではできませんが、延長として私たちが考えているのは、あと50m程度の延長が腰越で確保できれば100%となるというのが、腰越漁港改修整備の設計時に出されていた数字です。

参加者：腰越で50m伸ばせば、鎌倉の分も入るといふことでしょうか。

事務局：そういうのではなく、腰越の船のことです。

参加者：では腰越も今、入りきっていないということでしょうか。

事務局：計算上はそういうことです。腰越では本来係留するところではない防波堤の裏などに係留してしのいでいます。今回の整備ではそれを何とかし

第9回ワークショップ議事録

ようと、防波堤の裏の一部に係留できる場所を認めてもらっていますが、斜路式の船揚場や岸壁部分を係留できる施設と考えると、やはり不足しているということになります。

参加者：この資料は少し足りないと思うところがあります。これまでの経緯で漁対協案埋め立て式というところで、第3次漁対協案として提示されています。こういうことが載っているにも関わらず、去年自分たちが行ったWSの成果が入っていないのはなぜなのでしょう。これまでの経緯としては重要な成果が出ているはずなので、それは載せていただきたいのですが、なぜ載っていないのでしょうか。

事務局：去年、例えばこの漁対協案に対する代替案はどのようなかという意見が出されたと思いますが、漁対協案、それに対する代替案としての掘り込み式、和賀江嶋という案が出されていたと思います。去年の報告書にある皆さんから出された代替案を評価項目に並べて書いたつもりです。今の意見はどのようなことを意味しているのでしょうか。

参加者：去年のWSの成果に「漁港建設が前提であるべきではなく、現時点では経済的にも東日本大震災に見舞われ、無理である」とここまで書かれているのに、どうしてこれがここに入っていないのでしょうか。

それから言えば、漁港を造る案は現時点では、無理ということになっているのに、それが書かかれていません。また、他港への拠点移行を簡単にここで外そうとしているのもおかしいです。この一年、三年など短い期間で解決しなければいけない問題がたくさんあるのに、どうしてすぐにできるかもしれないことをはずすのですか。まず、不足している部分は絶対に載せていただきたいし、他港への拠点移行を簡単にここでやめます、というのはいささかおかしいと思います。

事務局：ここに書かせていただいていたのは、去年の報告というよりは、具体的に出されたものに対してどんな評価ができるのか、という視点で書かせてもらったのであり、今言われたようなことは書いていないというのはその通りです。このWSで出された意見は、具体的にこういうものを造った方がよいという内容ではなかったと思いますので、書くとすればWSで出された意見をここに追加した方がよいかもしれませんが、これはあくまでも、具体的な事例に対して事務局で評価をしようとして提出させていただいたということを理解いただきたいです。

また、他港への拠点移行について教えてほしいという意見がありました。これは調べた事実を載せました。金額などを提示してこれについて検討するのも良いかもしれませんが、今日の段階では事実を皆さんに説明

第9回ワークショップ議事録

したところですが。それでもやるのだということであれば、議論する価値はあるのかもしれませんが、それについて他の方はどうお考えなのでしょう。その金額でもトータルで何とかなるといった意見を出していただくことは決してダメと言っているつもりはないので、これについてはこれからのグループワーク（以下「GW」という。）で話をさせていただくことはかまわないと思っています。

参加者：では、さっきこの案については外した方が良くと言いましたが、外す必要はないのでしょうか。

事務局：例えば、逗子マリーナなどは保証金として一隻につき1,000万円もかかるような金額であって、それを現実的に漁業者さんがやるのかという点では、難しいだろうということで申し上げました。それを漁業者が出せないなら市が出せば良い、ということになれば、市の財政負担が出てきますが、漁業者さんのためにそこまでの補助は出せないというのはあります。

参加者：それでは漁港だって造れないでしょ。

事務局：こういうことがある、とまず皆さんにお知らせしてから考えていただきたいということです。そこで現実には難しいのではないのでしょうかというのを皆さんに投げかけをさせていただきました。

参加者：この前までのまとめまでで、現時点では話し合っただけというのが良いと決めるべきではない、というのが一つのまとめで終わって、その前にあった漁対協案というのがここにある埋め立て式の案というのが出てきて終わって、そっちのグループはそうで、3月までにやった今と同じメンバーは現時点では無理という結論で、矛盾しているが、それぞれが回答ですよね。その時点でのまとめですよね。この春から始まったこのグループというのは、それとそれは置いておいて、別に他にできることを考えましょうということですよ。

事務局：自分が思うところでは、確かに漁港は現時点では困難であるという結論を出していただきましたが、将来的に全くダメなのかということにしてほしくない、ということは皆さんにもご理解いただいたと思います。このように去年一年やり、今年もまたやっていくので、皆が共通の認識を持った中で、将来的なことになるとは思いますが、こういうものをやめてほしいなどそういう意見は残していただきたいと思います。

参加者：漁対協の埋め立ての案が一つ、この前の六項目程度がまとめになっているのがこの前のWSの一つの結論、もう一つの新しく始まったものと考えれば、他港への拠点移行、既存施設の強化、そういうことを中心に考

第9回ワークショップ議事録

えて行くと、三つぐらいを細かく分かれて考えたことになりますよね。完全に漁港を造るもの、漁港建設は今のところ無理というもの。ただ、今のところ無理という結論を出したグループで同じようにまた漁港を造るとしたら、ということを考えても同じ話を繰り返すことになり話が進まないの、それとは別に、ということを考えるのであれば、港ではなくて、今水産業の強化をどうするかとか、既存施設をもう少ししっかりした建物にしてやるのではないかと、港以外のことを考えてこちらの結論を作っておいて、三つを照らし合わせれば良いのではないのでしょうか。

事務局：そういう考え方もあるかもしれませんが。

参加者：同じことをやっていたら、結論が出ないことをずっとやり続けることになります。

事務局：漁対協の案は一例だが、そのエリアの中でこうしたらもっと良いものができるのではないかといいものも良いと思います。そういう事や既存施設の機能強化について話合っていたいただいても構わないですし、話し合っていた中で、仮に漁港ができなかった場合、当面このような支援できないのか、その時に課題として何が残るのかについてしっかりここで抑えていただきたいです。

参加者：秋にもまた台風が来るので、早く何とかしたいですよ。このままでは漁業者さんたちはまた船などを流されてしまうということを繰り返さなくてはなりません。だからこの秋にでも対策ができる方向にもっていった方が良いのではないのでしょうか。今すぐやらなければならないことを中心に話し合ったら良いと思います。

事務局：この秋はすぐなので対症療法的なことしかできません。皆さんにそこまで考えていただくのは厳しいと思います。既存の施設を強化していった方が良いというような話もそれほど具体的に突っ込んでないと思います。また、漁港建設という選択肢も捨てられている訳ではないので、市が勝手に組み入れてしまっただけ良いかという点で、具体的なそちらからのアクション・ご意見ということで、財政的には無理ということや優先順位的に無理ということではなくて、それらが解決されて将来できるのであれば、少しは位置をずらせば影響が少なくなり可能性は高くなるのかそこまではWSで話し合っていないと思います。

参加者：では、漁対協で出た埋め立て式で漁港を造るもので一案、私たちがこれから考えようとしているものが漁対協ではないものを造るとしたらというもので二案、というように結論になるということでしょうか。

第9回ワークショップ議事録

事務局：例えば漁対協案の埋め立て式について、制約事項として埋め立てはしてほしくないという人も必ずいると思います。漁対協案というのは一つの例として方針を提示していますが、埋め立ては絶対にしてほしくないという制約条件があるならば、どうやったら漁港ができるのかということを考えれば良いです。極端な話だが、稲村のところにある旧県営駐車場の用地があるんだから。

参加者：それも以前あったのに消えてますよね。

事務局：例えばそういうような話を突っ込んでいくなどです。例えば漁対協で出した案というのは背後地が道路になっているので、用地がなく埋め立てしできません。だから埋め立てしてほしくない人にとっては適地ではないということになり、何か良い方法がないのかという話になります。そういういった色々なバリエーションが出てくると思います。

参加者：それなら、これは港のバリエーションを作るという会なのではないでしょうか。

事務局：そうことをグループの中で検討していただくのは、大いに結構だと思います。

参加者：でも既存のことを考えることがあっても良いと思います。そっちを早くやらないと、また繰り返し被害に遭います。最近の台風は以前に比べて大きいので、もう少し今すぐにできる方法を考えた方が良いのではないかと思います。それはもちろん、漁港を造る案も必要ですが、しょっちゅう壊れているならば漁業者の皆さんも大変でしょう。何とかしたいです。

参加者：去年のWSの成果からすると、漁業振興の広いプランが示されるべきであると成果として書かれているはずですが、これは今あるのか、あるいは検討されているのでしょうか。むしろそれをしっかり議論するのと、直近で対策をうたなくてはいけないことをやるという、この二点が今やるべきことじゃないかというのが一点です。

またこの資料についてのお願いですが、これまでの経緯の部分を恣意的に書いている感じがするので、あくまで事務局見解としてほしいですし、項目を増やしてWSの成果ということをそれぞれの案に対してきちんと明示してほしいと思います。

最後に恣意的だと思う点として、漁港建設に数億、メンテナンスも含めると数十億かかるというのは議論に出ていたのに、先ほどの逗子マリーナの話は金額をシミュレーションすると、そちらの方が財政負担は少ないかもしれない。そういうことを恣意的に省くような動きがあるのは、すごく心外だと思います。

第9回ワークショップ議事録

参加者：漁業者の立場から言わせてもらいます。少し誤解があると思いますが、他港への拠点移行というのは二つの考え方があります。漁業の拠点を全て腰越に統合するという考え方と、緊急時に避難をするというのは全く違う考え方です。緊急時の船の避難は現在も腰越漁港に対して行われていますし、逗子マリーナや他のマリーナに対しても常時行われていることです。現在は全部の船を砂浜に上げて、一部の船は134号線に上げて避難しており、これに対する苦情も多いですが、これをやめてその全部を、例えば腰越漁港に避難できるかといったらできません。これは自分たちを信用してもらうしかありませんが、物理的に不可能なのです。一人で2隻の船を持っている人はどうしたら良いのか、ということを含めると、緊急時の避難に腰越漁港を恒常的に使うということは不可能です。今まであった例としては、沖に出ていた船がどうしても戻れなくなり、命の危険があるということで腰越に避難するということはありませんでした。これからもあると思います。そのために腰越漁業協同組合ではある程度のスペースを確保してくれていますが、他港への拠点移行、特に緊急時の避難ということに関しても、やはりそれが限界だというのが現実です。これはもう我々の経験を信用してもらうしかありません。

では、腰越漁港に全ての機能を移転するということについてですが、これはさらに不可能です。そんなスペースは全くないですし、腰越漁港が大反対するのは目に見えています。要するに漁の種類や色々なやり方などが地域の漁業者によって違うため、それらを統合するというのは不可能です。だから港というのは浦々にあるのです。震災で被害を受けた東北でも、そういう小さな漁港を統合して大きな漁港にしてしまおうという動きはありますが、やはり地元から反対されています。どうしてかというと、その浦々での漁業の特徴というものを、単純に大きくして一つに統合してしまえば良いということではないからです。これも漁業者の経験の中で、我々が知り得たこととして信用していただくしかないと思います。漁港を造るために何かそういうことが不可だとか、できないだとか言い訳をしているのではなく、これはこの仕事の特徴だと思っていただかなくてはなりません。

参加者：課長にお答えいただきたいです。水産物のビジョンはどうなっているのでしょうか。

参加者：ちょっと待ってください。この漁対協案および代替案などというのは、これは非常に物理的なことだけを示しています。もちろんソフトウェアのことを含めて論議しなくてはならないのはこのWSの義務ですが、今示

第9回ワークショップ議事録

されているのは物理的な構造物としての問題を比較しているもので、今はこのことに特化してよろしいのではないのでしょうか。その上で、WSでこのような物理的なことについて色々ご提案いただいたし、我々もそれを受けて考え直したりしてきました。一旦は消えた掘り込み式の案は、漁対協案の製作過程で消えていったものですが、WSの一年間の討論の中で、やはりそれを見直した方が良いのではないか、というのが漁協の中での今の論議の中心になっていることです。それはやはり単に物理的に船をどうするというのも含めて漁港を造るのであれば、これからの鎌倉の漁業を含めた産業のシンボルとして観光客を招致できるような魅力のあるものにしていかなくてはならないことを考えると、単に船が何隻停められるという漁港ではダメだろうというのを含めて、この代替案の一の掘り込み式というのを、予算のことは外視して、もう一度きちんと考えようというのが今の我々の立場です。

それから、漁業者としてもう一つ言わせてもらおうと、既存施設の機能構造の強化ということに関しては、先ほど言った大きなビジョンで港を造っていくという場合、年数がかかるだろうということでした。その間、経過措置として最低でも漁具小屋の浸水を阻止する措置をしていただき、船の避難に関しては今まで通りやるしかありません。あるいは船の出し入れの危険というのはこれまで通りですが、最低、荒天時の漁具の保護だけはできるという意味で、経過措置として既存施設の機能構造の強化というのは是非ともお願いしたいというのが漁業者の立場です。

事務局：去年のWSで水産業のビジョンについてご提案いただき、今年度のWSをやっている最中には間に合わないと思いますが、その検討には入り始めたところです。水産業というと、漁業だけではなく流通や販売も含めて考えるということを念頭において、今年度関係する方に集まっていたいただき、検討を始めて、今年度ではできないかと思いますが、来年度ぐらいを目標に何らかの基本的な方向性を出していきたいと考えています。

参加者：どういった場で、どういったメンバーが集まって協議されているのかということと、それらが先なんじゃないですか。その結論・ビジョンが出た上でおっしゃった観光漁港が必要ということがそのビジョンの中に組み込まれ、その後、ある程度市民の合意なり総意なりが得られます。このWSの話はその上での話ではないでしょうか。

事務局：順番としてはその通りですが、去年から始まったWSの中で同様のご意見を頂き、私どもでも水産のビジョンが全くない訳ではありません。総合計画の中でも沿岸漁業の振興やそのための基盤整備が必要であるとい

第9回ワークショップ議事録

うようなことは出しています。もっと踏み込んだ観光や6次産業など、色々な細かいビジョンというのが計画としてはなかったもので、昨年ご意見を頂いて、私どもも必要だと考えています。順番が逆もしくは並行してしまうかもしれませんが、この中でそういった意見を我々が拾っていき、ビジョンを作る際に反映していきたいです。今の時点でそのビジョンを待つてやるということになってしまうと、このWSを中断しなくてはいけなくなってしまうので、それはちょっと置いておいていただき、このWSでの漁港の在り方などについて話して合ってもらいたいです。その中で水産業の振興についてご意見があれば提示していきたいと考えています。

参加者：どういう形式で、どんな形で検討しているのですか。

事務局：まだ具体的には始めていませんが、これからしようと考えているのは、漁業者の方、市内の加工業者の方、アドバイザーのような方が入って、今の状況で何ができるのかを考えましょう、とりあえずテーブルに一回つきましようというのは考えています。具体的なメンバーをどこまで広げていくかについては、現時点ではまだ決まっています。

参加者：水産業のビジョンを行政に考えさせるのはお門違いです。それを考えていくのが我々なのです。行政をつついても何も出てきません。ビジョンを作っていくのは我々漁業者と鎌倉の市民の仕事なのです。我々も確かに力が足りませんでした、今後は一緒にやっていきたいです。行政にいくら聞いても返ってこないです。行政を批判している訳ではなく、行政とはそういうものなのです。

もう一つ行政に対して質問したいのは、掘り込み式案は経済的な問題で否定されますが、134号線をかさ上げすることにより防災効果が向上するかもしれません。老朽化した134号線の補修が必要など、そういう話を含めて色々なセクションが力を出し合って、お金を出し合えば、漁港を造るお金が足りないという結論にならないのではないか、というようなことも考えるのですね。ただやはり行政の今の立場、縦割りの中でどうにかしろと丸投げにするのではなく、我々がビジョンを作ってどうですかというのを出していくというのが大事だと思います。

参加者：私もそう思います。先ほどの質問の意味は、ビジョンの方が先に検討されるべきではないかということと、先ほどの課長の説明には市民からの参画というものがなかったように思います。本来であればこのWSのような形で、水産業の振興についても市民の総意や意見が得られるといった形式で進めるべきではないかと思い、質問させてもらいました。おっ

第9回ワークショップ議事録

しゃったことはよくわかります。

参加者：同時進行でやっていくことだと思います。水産業に対するビジョンがまとまったから、じゃあ漁港を話し合おうということではないし、漁港を造ると決めてから水産業の振興をしようという話でもないのです。両方を議論しながら実行していくというのが大事であり、一つ一つのことは非常に小さなことだと思います。

昨日も漁協で話し合いをしていましたが、せっかく鎌倉で獲れた魚介類が中々鎌倉市民の手に渡っていかない、この現状を変えていかなくてはなりません。そのために我々が何をできるか、例えば浜売りという特徴のある販売がありますが、今はそれが手薄になっているため、朝市の無い毎週末を浜売りのイベントの特集にしようとかいうことも含めて、より市民と漁業の間を縮めていく努力をしなくてはならないのではないかと話し合っています。また、漁協の直売所を造り、新鮮でおいしいものを市民に供給する方法はないのかというようなことも話し合っています。そういうことを実践していくことで、鎌倉の漁業が見直されていき、例えばサンフランシスコのフィッシャーマンズワーフのようなものができれば良いな、というビジョンを持ちながらやっていく、それは市民と漁業者がすり合わせながらやっていきたいのですがどうでしょうか。

参加者：それについては全然構わないです。

事務局：話題がWSの検討テーマの部分に移行しているので、タイトルを第二部の検討テーマに代えさせていただいて、ファシリテータ（以下「FT」という。）に議事の進行をお願いしたいのですが。

参加者：まだ今の内容でやりたいのですが良いでしょうか。

まず一言言いたいのは、前回から行政のやり方に不信を持っており、市民の意見をくみ取るというよりは、漁港の案を作って予算獲得のために動く、そうすれば自分たちの仕事ができるというような動きにしか思えなくなっています。それは市民も漁民も幸せになれないのではないかとすごく思います。あなたたちはそう提案して活動すれば仕事になるでしょうが、それをまた県や国で否定されてまた次の案を作る、という感じで何も進まないと思います。なぜそのように思うかというと、今日のところで具体的にいうと、和賀江嶋案、他港への移行で全く、提案した意図を汲み取っていません。例えば和賀江嶋が国の史跡であることは皆わかっていますが、現状で復元などはされておらず、このままでは台風などで削られ、何があったかわからなくなります。あの史跡は国のものであると同時に鎌倉のものであるので、あの史跡をどうしていきたいの

第9回ワークショップ議事録

か、何とかしていかないのか、復元したいのではないのか、というのは市としての立場はないのですか。そういった調査はしたのですか。国が指定しているから動かさないではなく、今後どう保護や復元をするのか、ビジョンを作っていこうというのが元々の意見ではないのでしょうか。市民がどう思っているからこうしよう、というように動いてほしいです。

また他港への移行ですが、もし今入れさせてくれと言えば、狭いからダメということになるでしょうが、漁港を造るとなればそれなりのお金がかかるので、元々の意見は、独立した漁港を造るよりもそのお金を使って他港をもっと拡充させる、つまり、お金をどっちにつぎ込んだ方が合理的なのかという話も含んでいたと思います。ここには、拡充させてどちらが有利かという検討について全く書いていないのではないのでしょうか。つまりこういうのを潰して、元々あった漁港案に近いところで市民の合意を得ました、だから県や国に申請しますというようなことばかりやりたいような気がします。前向きに我々の意見を掘り下げているのか非常に疑問に思います。

先ほどの、漁業者から他港への移転について難しいという話はすごくわかりますが、言われているのは、現状では入りません、お金をかけるならこっちを拡充したらどうかというのは何も書いていません。

事務局：一つだけ良いですか。和賀江嶋の話や市としてのビジョンは一番下のこれまでの経緯の欄に書かせていただいています。世界遺産登録のために市は保全管理計画というのを作っており、その中ではっきりと、現状を保存して維持に努める、ということを書いており、これが和賀江嶋に関する今の市の保全管理計画として取りまとめられています。

参加者：今話をされていて、ふわっとした感じに思えます。今回のWSは何をしたら良いのかがふわっとしています。今話を聞いていると、まずビジョンについて決めなくてはならないということです。せっかく市民や漁業者が集まっているので最優先にやるべきでしょう。

もう一つは喫緊に困っている人がいるので、それは解決しなくてはならないだろうということです。まずビジョンを決めることと、喫緊の課題を解決するというのがこの中の最優先ではないのでしょうか。漁港については前回のWSで現状では無理であると出ています。その経済的な部分を解決できるのは十年後なのか百年後なのかわかりません。そのような先のことを我々に考えろと言われても、そんな時に鎌倉市が、漁業がどうなっているかわからないです。そもそも日本がどうなっているかわからないのに、その辺はちょっと無理なのではないのでしょうか。そうで

第9回ワークショップ議事録

あれば、最初にビジョンなど解決しなくてはならない喫緊の課題などを議論すべきではないかなと思います。それが明確になれば、このWSはこういうことをやるんだというのが見えてくるのではないかなと思います。

事務局：WSのテーマについて話を進めさせていただきたいと思います。今話していただいている内容自体は、このWSで何をしようかということで、その件については第二部のテーマとしてあげているので、そこで話させていただきたい。FTに議事をお願いします。

参加者：資料に対して不備があるということについては、ちゃんと直すということ。

事務局：最初に申し上げましたが、この資料についてはとぼぐちです。皆さんの意見については私どもの方で全て受け取り、資料は修正させていただきたいと思います。もしこの資料をしっかりと資料として仕上げていきたいというつもりが皆さんにあるのであれば、この中に様々なキーワードを入れて高めていきたいと思います。今は皆さんの前に用意した大きな地図を用いて現状を把握していただくのと、ビジョンの話などをただ言葉で言っても中々皆さん話が難しいと思うので、まずはワークをやっていただき、徐々に意見を高めていただきたいと思いますので、是非次のテーマの話に移らせていただきたいと思います。

参加者：本当に私は進め方がおかしいと思います。漁港代替案ではなく、何度も出ていますが、漁業者として台風の問題とかなんとか解決したいというのは、漁港を建てるための言い訳という話ですが、先ほど漁業者の方から、かさ上げを是非したいという話が出ましたよね。漁港の話というよりも、こういう先にできることについてどんどん話しませんか。

参加者：そういうことを今からテーマで決めるんじゃないんですか。

参加者：今言ったことではまた繰り返しになります。事務局の言った新しいテーマで検討してはどうでしょうか。このままでは話し合いもできないでしょう。事務局の方に先ほど言われたテーマについて話し合ってくださいと思うのですが、皆さんどうでしょうか。

事務局：ありがとうございます。

第2部

③ 検討テーマについて

検討テーマについて、FTから以下のとおり説明を行いました。その後、意見交換が行われました。

第9回ワークショップ議事録

F T : 色々な不満や不安を抱えておられるので、色々な意見が出るのはもっともだと思います。

私は前回のWSを受けて、あるべき論を抽象論で議論するのではなく、具体的にどこがどう問題なのかという話をしないかと提案しました。

今日の事務局の資料は昨年度のWSを受けて、漁港を造るというだけではなく、他の方法があるだろうと紹介しているものです。前回のWSでこれがどうしてダメなのか、ダメな理由をはっきりしてほしいという意見があったので、和賀江嶋案、他港への移転案は難しいということをお皆さんに説明するつもりでした。この内容が信用ならないということであると、別途それについて議論しなくてはならないと思いますが、そういうことをずっと続けて、このWSで最後に何が得られるかということが私にはよくわからないため、私からの提案です。

まず浜を上手く使いながら何とか災害を最小限に食い止める方法はないかを検討するチームと、港を造るとしてもこういう港にしてほしくない、できればこういう風にしてほしいというのを検討するチームとで検討します。漁対協の案では埋め立て式だったので埋め立ては困ると、昨年のWSで掘り込み式案が出ているので、それも考えようと用意しました。ここで大事なことは、このWSでこうしたいと言っても、市はそう簡単に動かないということです。我々は決定機関ではなく、市に対してどうしてほしいか、どういうことに対して気を付けてほしいかについて突きつけるための検討会です。仮に市が業者に業務を発注したときに、WSでこういう意見が出ているから、この条件を無視しないようにと突きつけることができるというものです。前回のWSでもこのような意見が出ていることを確認しています。その条件というものをこれから皆で詰めていかないかということです。私は漁港には全く興味がなく、漁港なんか造ってほしくないという人は、浜を検討するチームに入ってください、どうすれば浜の問題を解決できるかについて検討していただき、漁港は反対だが、造られるなら変な造り方をされたらもっと困るので、漁港のグループに入ってこうはできないのかななどを提案したいというのであれば漁港グループに入っていただきたいと思います。埋め立ては賛成できないので掘り込み式にしてほしいということであれば、掘り込み式にはどんな課題があるのかについて議論していただきたい。

今日は、いきなり二つ、三つに分かれてくださいといっても、作業のイメージが全くわからないだろうということがあるので、皆さんの前に1/500の平図面を用意しました。今、漁業者さんが浜をどのように使って

第9回ワークショップ議事録

いるかについてプロットしてあります。例えば今日の私としての作業イメージは「もし港ができれば、ここの浜は全部オープンになるのか」それが可能かについて確認したり「漁対協案をここに入れ込んでみたらどの程度の大きさになるのか」「もし掘り込み式だったら、どのくらいのスペースを使うのか」「掘り込む場合に国道をどの程度かさ上げしなくてはならないのか」など、作業しなくてはわからないことを確認してほしかったです。もし港ができれば、本当に移転できるのかについても考えなくてはならないし、港を造らず浜を上手く使うという場合には、このスペースは色々な浜の利用法があるので勝手に動かせないため、どうやったら災害をできるだけ小さくできるかということを考えなくてはなりません。そのために今どんな問題があるかについて漁業者と情報交換しながらやっていかななくてはならないし、かさ上げできないのかなど色々な話が出てきます。そういうことをやっていきたいです。もしこれが上手くいけば皆が懸念しているような問題に寄与することがあるかもしれません。

色々な受け取られ方があると思います。例えば港は造るがそれまでの間、大変で放置できないという時に、ここで検討された案が途中段階の対策として有効かもしれません。港は造らないとなったら、ますます浜の問題が重要になってきます。どっちにしてもお互いに関係のあることなのでアイデアを出し合い、浜を使うこと、漁港を造るならどんなことに気を付けてほしいという問題提起をするというのがこのWSの課題ではないかと思って、今日臨みましたが、かなりビジョンを示すべきだという意見が出ました。港を造るという頭で物を考える方向からできるだけ避けようとする傾向があるようです。それはそれで良いと思いますが、皆さんがその話を避けても、もしかしたら市は造るかもしれません。その時に我々がどういう港にしてほしくないという意見がなかったら、行政の都合で造るかもしれません。造ることになったら、反対運動を起こしても遅いのです。だから今のうちに色々詰めておきましょうと、市に要求を突き付けましょう、というのが前回のWSの雰囲気だったと私は思っていたので、今日はこのように準備しましたが、いかがですか。

参加者：先生の言うとおりでと思います。

参加者：今までの中で一番論旨のわかりやすい話でした。さっき参加者の方がおっしゃったように、漁協としてはこの資料の掘り込み式を軸として、緊急措置もなくてはダメだというのが今のムードですか。

参加者：検討テーマについて提案できるのですよね。先生がおっしゃったことは

第9回ワークショップ議事録

わかりますが、浜の活動について検討するのは良いが、私はやはり今回全六回やるのであれば、一回か二回は水産業全体のビジョンについて話し合いたいです。さっき話があったように市民がもっと地元の魚を食べられるようにしたい、というのはすごく興味があるし、それがなぜできていないのか、それをやるために今の漁業がどうあるべきなのか、などそういう一番大きいビジョンはやはり一、二回は話し合いたいです。並行して検討しているのであれば、そっちの方にインプットするというのがあった方が良くと思います。

F T : 例えばそういう検討チームがあったとして、入っていただけますか。

参加者 : 入ります。

参加者 : 総論とメニューを間違えてはいけません。今日は何をするのかといえば、総論でしょう。大きな区分と方向感覚をみる総論です。起承転結のまだ転です。いきなり結の話をされてもしょうがないです。

参加者 : 先ほど参加者の話にサンフランシスコのフィッシャーマンズワープの話が出ていましたが、鎌倉の漁業に対する市民の意見を汲みつつ、観光などの話をしながら、漁港を造る・造らない、どういうものを造っていくのかというのは、絡んで重要な物だと思いますので、細かく分けるというよりも、全体で進んだ方が良くと思います。

参加者 : ただ全部を一緒にできないため「今日はこれ、明日はこれ」というようにしていくと、「今回はこれをしているのに、何でこっちを話さないんだよ」となるので、その点は、F Tにきちんと責任を預けてやってもらえば良いのではないのでしょうか。今日確かにこのような物理的なことを話していると、ビジョンはどうなっているのかとなってしまいますが、別にビジョンのことを話さないと言っている訳ではなく、今回はこれと言っているのです、その辺をもう少し冷静にいきたいです。

参加者 : 先ほどの漁協参加者の話は有意義でしたし、それからビジョンのことを話したいという話もあります。自分的には一年間やってきて、漁業者さんたちが皆さんで話し合い、統一した見解は何か、今の考えがあるのであれば、それを伺う機会がほしいです。今までの議論を通して、こういうことをやっていきたい、市としてやってもらわなければいけないなど、漁業者さんの話があればぜひ聞きたいです。

F T : 作業の中でしょうか。

参加者 : はい。どこかで何かそのようなプレゼンがあっても良いのではないかと 생각합니다。

F T : 自分のイメージとしては、グループに分けてグループ毎に検討したのを

第9回ワークショップ議事録

後半になって発表し合って、意見交換をするということですが、考え方によってはWS全体の中で前半はこっち、後半はこっちというように時間的に分けることも可能です。どちらが良いですか。

参加者：自分は前者の方が良いと思います。

F T：グループ毎に分けるといっていいのでしょうか。

参加者：正直言って考え方の前提がばらばらなため、そのような人たちが一堂に会しても水かけ論となります。二つに分けて、お互いに冷静に具体的な物を造って見せ合って、との方が良いと思います。

参加者：私は全く逆です。思想が違う人がいるから意見というのはできあがるので、同じ思想の人を固めて話合っても同じ結論しか出ないということは自明のことです。大体、鎌倉市民17万4千人の中でここにいる人だっせいぜい20人程です。これだけだっせいぜい反映できているのかという状況があるのに、これをわざわざ分割する理由がどこにあるのでしょうか。確かに分けた方が早いですが、仮に一緒にやると時間はかかりますが、これまで何年もかけているのに、たかが一回や二回の回数が増えることが何か問題があるのでしょうか。

参加者：何か結論を出したいというならば分けた方が良いと思いますし、とにかくとことん話し合って、結論が出るまでというならばそれはそれで良いと思います。

参加者：グループに分けて効率化するより、一つのテーマをきちんと話をしてそのテーマを話している時は、そこから飛ばないようにすれば良いのではないのでしょうか。

参加者：この会議に限らず、この手の会議をやる時にいつも思いますが、どういう考えの人がどういう風に乗っているかで会議の流れは必ず変わります。これに限らずそれが非常に気になっています。

参加者：だからこそ、F Tがきちんとまとめて、今回はこの話をとにかくやりましょう、というようにしていくべきではないのでしょうか。

参加者：先ほどおっしゃられたように思想が違うのだから、分けて話しましょうというのは非常に危険なやり方です。色々な思想があるから議論する意味があるのであって、そういう人を集めて議論した結果をF Tがまとめるというやり方は良いですが、それは非常に危険なやり方です。

参加者：自分が言ったのはそういう意味ではなく、彼は効率的なことを考えるのであれば、グループ毎に分けてしまうのではなく、議論の仕方をもっと少し効率的にした方が良いだろうということです。今の前半の議論でもあちこち飛んでいる訳ですよ。例えばこういう資料を基にこの話をしよう

第9回ワークショップ議事録

としている時にやはり別のところについてしまいがちです。それはこういう資料を見せられると不安になるから、ビジョンの話など別の話をしようとなるのは当然だと思います。そこを交通整理することによって議論が散漫にならなくなるのではないのでしょうか。

参加者：散漫になるから決まらないんですね。ただやはり色々な人の意見があった中で決めた方が最終的には気持ちが良いと思います。分けてやると一方が何をやっているのか、わからないので結局後でまたややこしくなります。時間毎に分けた方が良いと思います。

参加者：加えて言えば、大きいテーマから話した方が良いと思います。細かい各論から入るから「前提が違うよね」ということが繰り返されているので、ビジョンが表なら、ビジョンから皆がどう考えているのか意見を集約して、その中で「観光漁業は困るが、直売所なら応援したい」という意見があると思います。

参加者：どっちが先とかではないのではないのでしょうか。結局ビジョンを話す際に各論のことは必ず問題になってしまうので、どっちが先ということではないです。基本的にはビジョンが先なのかもしれないが、今あまりにビジョンがないのですよ。

参加者：おっしゃることはわかりますが、去年のWSの成果としてビジョンが必要であるということが出ています。私はFTに不信があって、それであるんだったら、そこから話そうというのが、流れだと思います。FTは重要だと思っているので、FTは大きいところからまず皆の意見を汲みましようというのが、今回の組み立ての出発ではないかと思います。私の感じていることなので、他の方が違うのであれば各論から入るのも良いのかもしれませんが。

参加者：FTはその辺りどうなのでしょう。なぜ各論から入り鎌倉における漁業のビジョンという大きいところをまずテーマにしないで、具体的な各論から入っていったのはなぜでしょうか。

F T：昨年WSを振り返り、ビジョンということに関して話があったが、漁業形態や販売形態、漁協さんともうまくやってみようなど、それはそれでとっても大きな問題です。おそらく一回や二回では全く話になりませんし、色々な可能性があります。このWSで取り扱うには大きすぎると感じていましたが、そのようなことはないのでしょうか。

参加者：大きいですよ。どんどんあげていけば、社会思想ですよ。ビジョンなんて言葉にふりまわされていますが、コンセプトという日本語の概念論や分析論まで出てしまいます。だからメニューと議論と総論とは異なりま

第9回ワークショップ議事録

す。それからある部分について反対運動を徹底するならば、私はやっていますよ。議会や市長に対して行っています。そのために自分は社団法人を起こしました。だから、違った角度からやらなければいけないことと、こういうお茶も出ないけども仲良し学校みたいにやっているのと少しは違います。だから今日の先生の話が一番良かったですよ。

参加者：先ほど漁協の参加者がおっしゃったように昨日話し合ったようですが、水産業の方の話を聞きたいです。水産業の方が思っているビジョンというのはどうなんでしょうか。

参加者：一言でいうと非常に難しいです。水産業の方の口が重いのは毎日頑張っていて歯をくいしばって網を引いているので口が開かなくなっちゃったということですが、自分は口が軽いからべらべらしゃべっています。これはどんな仕事でも同じだと思いますが、日常の仕事に追われるということがあります。肉体的にも色々な意味で非常にきついから、物を考える前に体を動かして一日が終わってしまうということが現実にあります。日本の漁業は皆そうだったんです。それを補完するため行政があったと思います。だから行政におんぶにだっこだったというのが、今までの歴史だと思います。では、それならそれで良いのか、多分それではすまないという時代が来ています。それをどう解消していくのかというのはこれからの若い世代の漁業者に期待するしかありませんし、こういうWSに来てもらって色々な人の意見を聞いてもらい、一体自分たちの仕事は社会でどういう位置にあるのかを自覚することから始めていかななくてはなりません。昨日もそういう話をしていました。それは残念ながら非常に時間がかかるということで皆さまには猶予を頂きたいと思っていますが、我々も単に自分たちの漁獲をあげて金を儲けたいという視点だけで漁港がほしいと言っている訳ではないということは理解していただきたいです。この社会において重要な第1次産業を担っているという自負がありますし、そのことをどうやって漁業者の誇りとしてやっていきたいかということに尽きます。はっきり言って非常に画一的というか単に環境を保全すれば、良いだろうとお題目のように反対される方に対して反発があるというのも事実であります。そういう表面的な対立をどうやって乗り越えていくか。腹を割ってというのは簡単ですが、単純に損得や金がかかる・かからないではなく、文化の領域のこととして話していきたい、というのがこれからの漁協の方向だと思いますし、そういう形では漁業者も一定の理解はしていると思います。

参加者：どこかの回で漁業者の皆さんに話してほしいです。漁業者の皆さんが考

第9回ワークショップ議事録

える鎌倉の漁業はこうなんだというのをプレゼンまでいかににしてもやってほしいです。

参加者：簡単にいうと、我々は鎌倉の漁業を誇りに思っています。なぜなら、鎌倉の海というのはものすごく豊かな海であることを知っているのが私たちだからです。他の海に比べてものすごく豊かだということ、鎌倉の財産だということ、私たちはよく知っています。だからこそ、この貴重な財産をどうやって鎌倉の市民の財産にしていくか。要するに鎌倉でとれた魚を鎌倉で売りたいのです。鎌倉で利用してほしいのです。

参加者：もしも埋め立てをしてしまった場合に、腰越や片瀬など今まで埋め立てをしてきた日本全国をみると、一回埋め立てたら最後、次々と埋め立てをしなくてはならなくなっていることに危機感を感じているのです。

参加者：漁協の前のマンションの方だと思うが、あの土地は埋め立てですよ。

参加者：そこまで話がいくと、またおかしくなってしまうので、今漁協の参加者の方がおっしゃったのは「鎌倉の海を鎌倉市民のために」ということです。

参加者：でも、魚場を。

参加者：だからそこまで話がいくとダメということです。魚場が悪くなるのは漁業者の方が一番困るのです。

参加者：でも海で遊んでいる身からすると、その場所が一番危ないんじゃないかと考える場所に平気で漁対協の時に結論を出してくることなどが本当に海のことを考えているのかなと思います。

参加者：漁対協は魚屋もいるので、全然話がわからないんですけどね。

参加者：漁対協の案はそんな神経質に反発することではないのでしょうか。

参加者：今は別に漁対協はどうでも良いですが、それは過去にあった一案であり、今はそれとは別の結論などを導き出していこうという話だから、単に今まで埋め立ててきた漁港の例を見ないで進めて行くのは危険だと思います。別に私たち全員が造ること自体に反対している訳ではなく、毎日浜小屋を見て何とかしなくてはならないと誰もが思っています。台風が来るたびにみるのが辛いです。それをまず、何とかしたいと思っているので、それをまず何とかした方が良くはないのでしょうか。漁業者さんが何を考えているのかをこの場で話していることが少なかったから、どういう風に思っているのかなと思います。漁のことばかり考えているという話もありました。ビーチクリーンをしても思いますが、漁業に使う網が埋まっていたり流れていたり、結構ゴミが多いです。それを整理整頓するとか、流されないようにするとか、もう少し日常的なことに

第9回ワークショップ議事録

気をつけてきれいにしておくだけで、市民との関係ももう少し変わると
思います。要するに浜小屋イコール汚いと思っている人がたくさんいる
ことを改善していくと良いのではないかと思います。

参加者：まさにその通りだと思います。漁業者の中にも整理整頓が悪い者もいる
し、迷惑をかけていることもあると思います。その点は率直に認めます。
そういうことも含めて漁協の中では市民の方から反発を受けないやり方
というのをきちんとやっていかななくてはならないと思います。ただ、言
い訳をするつもりはないですが、長年やってきた方のやり方というのは
あります。これは漁協に関してではないが、例えば遠洋漁業に行ってい
る漁業者が過去において何をしてきたかという、ダメになった漁具な
どは全て海に捨ててきた訳です。そういう過去があって、延々そのよう
に何でも海に流してしまえば、海がきれいにしてもらえるという幻想を持
っていたことも事実です。今では誰もそんなことは考えていませんが、
やはり世代間によって考え方が違うということもあるので、徐々にそれ
は改善されていくと思いますし、それに対する努力は怠らないようにす
べきだと思います。

参加者：先ほどの話はすごく共感することが多いです。誇りやそれを財産とした
いなど共通しているものがあると思います。私がF Tの方と行政の方に
再三伝えているのは、去年WSで成果が出て、今すぐに漁港を建設する
のは少し難しいかもという結論が出ています。だがこの資料と今日の話
を聞く限り、他の選択肢はなく、漁港ありきというように伝わってしま
うんです。市民感情としては、去年は七回だったが一生懸命参加して、
やはり今の時期は無理なのではないかということ、また今年もその
具体案を考えてくれと言っても去年無理って言って、「他のことを先に考
えようよ、もっと大きなものを考えようよ」と言ったのに、何でそれが
第一回の大事なテーマとして出てくるのかというのが、すごく違和感
があるし、私も全反対ではないですが、結局最後に港を造ろうという会に
出てあなたはそれに賛成したんですね、という話になるのもおかしな話
だなと思っていました。

参加者：今のご意見は自分も理解しましたが、じゃあ、結局次回何をやるのとい
う話ですよ。私はこういう漁港を建設するためのWSだと思って参加
してきました。どういう漁港を造るかというのを話し合うための会と思
って自分は来ました。ビジョンというのは結局漁港を造る・造らないと
いう話になるば、そういう話にするとか、決めた方が良いのではないで
しょうか。

第9回ワークショップ議事録

参加者：私の意見としてこのWSはなくても良いと思います。その前に水産業全体のビジョンの検討会なりWSがあって、それに参加する人は参加しても良いと思いますし、漁業の方も魚屋さんの方も参加してそれを検討するというのが先かなと思います。

参加者：いや、それは違うと思います。漁港を造るというビジョンは、水産業全体というソフトウェアのビジョンとは別にあると思います。要するにこういう漁港を造りたいという夢を持っている、希望をもっている、それは漁業者だけではなく市民全体でこういう漁港あるいは漁業施設を鎌倉に造りたいと思っているというビジョンは、きちんと立てて行くべきだと思います。青図をたててCGを作って、こういう漁港を造って建てていきたいと思っているのは一つの柱としてあるべきです。

もう一つは先ほどからおっしゃられている鎌倉の水産業はどういう位置づけなのか、どういう風にやっていくべきなのか、についてのビジョンはそれとはまた別のところで議論していくべきなんですね。このWSは前者の方に軸足が載っていると思うのです。ですが、その本来の水産業がどうあるべきという論議をここでするなど言っている訳ではありません。何でこの具体案としての漁業施設について検討するかを自分が代弁するというのはいかなるということなのではないかと思います。

参加者：先ほど最初に話しかけたところから埋め立ては反対だとかこういうことになりました。要は漁業の人はこういう考え方なんだということを示していただいたと思います。

参加者：そうするとまた元に戻ってしまいます。だから、FTの提案通りにやってみたらどうでしょうか。

F T：今日やろうと思ったことはほとんどできないので、今、ファシリテータ補佐（以下「FT補」という。）から整理します。

F T補：五分だけください。旗揚げアンケートをやります。今の話を含めて私が用意した今後の進め方、今年何をやるかについて、確認をとっておきます。次回からの組み立てを考えていかななくてはならないのでご協力をお願いします。今年のWSで何をしたいか。該当する番号を揚げてください。

①将来的な漁港整備に備えてもしも漁港が整備されるならば、という視点から、先ほどから出されているような漁対協案とか、掘り込みであるとか、具体的な計画案や代替案についてその欠点や良いところを含めて検討したい人は①を揚げてください。

②それよりも、喫緊の課題があるだろうと、将来的な話よりも、もし

第9回ワークショップ議事録

も浜を使った漁業が続けられるならば、という視点から現状の課題に対して、より現実的で具体的な解決策について検討したい人は②を挙げてください。

③将来的な漁港の是非を判断するためにも、いずれの場合においても必要だと考えられるビジョンなどの項目や課題というのについて整理をしておくというのがまず大事、それについて詳細に検討しておきたい人は③を挙げてください。

④この三つの方向性っていうのを、今の段階で将来的な漁港整備の是非、現状の浜利用など漁業継続にあたっての課題解決についても、今の段階ではどういう風にアプローチしたら良いのか、どう考えたら良いのか、今日の時点ではまだわからない人は④を挙げてください。

⑤それ以外に今の四つのどれにも当てはまらない、あるいは、別の意見があるという人は⑤を挙げてください（複数回答可で、旗揚げアンケート実施）

F T 補：⑤その他の意見はどのようなことですか。

参加者：要はビジョンからやろうということです。

F T 補：漁港整備の是非を判断するためにも、そういう方は③に入ってもらって良いでしょうか。

参加者：是非ということではなく、まず、鎌倉の漁業をどうしたいのかという話をしたいです。漁港がどうかではないです。

F T 補：では③か④をお願いします。

参加者：この場合は漁港をどうするかという会にきて、それをやっている訳ですよ。

参加者：でも、それは「今は無理」と否定されてしまった訳です。自分はそう思っています。

F T 補：では、他にその他であげられた人はいますか。

参加者：同じ意見ですし、一旦WSはなくて良いと思います。先ほど参加者が言われたように平行するのではなく、大きい方を先に、ハードウェアもソフトウェアも両方検討する会を立ち上げた方が良いと思います。それには市民も参画します。

F T 補：他に⑤の方いますか。

参加者：市は市民の意見を汲み取ることよりは、漁港の案を進めたいという印象を受けるのでWSを終わりにしたいです。

F T 補：他にいますか。

参加者：主催者である事務局が水産業・漁港振興の立場で始まっているから、その方向で何か結論が出るというのは自然の動きです。私の意見は、政策

第9回ワークショップ議事録

創造部などと一緒にやった方が良いでしょう。これからはどんな部局の政策も、色々そうでない部局と接触しながらやっていく世の中でしょう。そのために鎌倉市は政策創造部というのを作っています。色々な部局のことをわきまえながら、当該部局でやっている議論の中で、意見交流を内庁的にやってもらわないとダメだと思います。したがって⑤です。

F T 補：次に行きます。二つ目はこのWSの進め方についてです。とはいえ色々なテーマがありながらも、回数が限られています。これはちょっと直感的にお答えいただければと思います。

①今日は第九回WSで、このあとGWを三回です。とにかく話し合いを徹底的に行って最終回にもっていくという。GWというのは、今のビジョンというか視点・考え方を皆さんから聞いたので、このGWでできるかどうかは検討してみたいと思います。GWを前提にですが、とにかく三回とも話し合いに使いたい人は①を挙げてください。

また、現地踏査で複数の視点から現場を見るということも大事ということを事務局でも検討しており、それを踏まえての②③④です。

②まずGWを二回やってから、現地踏査で検証し、最終回にもっていききたい人は②に挙げてください。

③次に現地踏査にまず行って、まず現場を見て共有して、GWを二回やって最終回に検討をするためのGWをもっていきたい人は③に挙げてください。

④GWをまずやって、間に現地踏査を入れて、課題の確認であるとか、各グループが提案しようと思っている物を検証し、もう一度GWをやっ、最終回にもっていききたい人は④に挙げてください。

⑤それ以外の人は⑤に挙げてください。

現地踏査を入れるか入れないか、どこに入れるかという点で整理しています。この状況の中で必ずしもこのようになるか保証の限りではないが、直感的にでもお答え頂ければと思います。

参加者：現地踏査って何ですか。何時頃のどんなシーズンにやるつもりでしょうか。穏やかなシーズンの真昼間に行ったら変じゃないですか。

F T 補：今日の資料を見ていただくと、一番直近で8月25日です。

参加者：何時からですか。

F T 補：それはちょっと状況見てからです。

参加者：現地踏査って以前から言っていますが、何時頃見るんですか。

参加者：見る内容によって変わるんじゃないですか。

参加者：だから大切だと言っているのです。

第9回ワークショップ議事録

参加者：だからここで意見を言えば良いのではないですか。

参加者：ここで何が見たいか、どういうことを知りたいかを決めて、じゃあそれを見る適切な日時は、と決めるのではないですか。

参加者：ここにいる人は何千回も見えていますよ。

F T 補：各自ではそうですが、それぞれ違う考え方の人が一緒に行った時にどんな風景が見えてくるかっていうのを、現地踏査の目的として含めたいと思います。

参加者：現地踏査というのは見学会ということですか。

F T 補：前回の資料の中で配っていると思いますが、課題として見るべき点は何かということと、整理をいくつかこちらでも準備をしていきます。

参加者：例えば、船の出し入れが危険を伴うということを含め、それを実際に体験していただくということを含めてやるなど、そういうことは事前に漁協とも相談してやっていただきたいです。ただ外から眺めても何もわからないだろうと思います。

F T 補：もちろん実際に行く場合には、何をするかというのはもう一度詰めたと思います。現地踏査を入れるか入れないかという点でも意見が分かれると思いますので、また旗を挙げてください。(複数回答可で、旗揚げアンケート実施)

F T 補：⑤その他に挙げている人はどういうことですか。

参加者：前回と同じ意見で、全体から話す会をもう一度ちゃんとコーディネートして、ここにいる方でそれに参画したいという方をちゃんと召集するということです。他の市民なり他の関係者も召集するし、ちゃんとした会を作るということです。

F T 補：別枠のWSが必要ということですね。

参加者：ここでやっている限り何回話し合っても似たような話になる気がします。

F T 補：では三十秒だけオプションで手を挙げてほしいです。最終回のプログラムの進め方ですが、今の進め方で行くと最終調整のためのGWを行った後に、

①最終回でもGWの時間を設けて、最終案をそれぞれのグループが提示し、全体で意見交換をして総括でしめくりたい人は①を挙げてください。

②例えば、最終案のそれぞれの進め方、考え方がありますが、専門家のレクチャーが必要という意見があったかと思うので、会場で専門家のレクチャーを受けるような、例えばセミナー形式にしたい人は②を挙げてください。

第9回ワークショップ議事録

③グループ案の提示を代表的なパネラーとして意見交換をしてもらい、それに対し全体で意見交換を行えるようなパネルディスカッション方式で進めたらどうかという人は③を挙げてください。

④最終案の提示というのがベースになるが、今日のような感じで全体での意見交換の部分に時間を確保するような進め方が良い人は④を挙げてください。

⑤それ以外の方は⑤を挙げてください。

これもイメージを確認しておきたいということなので、直感的なところであげていただければと思います。

参加者：チーム分けすることに決めているのでしょうか。自分はそこにすごく反発しています。思想が違ふとまで言っていて、その思想が違ふ人を集めて議論をしましょうなんてどうなんですか。

F T 補：それぞれの優先順位がずれていると思いますが、どれも大事な話のため同時並行的に進めて行くために、効率的に進めて行くためにはGWという考え方もあるのかなというように今は考えています。

参加者：希望としては分けるのか分けないのかをきちんと決めてもらわないと投票もできません。

F T 補：皆さんはどうですか。

参加者：自分はとりあえず投票します。別に②はグループを作るとはなっていないんじゃないですか。

参加者：今の説明がそれぞれの最終案の提示となっていたので、全体でやるのかと質問しました。

F T 補：今日の話し合いの中でひっくり返ってしまった部分もあるので、必ずしもそれを前提にするのではありません。

参加者：項目別のGWにするかはまだ決めていないというので良いのでしょうか。

F T 補：今日の雰囲気を持ち帰って、ちゃんと相談して練り直しもします。

参加者：そこは無でということで良いのでしょうか。

F T 補：そこは無で良いです。

参加者：でもそういう意見をもっている人は入れても良いのではないのでしょうか。

参加者：GWをそういう風にするのかどうか決めた方が良いと思います。

F T 補：では、これは次回にまた確認させていただきたいと思います。とりあえず、今後の進め方、プログラムも限られているということなので聞いてみました。これは保留にします。

参加者：WSはなぜ、やりっぱなしではいけないのですか。WSとは一回一回が大事な訳で何か結論を出すと言っても、その文言によって捉え方が違う

第9回ワークショップ議事録

のでWSって結論を出すような場所ではないですね。

F T 補：それは昨年度から何回も先生が言ってくさっているが、やはり結論を求めたいという気持ちが皆さんあるようです。それぞれの思いが上手く伝われば良いなと思っている。どれが一番とか、優先順位がどうかは無いと思っています。時間もないのでこれはまた保留にする。

事務局：一つ良いでしょうか。現地踏査を、現地を見るというやり方ではなく、例えば現地の状況をビデオや写真などのビジュアル的なものを使って、説明や紹介してもらえれば良いよ、という意見もあると思います。事務局が準備するにあたってどちらが良いのか聞きたいです。

参加者：その提案そのものに反対します。現地踏査というのは、現地に行き物を触ってみることが大事であり、ビジュアルでは伝わらないことがあるから現地踏査につながるの、その提案に反対です。

その提案自体おかしいと思いますよ。だって写真を見ることはいくらでもできます。大変だということは文言で書いてある訳です。現実に来て船を押ししてもらえば、船が重いことや危険なことがわかるのです。

参加者：事務局が言いたかったのはその日に行けばその日の様子しかわからないが、ビジュアルであればこんな日があつてこんな日もあるというのがわかるということですよ。

参加者：それは私たちが工夫してわかりやすくセッティングしますよ。例えば船に網を積んで押ししてもらえば重さがわかります。そういうことが大事だし、知ってもらいたいのです。

参加者：賛成です。そのような漁業体験をやらしていただけるのであれば行ってみたいです。

事務局：ではなるべく体験を含めた現地踏査を企画していくということで良いでしょうか。

F T：大きい問題が残っています。このWSをやるかどうか、やるなら次回どうするか、という意見が分かれているため今のままではあることをやろうとすると、必ず反対される方がいます。その方は、では次から抜けるという意思表示をされるか、あるいは新しい会をやるべきだから、このWSは解散しましょう、など皆さんどうしますか。

参加者：私は分科会を設置したらどうかと思います。WSを二時間やる、その後一時間から二時間ほど、WSとは別の分科会みたいなものを開きます。例えば自分たちが最も皆さんに教えていただきたいのは、鎌倉の魚をどういう風に利用したいのかを一番知りたいことである。例えばそれは生で食べたいのか、店として売っている魚を食べたいのか、色々な利用の

第9回ワークショップ議事録

仕方があると思いますが、どのような利用の仕方が自分たちにとって一番便利なのか、一番理想なのかを含めて、聞きたいことがたくさんあります。そういうことを聞けるような、非常に具体的な水産資源の利用に関する分科会のようなものを開くなどをしたいです。こういうことは非常に個別的なことのためWSの議題には上がりにくいですが、こういうことを分科会としてやっていけたら良いのではないのでしょうか。

F T : このメンバーで分科会を作るといえることでしょうか。

参加者 : そうです。希望者に来ていただくということです。

F T : 他にはありますか。

参加者 : 漁業者の皆さんにこれからの鎌倉の漁業をどうしたいか、鎌倉市民に対してどうしたいか、というのをプレゼンしていただきたいです。皆さんどう思っているかを参加者が話してくれたが、事前に準備して話してほしいです。それは申し訳ないですがこういう漁港がほしいではなく、これからの漁業などについて知りたいです。そして、我々もビジョンとは何だろうと考えたいです。皆さんがそれに賛成していただけるなら、漁業者の皆さんには仕事がある中で大変だろうと思いますが、そういうことをやってもらいたいと思います。

参加者 : 漁港を造るのに反対といっても、色々な意見がありそれを一回整理した方が良くと思います。反対の理由というのは防災であるとか、お金であるとか、をざっくりで良いので聞きたいです。

参加者 : それは去年やったと思います。成果としてちゃんと書いてあります。全否定されても困ります。

参加者 : もう少し、具体的に何か聞きたいです。

参加者 : 今から反対する理由とかやってもしょうがないんじゃないですか。

参加者 : そうですね。

参加者 : もう少し前向きにいきたいですよね。なぜ反対しているのかよりも、こういうビジョンがあったとか、だから自分はビジョンを作りたいというのがあります。

もう一つは喫緊の問題をクリアしていくというポジティブな方に行きたいです。前回に、とりあえず現時点では無理だというように結論づけられているので、それをもう一度掘り返しても同じ話になります。

参加者 : これは大変失礼な言い方になりますが、自分の家の前だから本当は嫌なんだと言っているのだが、それを対外的に例えば臭いの問題で嫌だとか、そういう風にすり替えてしまっている人がいます。

参加者 : その方のそれは失礼な話だと思います。

第9回ワークショップ議事録

参加者：どちらかという市民の代表として参加しているつもりなので、数十億円の税金の無駄遣いを防ぎたいという思いで参加しています。ただ、家の前だからという訳ではありません。

参加者：それはあなたのことを言っているのではなく、そういう方もいるだろう。

参加者：そういうことを言っている人がいるのでしょうか。

参加者：最初はそう思って参加した部分もあるかもしれませんが。ですが話し合っている内に、それだけじゃないということはさすがにわかります。

参加者：そういう方はそれで良いと思います。だが今だに反対している方はいて、すり替えている方もいると思います。それをざっくばらんに話したいです。

参加者：今はもうそんな方はいないのではないのでしょうか。

参加者：そういう対立をしているのは不毛です。それはやめましょう。

参加者：さっきから気になっていますが、漁港を造るのは不可能だという結論が出たという言い方も私には納得いきません。そういうことではないと思います。文言というのは非常に不明確な部分があって、今のようまだビジョンが不明確な状態で、要するにこれからの鎌倉の水産業をどうしていくかというビジョンもなしに、漁港だけを整備することはできないよということだと思います。それをその前段がなくなって、漁港はできないと言われてしまうと、あるいは、それが独り歩きし始めてしまうと、自分たちは立場がありません。その辺も本当に注意してほしいです。

参加者：それは全くその通りで全く否定していません。だが、去年あれだけ時間をかけて議論して、たどり着いたのがこれです。

参加者：だから、それをポジティブに考えようということです。

参加者：自己矛盾になるので、少なくともこれに書いてあることを否定するのをやめましょう。あなたがおっしゃる通り、将来にわたって漁港建設を否定するつもりはないというのは全くその通りだと思います。だが一方において、ビジョンの明確化は示されるべきであるというのが、我々が出した結論です。漁港建設を議論するために、より細かい情報が必要であるというのも自分たちが出した結論だったでしょう。そこを外れて議論するのをやめようと皆さん感じているのです。ここから違うと言ってしまうと、自分たちの出した結論を否定することになります。結論というか成果を否定することになります。これは皆の色々な思いの共通項として作られた成果なのでこれを外れたり、後戻ったりするのはどうかと思っています。

参加者：それに対して外れているという風に参加者が感じたのは、突然去年の結

第9回ワークショップ議事録

論に対して、漁港ありきの議論が始まってしまったことに対する不信感ですよね。

参加者：私が最初に言ったように、皆さんそういう人が多かったです。私は今日チーム分けするのに反対だと言っただけです。ちなみに前回私が言ったのは空想論を作る案だと言ったのはちょっと。

参加者：必ず誰か何かこう言ってこう言ってとなるから、都合良く議論はマルチになりません。

参加者：ここにはまずは経済的という問題があり、それがOKな時が来ればまた考えれば良いです。それって十年後か五十年後か百年後かわからないので、その時に考えるべきだと思います。その時の時代にマッチしたものをその時に考えれば良いです。現時点で漁港のワーキングを作ってと言われても、その時っていつなかわからないし、どういう環境かわかりません。ビジョンの前に百歩譲って、ビジョンがなかったとしても、現状はわからないのに何を考えれば良いのかさえ分かりません。

参加者：漁対協もそうやって、結局何年後かにWSを開催することとなりました。坂ノ下も埋め立てられてマンションができて人も住んで、となりました。前は確かに何もなかったんですよね。だから確かに計画をした時と、実際に出した時に十何年も経つと状況が変わるのはありますよね。

参加者：よく市役所が費用対効果を出せっていうのに、詳細が分からないから出せませんというのはこれこそ、そうだと思います。将来的に造れるか全くわからない状態なのに、その時の想定さえ全くわからないのに、漁港の案だけ考えてください、どういう漁港だと困るのかを考えてくださいと言われてもわかりません。

参加者：私がおそらく一番不信感などを言っていたので、何を意味したかという、市民がしっかり情報を知るべきだし、行政の方からも知っている情報を出してもらおうというWSの成果は出ていると思います。まずは代替案ができるかできないかという情報をぜひ吸収したいと思って参加しています。さっきのビジョンの話についてもWSの成果として、ビジョンが必要なので、まずそこからやりませんか。なのに無理があるといった漁港の案を中心に話そうということに対して、去年のWSの成果を組んでいないという気がしてしまいます。そういう、去年のWSの成果を組んだ形の組み立てなり進め方なりをしてほしいなというのが、自分の不信感と言ったところですか。そういう進め方をしていただけるのであれば、是非協力もしたいし、議論もしたいなというのが思いです。

参加者：例えば浜売りをもう少しどうしたら、皆の口に入るのかなどは本当に重

第9回ワークショップ議事録

要なことです。例えばここ[参加者に提示された大判図面の由比ヶ浜にあるトイレ付近を指して]にずっと並べたら、ここは134号の壁が高く、ここだったら良いのにと純粹に思います。浜の広い所や道路の高さがあるところに浜小屋をまとめて、もっと頑丈なものを造ったら良いのではないかと思ったりしています。

F T : 時間がなくなってきたので、少なくともこのWSで港の話とか、構造強化とか具体的な検討をしなくてよろしいということです。つまり、限られた回数で、現場を見せていただくのが一回、漁業者のビジョンについては是非プレゼンテーションしてほしい、それでディスカッションすると、市民が鎌倉の水産物をどのように使いたいかという点で議論してほしい、などこれらをやっていくとあと一回しかありません。なので最初に言った検討をこの回数の中に入れなくて良いですね。やったとしても中途半端になります。だから、ビジョンに関してプレゼンテーションをしていただく、我々はそのプレゼンテーションを受けて、ディスカッションしましょうということです。そして、水産物をどうするかということについて知恵を出し合いましょう。現場を見せていただきましょう。それで最終的にこのWSでどういう感想を持ったかということです。

参加者 : 要するにまとめるべき成果にたどりつかないということですか。

F T : そうです。時間がありません。

参加者 : 何をまとめるべきかをちゃんと明確にしないからだと思います。だからこういう風にもめるんだと思います。

F T : 私としては具体的に困っている現場があるのだからどうするかとか、もし港が造られるとしたら行政任せで良いか、それに対して注意事項があれば提案した方が良いのではないかということで、提案したが、皆さんはそれよりやるべきことがあるということだったから、その方向で組みなおして良いですか。

参加者 : それか、分科会をするかですね。

参加者 : 成果ありきという内容ではないということであれば、おっしゃる通りやってみようがないかなということになります。無理でも何でも成果を出すか、成果を出さなくて良いというならやるば、必要ないんじゃないかというのは確かに重要な選択肢ですよ。

F T : まとめ方は色々あります。ビジョンということでディスカッションして、もう一度まとめ直して整理する、つまり一回一回勉強会形式だが、ディスカッションを踏まえて報告書を作っていくということはできます。

参加者 : 例えば、すでに何回か使ってしまっていますが、このWSの後に残って

第9回ワークショップ議事録

分科会をやる場合、場所とかはあるんですか。

事務局：確かに二時間というのは短いので、WSをやった後に皆さんが残ってやりたいという場合は一時間でも二時間でもそれは可能です。

F T：こういったことを検討してみたいというチームができて個別にやることは可能だと思います。

参加者：分科会の方が良いのではないですか。分科会の方が自分は好きです。

参加者：しつこいが、同じ思想の人を集めて、強引に成果を出すために同じ意見を。

参加者：じゃなくて、分科会で色々なメニューを作れば良いのです。AさんはメニューAをつくって、BさんはBをやって、あとは皆さんでほしいものを選べば良いです。

参加者：意見の違いで集まるのではなく、テーマで集まろうということですね。

F T：つまり漁港を造ろうというグループではなく、どういう造り方をしたら困るという人と造りたい人が一緒になるということですね。

参加者：同じ時間にやろうとした場合、片方の方にでたら片方にいけない訳ですよ。それはおのずとそこで分けなければいけません。

参加者：時間があるんなら全員でやれば良いですよ。

参加者：やはり全員でやるしかないじゃないんですか。

参加者：例えばここではまとまってやって、分科会でそれぞれ勉強をして、また分科会の延長線上で、皆で集まろうというのがあれば、それで良いのではないですか。

参加者：私が言いたかったのは、設置していて分けるのがおかしいと言っているものであって、やりたい人がやるのは良いです。別の時間にこのWSの後でも、別の時間でも勝手にでも集まって、話し合いをしようというのはあって然るべきだと思うし、私も行きたいです。それがあれば、ぜひ行きたいです。ただこれを分けて、たぬきさんチーム、うさぎさんチームに分けて、一つの意見で集まったら、やる前から結論はわかっています。

参加者：じゃあ、どうすれば良いのですか。

参加者：それをWSの成果として出されるのはおかしいです。

参加者：そう、それをWSの成果として出されるのはおかしいです。

参加者：WSとしてはやらなくて良いのではないですか。WSの分科会ということでもなくても良いのではないですか。

参加者：そういう意味なら賛成です。WSとして分けるのに引っかかっているのです。分科会で出た意見はWSの意見ではないという話です。

第9回ワークショップ議事録

参加者：要するに個人的な勉強会ということですね。

参加者：言葉は悪いが、市役所とは全く別のところで、例えば明日集まろう、というのは個人的にやれば良いと思います。

参加者：せっかくこういうテーマで集まった人が月に一回集まるので、こういうテーマに興味のある人は、この後、皆で意見交換しようということの良いのではないですか。WSでは意見を出せない傍聴者の方もいるし、そういう人も含めて話し合える場を作りたいです。

参加者：どんなテーマでも全員で話して、全員の意見を聞いて、としたいということですか。

参加者：WSの成果とするには全員の意見が必要なので、分科会の意見がWSの成果ではありません。

参加者：分科会は勉強の場でしょう。

参加者：だから全てのテーマが全員で話し合わなければいけません。

F T：わかりました。どんな分科会を結成してどのタイミングでやるかについて、皆さんの意見としては、全体的にはそういうことをやっていきたいと思いますということですね。その後色々なテーマを出されて議論するのは良いということです。私は本来それが大事だと思います。このWSは市の主催でやっています。本当は市民が自ら問題意識をもって自らやっていくというのが良いので、そういうことに入っただけなのであれば、私としても素晴らしいことだと思います。

全体で何かやるということに関してどうするかということですが、限られた回数でどうしましょうか。今まで出てきたのは、市民が鎌倉で水揚げされる水産物をどのように使いたいのか、なぜ流通していないのか、その点に関して議論をしようということをして1回、漁業者さんが、現時点でどんなビジョンを持っているのか、あるいは、どうしたいと思っているのかについてプレゼンテーションしていただくことで1回、あとは現地踏査で1回です。そして残り1回でそれまでやってきたことに対して総括します。そういう報告書を作って、皆さんに見ていただく、ということが良いでしょうか。具体的な検討については、必要があれば部会を作ってやっていくということをお願いします。

参加者：確認ですが、分科会はWSではないので、傍聴に来ている方も参加できるのですね。

傍聴者：もし分科会があって、どんなテーマがあって、グループ分けされてしまうと、全部のテーマに行きたい人もいます。だから、やはり一つのテーマで分科会があった方が良いと思います。漁業者さんの話も聞

第9回ワークショップ議事録

きたいし、水産業の話も聞きたいし、色々なことを聞きたいときに一つのところしかいけないというのは。

参加者：例えば漁業者さんの話というのは、個別に聞けると思います。

傍聴者：でもそれは、一個人の漁業者さんの話であり、GWの時に何で漁業者さんは漁港がほしいのか聞いたら「他のところにあるのに鎌倉には無い。プライドなんだ。」と言われてしまうと、「プライドのために税金」となってしまいます。でも、それは1人の漁業者さんの話で、全部の漁業者さんの話ではないので、やはり色々な漁業者さんの話を聞きたいです。

F T：分科会について、私どもが担当することは全くないので、それは、その方々の方向性によります。それではあと四回お願いします。

終わりに

事務局から次回の日程調整、閉会挨拶を行いました。

なお、第2部④全体ワーキングは実施しませんでした。

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第10回ワークショップ会議録

日 時：平成24年8月25日（土） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市 第3分庁舎講堂

参加者：加者：公募市民：10名 関係団体：8名 計：18名 傍聴者：19名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市役所：市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生2名

プログラム

はじめに

- ① 第9回ワークショップの議事概要

第1部

- ② 鎌倉漁業協同組合の将来ビジョンについて

第2部

- ③ 意見交換／鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョン

終わりに

- ④ 前回のポイントと次回（第11回WS）のご案内

配布資料

第10回ワークショップ 次 第

資料－1：第9回ワークショップで出された主な意見

資料：鎌倉漁業協同組合提出資料

はじめに

① 第9回ワークショップの議事概要

「資料－1 第9回ワークショップで出された主な意見」について、事務局より概略説明を行いました。

その後、以下の通り意見交換が行われました。

参加者：今読むのを省略されていましたが、いきなり資料－1の[その他]冒頭に、「漁港建設に反対する人は自分の居住する前につくられるから反対ではないか、本音を知りたい」と出ていますが、これでは話が前へ進まないでしょう。漁港推進の方からの話もありましたよね。これだけいきなり載せるのはおかしいと思います。

事務局：ではその話も付け加えさせていただきます。

参加者：これは単なる意見なんですか。これを載せるなら他にもたくさん載せるものはあるでしょう。この三つに絞ったのはなぜですか。これを一番最初に載せる意味がわかりません。

事務局：これは単純に意見の出た順番です。

参加者：じゃあ、三つしか出てないってことですか。

事務局：いえ、そういう訳ではありません。

参加者：これは少しおかしいと思います。

事務局：ではその他の意見の部分を修正させていただきます。

参加者：三つじゃないでしょう。後ろにもあります。

参加者：じゃあ、四つだけですか。

事務局：対立項として出てきた意見を出させていただきましたが。

参加者：少しおかしいと思います。大体、これについて議論していません。出た後に、この話をしてもしょうがないと、反対の事だって言える訳ですから、そんなことを言ってもしょうがないという話が出ていましたよね。

事務局：こういった回答もありましたという事で、そういう訳ではない、という意見も次に載せています。

事務局：今頂いた意見ですが、この後、会議録をまた起こしますが、資料－1の主な意見からはもう少し線を引いたらどうか、というご意見がありましたので、ここのところはとらせていただいて、全体の流れがわかるように、会議録の中にはご意見として残したままで、というような取扱いでいかがでしょうか。

参加者：ここからは無くすのですか。あまり無くしてほしくないのですが。

参加者：だったら、これの反対意見も載せたら良いと思います。

参加者：そうそう、そうすれば良いと思います。

第10回ワークショップ議事録

参加者：それを言うんだったら、会議録の内容を全部載せてください。

事務局：この意見に関してのこの後の顛末ですね。詳細に調べて修正したいと思います。

参加者：別紙か何かつければ良いのではないのでしょうか。

事務局：やり方は検討させていただきます。

参加者：おそらく資料の作り方が問題で、全部載せた議事録だけ出していただくんだったら良いと思いますが「主な意見」とすると、何を基準に「主」だったかが、恣意的になるんじゃないか、というご意見だと思いますので、そこはこれから気をつけていただきたいと思います。

第1部

② 鎌倉漁業協同組合の将来ビジョンについて

鎌倉漁業協同組合（以下「漁協」という。）の将来ビジョンについて、漁業者から配布資料「鎌倉漁業協同組合提出資料」により説明を行いました。

第2部

③ 意見交換／鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョン

F T：ファシリテータ（以下「F T」という。）の齋藤です。今日は前回の皆さんの意見を受けて、漁業者の方々にプレゼンテーションしていただきました。これから先は今の話を聞いて皆さんの感想とかご意見を伺いたいと思います。

毎回熱心に話してくださる人と、あまり発言はされないけれどメモは残して帰られる人もいますので、今日はもし嫌でなければ皆さんに一人ひとり発言していただきたいと思います。私は遠慮したいという意思表示をしていただければ結構です。それではよろしくお願いします。

参加者：今お話を聞いて、現状について大変生々しいお話で、良い情報だと思いましたが、ただ、逆にショックを受けています。今まで私が聞いたのは鎌倉漁協の皆さんは漁獲量も十分にあって収入もあって、ただ、危険なリスクがあるので港を造ろうと、鎌倉漁港対策協議会（以下「漁体協」という。）でああいう案が出てきたということです。だから将来をどうしていこうかということでしたが、今のお話をお聞きすると、企業でいえばもう破産寸前で、どうしようと、企業整理をしなきゃいけないというような状況の中で、いわゆる市民の資金を導入したらどうだろうかとか、魚価を上げたらどうだろうかとかいう話ですが、自由市場において魚価を上げるなどは現実的に難しいと思います。いわゆる今の日本の中小企

第10回ワークショップ議事録

業とまったく同じような状況で、競争力をつけるために生産性を上げなければいけない、そのために人件費を下げるために人を減らさなきゃいけない、あるいは国内では価格競争に勝てないから海外へ出て行くとか、いわゆる構造改革が求められています。今の漁業者のお話では構造改革よりも現状で成り立つようにみんなの知恵がほしい、あるいは援助がほしいというお話なので鎌倉の漁業再生をどうするかというむしろ大きな課題が今このWSの中に投げ込まれたなと感じられました。

漁業者：ちょっと誤解のないように。今例として挙げた売上は、私のもので、もちろん定置網をやっている方や、もっと大きい船でやっている方、シラス漁をやっている方というのは、もちろん売上の桁が違います。それをまた別の話にしたのは、これから参入する人たちはまず最初にそういう小規模な漁から始める訳で、それが私のレベルだということでお話しました。鎌倉の漁業者全員がその収入でやっている訳ではありません。

参加者：ただ長年の問題というところに出ていましたが、いわゆる資源が枯渇するとか、これから魚がたくさん獲れてくるというよりも、水揚げが増えないとか、魚価が低迷している、これは一般的な危機感としてあるのではないのでしょうか。

参加者：すでに、かなりお話を伝えていただいたと思いますが、私と同世代というか、同じような仲間と思えるような人たちが大変な時期を経ているのを聞いて悲しい気持ちもありますし、どうにか克服していかなくちゃいけないと思いました。ですが、一番最後に締めくくってある、「こういう状況を打破するためには最低限の条件として漁港が必要である」という点だけは私は同意できません。色々な立場があると思いますが、私はこの鎌倉の湾の中に。

漁業者：どこにあるのでしょうか。

参加者：ここに太字で「安定操業の最低限の条件である漁港建設という目標も」ということで、こう確認すると、若手の想いというところで文章の最後にあります。

漁業者：これは実際には今回は発表していない文です。

参加者：でもこれがあるということは。

漁業者：これはここに書いてあるように、若手漁業者と話し合ったときに、こういう内容で話し合いましたという事で、それが結論だということではもちろんありません。

参加者：でもこの書類だけが残ると若手の立場としては最低限これが必要だと意思表示している訳ですよ。

第10回ワークショップ議事録

漁業者：安定操業のためには。

参加者：おっしゃることはわかりますが、ここだけは私は反対です。

漁業者：なぜですか。

参加者：これまで既に去年から色々話していますが、一番リーズナブル、妥当な案としては和賀江嶋の辺りが、環境の点でも波の被害の点でも漁港建設には良かったのですが、今はだめですよ。だから今の和賀江嶋以外で湾の中にどこか造るとしたら、色々昔から出ている場所とかありますが、私はあそこは良くないと思っています。

漁業者：どこですか。

参加者：昔から言われている、あの、プールの前の坂ノ下

漁業者：坂ノ下の掘り込み案にも反対なのですか。

参加者：それはやっぱりお金の問題とかを考えると、私は市民としては良くないと思っています。

漁業者：市民としてはお金が掛かるから良くないという事でしょうか。

参加者：そうですね。

漁業者：何に対してお金が掛かるから良くないのですか。

参加者：税金の使い道として、という意味ではないでしょうか。

漁業者：では税金は何のために使えば良いのですか。

参加者：だって今もうあれでしょ、鎌倉市は。

漁業者：いやいや、そうじゃなくて、税金というものがありますよね。

参加者：わかりました、私の意見はここまでです。

漁業者：いや、今一生懸命説明したのに結局「あなた達は漁港を造りたいからこういうふうに言っているのだろう、私は反対なんだよ」と言われることに対して少し今、カチンときました。そういうことで話している訳ではありません。

参加者：そういう風に誤解した部分があることに対して、反対と意思表示しただけであって。

漁業者：少し感情的になって悪かったですが、要するに安全操業に港が絶対必要なのです。安全操業という意味ではです。港が造れるかどうかまだわからない訳ですが、安全操業のために今の状況よりは港の方が良い、というのはあるでしょう。

参加者：その議論で去年一年間やってきましたから、今おっしゃらなくても。それに対してそうだと言う人と、やる必要はないと考える人、議論してきた、議事録も残っている訳で。

漁業者：それは違います。今、費用対効果とか税金の使い道として今この鎌倉に

第10回ワークショップ議事録

漁港を造るのはどうか、という事に対して反対というのはわかります。そうじゃなくて私が言っているのは、安全操業のために漁港というものが必要ですよ、と言っているだけで、それができるかどうかという事を言っているではありません。

参加者：その話を、できる、できないとは別と言いながらも、造ることを前提のような書きものを残すのは反対と、こちらはおっしゃてるのだから、今まで出た意見の一つだと私は思います。

漁業者：ずっとワークショップ（以下「WS」という）の意見を聞いていると、漁港を造ることに反対だ、賛成だと常にそこに集約されています。

参加者：基本的なスタートがそこにあったからだと思いますが・・

漁業者：いえ、まず大人にならなくてはいけないと思うのは、自分たちは社会人だということです。ある社会の仕組みの中で生活していて、何か社会が必要だと思ったときに、それに対して利益を得る者もいれば、不利益を被る者もいる、そういう存在なのです。その中で議論していかなければいけないのです。まさに私たちはそれを議論している訳じゃないでしょうか。

参加者：だからそれを議論した中で、港を造る考えの人と、代替案を考える人と、港は反対と考える人、それぞれの立場が表明されている訳ですから、今それをあなたが正しいとか悪いとか結論を出す必要はありません。今そういう意見の人がいると認知して、皆さんの意見を順々に聞いている段階だと思いますので、それで進めた方が話が進むと思います。

漁業者：じゃあ、進めてください。

参加者：私は言いたいことを言いましたから。

参加者：初めてと言っていいと思うが非常に詳しいお話を伺って大変勉強になりました。とりわけこの2ページに出てきた、あくまで漁業者の一部の案というものですが、この事業体構想は正直言って非常に面白いなと思っています。漁業に対しては全くの素人ですが、その素人眼に見ても、ハードルが結構高そうだなと思います。ただ本当にやる気があればできる、と私は思いました。

言いたい事は、例えば言い方は失礼ですがこのくらいの、あるいはこれに準じた発想で、一連の漁業をどうやって獲るどうやって売るどうやって加工するという流れがある中で、一連の流れのイメージがもう少し具体的に湧いてくるのであれば、当然何が必要なのかという話にむしろ行き着くべきであって、その方が個人的に言って納得しやすいです。さて、これが本当に成立するような話であれば、例えばどうすればこれが

第10回ワークショップ議事録

実現できるような、インフラも含めあえて言いますが、いるんだろうかという発想が非常に具体的にしやすいな、というのが率直な印象です。たぶん想いとか、行き違いの中で多分ざらついた話もあったかもしれませんが、皆さんの想いと近いところがあります。ただこの今やっているWSの中で、私は非常にこれは面白いと思っていますが、逆に漁業者がおっしゃるように、こんなことが本当に実現できるかなという意見をあえて持っています。結局「漁港」という言葉が出てくると色々な意味で過敏に反応する部分があるのは周知の事実なので、別に肯定もしなければ否定もしない、そういう言い方は問題がありますが、ひとまず置いておいて、こういう流れをつくっていけるのかなと思います。時間はありませんが、つくればかなり話は具体的にしやすくなるかなと思いました。非常に良い話を聞けたと思っています。

漁業者：例えば、私からはこれは言えませんが、漁港を造らないで、例えば浜から船を下すのを鎌倉の名物にして、それを一つの観光名物としてイベント化してという意見が漁港にどうしても反対だという人たちから一つのビジョンとして出てくれば良いと思います。

参加者：これは言う必要がないかと思うので、非常に耳の痛い話かもしれませんが、非常にご苦労されているスケジュール感がわかりましたが、それは正直言って色々な商売の人が同じような悩みをそれぞれ抱えています。否定している訳ではありませんが、皆それぞれの立場で苦労しているし、つぶれてしまう事業者も山ほど知っていますが、お互い良くも悪くも言いつこなしと思っているのです。実態はよくわかりました。もっと、一つの発想の中で浜から船が出る原風景が鎌倉の名物じゃないかという話は私も知っています。実はそれを言い出したのは松尾市長で、その辺が少しその話を知っていれば言い出しにくいかと思う部分もあります。あえて良くも悪くも押し出す必要はないと思っていますので言うてはいませんが、ただ単にオーディエンスとか見た目ベースの話で言えば、確かに静かな、例えば、早朝などにスーッと船が出ていく理想的な漁業も家から見えます。あれはあれで確かに思うものがありますが、それが当たり前じゃないというのも良くわかっていますので、そこはあまり言わないことにします。

参加者：若手の方々のビジョンをフローチャート等で示していただいて、誠にありがとうございました。感想的にいうと、漠然としたイメージとかそういうのは伝わってきますが、まだ何かインパクトとかやる気が伝わってきません。次の段階としては、例えば浜小屋をどうするのかと、共

第10回ワークショップ議事録

同の事業体で永久的に壊れないものを造るとか、イベントをどういうイメージでやるのかです。前に外国で成功している例も紹介されましたが、もっと一步突っ込んで具体的にこうやらなきゃいけないと思いますし、このWSは行政がやっている訳ですから、最終的には賛成か反対しかない訳ですよ。綱引きな訳です。推進派としてはもっと迫力のあるものをやらなきゃいけませんし、WSとは関係ないかもしれませんが、一方ではやはり本当にやる気があるのでしたら、税金を投入してやる訳ですから、市民に見返りがなければ行政はやりません。それは一つのイベントの開催だったり、今言った浜で船を下して集客していくというその視点も良いと思います。WSとは関係ないかもしれませんが、そこをもっと詰めて皆さんの活動の仕方として、観光協会と少なくとも漁協の承認を取って、そういうものを街頭に出して募金とか始めながら世論を喚起していくとか。目の色を変えると物事は回転します。漁業者さんはもっと目の色変えてこういうメリットがあるんだから、こうやるんだ、というような全面的にリーダーとして出てきても良いと思います。市民とすれば税金を投入してペイはできないものの、これぐらいは市にメリットがあり、我々にもメリットがあるとかでしたら賛成するでしょう。そんな印象を持ちました。

もう一つありがたかったのは、私は障害者の仕事を長年やってきましたので、こういう障害者団体に雇用を、ペイできなければ授産の場でも良いですが、そういう視点をもってくるというのはすごくありがたいと思います。そういう視野を広げていくと、事によるとゴーサインが出るのかな、という印象は持ちました。ただ漁業者さんの立場だと「事によると」じゃだめです。やるんだと、推進するんだ、やるんだと市民をどれだけ巻き込めるか、そういうひしひしとした情熱が伝わってこない、税金を投入するのでその半分ぐらいは市民に返す物がなきゃノーですよ。

参加者：漁業者さんのお話を聞いて、見えない部分で非常にご苦労されているんだなというのが良くわかりました。恐らくここに来られている方々の半分以上はサラリーマンの方が多んじゃないかと思いますが、私は自営業をやっており、非常に漁協の皆さんの生活に近く、早く寝たりはしませんが、収入面では非常に近い生活をしています。どちらかという身一つでお金を稼いでいる感じで、今私も障害を持ってしまったのでサラリーマンの方が羨ましいと思う昨今ですが、皆様のご意見をお聞きして鎌倉らしいご意見だなと思いました。こういうことで物事が進まないというのが私の印象です。良い悪いは別として何か一つの方向に向けて

第10回ワークショップ議事録

議論して、その中で、できないならできない、できるならできるという、進歩的な話し合いがもう少しできないかと思っています。漁協の皆さんの考えている取組みは非常に進歩的でこれが実現できると良いなと思っています。

参加者：私もまず漁業者の話が聞けたのは初めてなのでとても良かったです。こういう事が聞きたかったということも多く聞けましたし、ただ最初に少し角が立つかもしれませんが、これだけのコストをかけたからそれを財産として失われるのが怖いからというのは、それはサラリーマンであっても皆同じです。今日のWSの冒頭に出ましたが、自分の周りに造られるから反対なんじゃないか、という意見がここに残されてしまっていますが、そのマンションに住んでいる一戸一戸の人が自分のお金、ローンをこれから何十年も払ってその場所や景観を買った人たちがいる訳です。私たちのきっかけはそうだったかもしれませんが、話し合っているうちに色々意見が変わって来たり、柔軟になったりした訳です。これからまだ係わっていない何十戸の人から、その景観を買ったのに、という文句が出てくるのは当然だと思います。私たちは話がもうずいぶん進んでいるので、これでも理解している方だとわかってもらいたくて、漁業者たちの数以上の方があの場所の景観も含めて、お金を出している人たちが多くいるのであまりコストの事とか、仕事内容は、少し話がそれますが、仕事が大変というのはどの仕事も大変なことはたくさんあります。海が大変なのはもちろん承知で仕事をなさっているだろうし、満員電車に揺られながら仕事に行くことだって大変なんです。漁業者たちだけが大変じゃない、逆にサラリーマンの事もわかってほしいというのが一つあります。

このある事業体を起ち上げる、というこの形は私もとても良いと思いました。魚食が減っている、魚離れしているという話がありましたが、確かに主婦であっても魚をさばけない人がたくさんいます。実際キラキラと輝くアジがたくさん並んでいて、美味しそうとは思っても自分じゃできないから買えないとか、そういう人たちがとても多いです。こういう企業を立ち上げた中に料理教室、となると少し具体的すぎるが、そういう教える場面があったり講師がいたりとかするのも雇用に繋がると思います。そのようにやっていけたらこの形は私はすごく良いと思っています。例えば、三浦の漁協がやっている「はまゆう」という飲食店などがありますが、そこは漁業者の奥さんとかがそのとき獲れた魚を料理して食べさせたりしていて、東京からもわざわざ食べに来るぐらいになっています。まちでみ

第10回ワークショップ議事録

んなで計画してやったのだと思いますが、そういうのもあるのでやっていけないんじゃないかと思います。鎌倉の中でも小さい子がいながら東京に働きに行っている人たちも、もう少しこの形が確立すれば、地元で働ける所が増えればお母さんたちなどにとっても良いんじゃないかと思います。それぐらい大きい雇用の場になると良いんじゃないかと、この意見に賛成です。

それと、逆に漁港とかじゃなくて浜全体をスロープ化してすっぱり固めてしまって、原風景を活かしつつ、というのも有りだなと思いました。例えば日本では、山下公園のような場所で突然泳ぐことはないかもしれませんが、ヨーロッパとかだと、ビーチじゃなくてもコンクリートになった所で日焼けしたりとか、泳ぐというのが普通にあることなので、原風景を活かしながらそのままそこを海水浴場ということも可能んじゃないかと思います。浜全体を覆ってしまう訳ではありませんが、今の形を活かしつつあったらあるんじゃないかと今の意見を聞きつつ思いました。

朝市の拡大も、葉山などでもとても有名になっていて、ほとんど半分以上の人が東京から来るそうです。名物もいくつかあり、それを目当てに朝早く来ないとそれが買えないからと泊りで来る人も多いそうです。葉山のように地元の近隣でも成功している例もあるので、その辺を少しずつ取り入れながら、この形ができたら最高に良いなと思います。

参加者：貴重なお話をありがとうございました。このWSが始まったときから鎌倉の漁業者さんの方ってそんなに人数が多くないと思っていました。30人とか50人規模ぐらいかを見ていて、それに漁港を造るとなると、やはり少数の人たちがどういう事業をなされているのかすごく気になるころでしたので、こうやってプライバシーにかかわる部分までお話して下さったのは、参考になりました。

この新しい鎌倉の鎌倉人による事業、こういうのがどんどん色々な所で起こっていくのがこれからの日本にとってすごく重要ではないかと思えますし、鎌倉の人間として何かお手伝いできることはないかと思えます。印象として今はまだ、漁業者さんの個人的な考えの部分が強いかなと思うので、このWSが終わった事でそれが立ち消えにならないように、例えば次のWSがあるならこういった事を中心に据えたものになるようお願いします。

やはり漁港の話になってしまいますが、このWSが始まる時に、漁港を造るか造らないかみたいな話だったので、鎌倉の漁業はどのようなものか、日本の漁業はどのようなものか自分なりに色々本を見たり調べましたが、や

第10回ワークショップ議事録

はりそのとき出てきたのは、日本の沿岸漁業は瀕死の状態であるということです。じゃ、瀕死の状態将来性がないのに漁港を造るのかとすごく大きな疑問があり、このWSが始まったときに「儲かっているんですか」という失礼な話もしました。今日のお話を聞かせていただいて、やはりまずは産業としてきちんとした将来性を確立する、こういう事業体をつくり出して、ビジョンをはっきりさせることが、最初の話じゃないか、という思いを益々強くしました。

参加者：このWSに最初に参加したときは、私は漁港を造るのは反対という気持ちがあって参加していましたが、色々意見を伺っていくうちに、投げやりな「どっちでも良いか」ではなくて、もっと面白くなるんじゃないかの可能性を感じた「どっちでも良いか」でして、このWSの結果がどこにいくのかまだ見えないし、これによって市の方にちゃんと上がるかどうかも見えないところがあるので、単純にこのWSに参加して良かったという印象があるのは、漁協の人たちの意見とここに参加している市民の方たちそれぞれの意見が対立することが面白いと思いました。

その中でそれぞれの立場で、例えば魚を獲ることも知ることができたし、ずっと住んでいる人たちの意見も聞けたし、観光も含めなきゃいけない、と色々な意見がある中で、鎌倉に住んでいる事はすごく複合的で、漁港を造るだけというよりは、もっと大きい目で見ないと前に進まないんじゃないかと思っています。極端な事を言うと、魚を獲るという事をイベント化する、私は小さな子供がいますが、地引網とか体験できるじゃないですか。それを体験したときに「ああ鎌倉で魚が獲れるんだ」と純粹に思いました。市民の中でも知っている人と知らない人がいて、市民がみんな参加できるものがあって、それこそ小学校の学校行事に組み込んでしまうくらいの強引さがあってもいい良いと思います。そうするとその学校行事の中でどの学校を卒業した鎌倉の市民も、学校のイベントでこういうのがあったんだと大人になっても話すし、鎌倉って面白いことやってるね、という話になります。それが段々外に広がっていくと、鎌倉って良いまちなんだということにもなるだろうし、魚を獲る事に専念したい方もいらっしゃると思いますが、船に乗せて沖まで連れて行ってあげて、パドルボートをやらせるとか、ヘリスキーでも良いですが、そういう発想も良いんじゃないかと思っています。鎌倉市民が勝手に楽しんでいる事に、他地域の人も面白そうだなと寄ってくるのが観光かなと思っているので、単純に漁港とか魚を獲ることとか風光明媚を守るとかがどうとかいうよりは、もっと全体的に鎌倉って100年後どうなっているのが良いのか、みたいところま

第10回ワークショップ議事録

で考えて良いんじゃないか思いながら、WSに参加しているのが現実でした。

漁業者：観光と鎌倉、あるいは観光と漁業というのは、これからの漁業を考えるときに切り離せないキーワードという気がします。観光に来られる方をどう漁業の中に、あるいは水産業の中に取り込んでいくか、あるいは水産業の消費者として取り込んでいくか、という事も含めて可能性はあると思います。先ほどジリ貧じゃないかという意見がありましたが、確かにこの現状を見るとどこの浦も変わらないように獲ってきたものを仲卸に売ってお終い、というルートができてしまっています。このルートはどこかでやはり改革しなきゃいけない、変えていかなきゃいけない、それではジリ貧になるのはわかっています。じゃ、ここは鎌倉なんだ、年間何十万、何百万の観光客が黙っていても来る場所だ、ということがあります。この観光客をどうやって魚に目を向けさせるか、という事を考えていくことが実は私たちにとって一番大切なことじゃないでしょうか。面白がってもらおうという事、それを市民が一体となってやってみるのはどうか、という事だと思います。

これは冗談として以前話したのですが、100万人の人が1人10円ずつ寄付してくれれば1000万円だと。簡単な言い方をしてしまうと、まず鎌倉はそういった条件として良い条件があるんだからそれをどうやって利用していくかという事をみんなの知恵を借りながらやっていきたいと思います。今の彼が言った事も含めてその可能性はあると思います。

参加者：毎回たくさん意見を出させていただいています、今日は逆に色々な方の意見を聞いて、もちろん漁業者の方のプレゼンも素晴らしかったし、他の方の意見も聞いて非常に貴重な機会だと思っています。初めに私の立場ですが、私は地元住民でサラリーマン、ただサラリーマンでも中堅企業の経営に近い仕事をしています。そうすると先ほどの意見のように毎日、競合他社との競争ですとか、社会の中の揉め事みたいなものですか、単純に利益が落ちてくることに対して、非常に危機感を持って日々過ごしている人間です。地元住民という事に関しては、先ほど冒頭で自分の居住地の前に造られるから反対なのではないか、という話があって、これは非常に頭にくるというか、私個人としてはそうじゃないんだという想いがあります。地元の住民と話していても、論点は二点なんです。自分の居住地の前だろうが本当に必要であれば、造られてもしょうがないというか造っても良いと思っています。

なぜ反対しているかという一つは、皆の血税だからです。我々だっ

第10回ワークショップ議事録

て自分が経営している会社が潰れるとなったときあるいは業績が伸ばせるというときに、税金を使えば本当に楽です。それができずに、むしろ税金を払う側にいます。その税金の使い道に対してはすごくセンシティブになっていて慎重に考えていただきたいという事が一点です。

あとは環境の問題、この二点で反対しているのも、自分の家の前にできるから反対しているのではない、ということこそ主な意見に毎回明記してほしいほどです。毎回言っているのですから。その上で、いただいたビジョンに対しての私の意見は、非常に良いなと思っています。何が良いかと言うと、やはりこの出資利益配分、市民を巻き込んでということで、こういう形であれば、例えば私が漁業者さんの事業を応援したいと税金とは別に一万円出資しますとか、この事業に賭けてみたい、というときに自分の意志でそれを応援するとかお金を出すとかできるので、こういう形は非常に素晴らしいと思います。ただこれからぜひ発展させていきたいと思うときに、これってあくまでも組織体だと思います。何かを進めていく、あるビジョンに到達するための組織体という位置づけだと思いますので、組織体に意思がある人がちゃんとお金を払って事業を応援するというスキーム自体は私はすごく賛成ですが、これから若い漁業者の方たちがもっともっとこれを通してどうありたいんだという、それこそビジョンを作っていくと良いと思いますし、必要であれば、まさにこのWSそのものがそういう議論をすれば良いのではないかと思います。そのビジョンってどういうものを作れば良いのかというと、それこそ色々な企業がビジョンを作っているのです。そういったものを参考にされたら良いかと思いますが、現状認識が大切だと思います。聞いていて思った事は、例えば基本的に漁獲高は増やさずに単価を上げていくなれば、それがどの程度できて、鎌倉の漁業というものの全体のどれぐらいの、今売上をどれぐらいまで伸ばす、それは主に単価を伸ばしていくんだとか、あるいはどこかに書いてありましたが、鮫とか今まで使われていないものに付加価値をつけるんだとか、あるいは今すごくロスがあって、ロス率を改善して売上高に近づけるんだとか、あるいはおっしゃるように中間マージンがあって、中間業者さんもうらっしゃるのでまたセンシティブな問題にはなりますが、そのマージンというものを取り込むんだとか、いくつか具体的な数字で、何億円か何百億円か売上を上げていって、そうすると結果的に、皆さんの所得も上がっていきます。そうやって漁獲高が上がっていくという事は、実は市民の中で鎌倉のものを食べている人が10%とか20%とかしかいませんでしたが、それをやることによって30%とか40%とかに上がるんだと、あるいは今ま

第10回ワークショップ議事録

で調理ができなかった方が調理ができる割合に高まっていくんだと、そういうものをきちんとビジョンの中に盛り込んでいければ市民団体の応援というものができてくると思います。そういう形で議論を進めていくと良いんじゃないかという事と、後は、市民・市民団体に限らず、私はそういう関係の仕事も少ししているのですが、ソーシャルファンディングとか、鎌倉が好きな人はたぶん市民だけでなく、都内とか色々なところに居ると思います。この活動が認められるとそういう人たちも少しずつ出資するとか応援するという様にできてきますので、夢物語ではなくてこれは真剣に考えて進めた方が良いと思います。

もう少し話したいですが、進めるにあたって、ぜひ私が言いたいのは、先にビジョンがあるべきで、それを皆で検討したらいいんじゃないかというのが一点。そしてビジョンのためには現状分析を数値化して示すことが大事なのではないかということ。三点目に言いたいのが、事業体について夢物語と言っていますが、現実的にできるのではないかという選択肢もあります。例えば財政的には難しいと書いてありますが、どういう仕組みかわかりませんが、漁協自体がこれを正式にやるとして、それに対して何らかの資金を広く集めるという方法もあるでしょうし、いくつか例も出ましたが、三浦とか葉山とか他の漁協と連携して漁協の組織をもう少し基盤をしっかりと大きくするという形でできるという案もあると思います。この形で鎌倉として市民を巻き込んでやる形もありますし、いくつか現実的に考えていけば、この方法ができるんじゃないかと思っています。それをぜひ検討していけばと思います。最後に言いたいのは二点で、大きい話で言うと、前回のWSで私はこのWSは終わりにしても良いのでは、と話していて、なぜかというやはりビジョンが先だと。鎌倉水産物、鎌倉水産物流通、あるいは市民の水産資源の利用、広い関係のビジョンをきちんと作ってから、漁港の話となるのではないのでしょうか。少なくとも漁港については今の時期は無理がある、と結論として出ていると思っています。今回改めて、漁業者さんの話もあってこういうもっとビジョンを先にしっかり話す、それはこの場なのか違う場なのかはわかりませんが、それを初めにやるべきだという思いはさらに強くなりました。細かい話で言いますと、素朴な疑問として小坪なり腰越なり、近隣の港なり漁業者の方ともっときょうりよく協力すれば今の食品の安全性を含めた課題とか、水産物を普及させようという話とか、もっとできるのではないのでしょうか。素朴に疑問として思いました。

漁業者：せっかくここに来ているので、若い漁業者たちに聞きたい事があつたら

第10回ワークショップ議事録

どんどん聞いてください。

参加者：まずこういう機会にこういう話が聞けて、皆さんも来ていただいてこうやって話をしていただけたのは非常に良かったな、ありがたいなと思っています。忙しい中集まっていたいただいてありがとうございます。

今この話を聞いて、そもそもこの話を一番最初にやるべきだったのではとまず思いました。行政の作った資料で行政の人が話すよりも、どこまでオーソライズされたものかわかりませんが、こういう現場の声、こうやって生の人たちが来て、こういうことを言う、というのがなぜ最初じゃなかったのでしょうか。とはいえ、時期的にはもう後ろの方ですが非常に良かったと思っています。

挙手して話せと言えば話すようなことじゃありませんが、感想としては、個人的な話ですが、自分も東京で父親が町の電器屋を細々とやっています。皆さんと同じような個人事業者です。今日も朝の9時から夜の9時まで一人で暑い中、屋根に上がったりエアコンの室外機をいじったり、色々やっています。少し羨ましいなと思ったのは、そういう町の電器屋というのはどんどん減っていき、残された電器屋だけにはっきり言って儲からない仕事ばかりがやってきます。儲かるというか、品物を売るとするのは皆量販店行ってしまうので。月収は20万円ありません。今自分がそれを継ぐか継がないかという状況なのですが。もう父も七十歳近いです。そういう月収も20万円ない、命がけの仕事です。この暑い中、休みもほとんどなく、本人曰く「町のインフラだから休む訳にいかないんだ」とやっています。ですが、行政だろうが、市民の方だろうが、誰も助けてくれません。例えば安全です。屋根の上に安全に室外機を上げるために、何か補助が出るかといえは一切出ないし、やるなら自分たちで買いなさいという世界の中、こういうのを見てしまうと、少し羨ましいと思うのが正直な感想です。

現実的な話として、今お話を聞いていると、漁業者の皆さんの夢というのを簡単にまとめると、一つは安全の問題だと思います。もう一つは生々しい話ですが、売上とか経済的なことだと思います。安全という意味であれば、これは何年先とかじゃなくて、今すぐの話だと思います。今すぐできることを足踏みしているのではなくて、とにかくできるものは先ほどの話とは違う意味で死にもの狂いというか、前のめりになってやったほうが良いと思います。それこそ今やるべき問題だろうと思います。もう一つ売上、経済的な話はどうやら漁港がどうのということではなくて、さっき漁業者さんが言っていたような話は本当に去年の最初に出ていた案の

第10回ワークショップ議事録

一つだと思えます。流れとしては、近々の問題ならまず安全についてはとにかく今できることをすぐにやる、話を始める、先ほど近隣とのとかありましたが、できることをとにかくやる、経済的な事に関しては先ほどの良い案があるのですから、それをやり、去年などは直販が厳しいみたいな話でしたがそういうのを乗り越える事も含めて、外食だとか直販だとか朝市だとか、建物を造っても良いと思えます。そういうのをやってそこがすごく盛り上がり、そういう形ができましたと、鎌倉のまちにそういうのができて、皆がやってくるとなったとき、その段階で漁港というものを再度考えれば良いのではないのでしょうか。漁港なんて今の漁対協の案で考えられていると思えます。この夢が大きくなって、もしかしたらこんな規模じゃ済まないかもしれません。腰越みたいの後からどんどん増やしていくのではなくて、このときにもっと大きくなっているかもしれませんし、そうしたら、また再度大きくしなくちゃいけないかもしれません。だったらまずは先ほど出ていた案、これは皆さん反対するような人は多分いないと思えますので、そちらを進めて鎌倉の漁業、鎌倉のまちの観光の一つとして、漁業というのをちゃんと確立してから考えるべきじゃないのでしょうか。

参加者：漁業者さんの具体的な仕事の状況とか、若手の方の話を伺えてありがとうございました。

税金を使うのはどうかという話もありましたが、現状を見ていると放っておくとこの産業は厳しくなってもしかすると衰退してしまうかもしれない、そういう可能性や現状があると理解しています。では、鎌倉に漁業が無くなって良いのかどうかというのが少し自分の頭に浮かんで、自分としては第1次産業があるというのは鎌倉の特色でもあるし。この第1次産業を、例えば税金が血税だからそんなものに使うなだとか、他の人も同じ様に苦労しているから、という様にしてそんなの勝手にやりなさいと衰退していくのは何か。鎌倉の漁業も長い歴史があります。それが単にお金の問題でできませんというのは。漁業というのは文化的な側面もあるので、税金が血税だからもったいない無駄だからと切り捨てられてしまうのはなにか少し。自分は少しそういうのは割り切れません。比較ですけど類比的に言えば、文化的な活動はもう国や市で助成するのはもうやめようというような話に聞こえてしまいます。税金がもったいないからと、ここで税金を使わなくてもきつとどこかで使ってしまう。漁港分の税金を減らしたからって我々の税金が減る訳ではなく、他に使われてしまうんだから。漁港の建設費用が市の歳出の何%にあたるかは知りませんが、1%とかそれ以下なら別に費やしても良いんじゃないかと思えました。マンショ

第10回ワークショップ議事録

ン建設が理由で反対という過去の。そういう方も住人でいらっしゃるという話ですが、全戸数で百戸か五十戸か知りませんが、その人たちのためにこの一つの産業が無くなるというのも。

参加者：誰も無くせとは言っていない。

参加者：ただ、可能性としてはここまで来るのは衰退しそうだというのがあります。それもなんか少し、というのが疑問です。

漁業者：少し余談になりますが、東日本震災で多くの漁業を生業としている地域が損害を受けて、それをどのように改修していこうかということが進められていますが、要するに漁業は漁業組合員が専任的というか優先的、排他的にと言っても良いですが、漁獲ができる組織としてまず漁協があり、漁協に対して漁業が認可されているという現状です。これを一般企業に開放しようという動きがありました。疲弊している漁協に対して裕福な資金を有している企業が、漁業の漁獲をするということに参画することで、活性化を早めようという議論があったことに対し、多分これは反対で立ち消えになったと思いますが、このときになぜ反対したかという多くの論調は、第1次産業を経済の事だけで話してはいけないだろう、という論調でした。第1次産業を経済的な利益の効率という事だけで話したら、文化が失われます。一体日本人と言うのは何なのだ、あるいは地域文化というのは何なのだ、と言ったときに、それはやはり気候・環境・風景、そして食べるもの、そういう意味で第1次産業というのは常に文化の基本にあります。それをないがしろにして単に経済問題にしてはいけない、ということがあったと思います。大分議論されて立ち消えになって。確か時限立法にするということを提案していたと思いますが立ち消えになりました。良かったと思っています。今おっしゃられたように第1次産業は経済だけでは語ってはいけない問題だと思います。

参加者：マリンスポーツ連盟という立場でものを申し上げますと、我々の会員の中にも漁業者の方もいますし、連盟の係長も漁協組合員の方でなっていますので、賛成、反対というのは言えませんが、我々の中でも賛成とされている人と、反対だと思っている人と、二つに分かれています。

大体否定的な考え方の人は、一つは環境問題に対して厳しい方、というのが一つ考えられます。もしくは、自分の使っているゲレンデの前に漁港ができたら困る、先ほどのマンションの問題と同じような。この二つが主な原因だと思います。

だからここでマリンスポーツ連盟の立場としての意見は言う事ができません。ただし、私個人としての考え方は、鎌倉市は鎌倉の海のことをあ

第10回ワークショップ議事録

まり考えていないと思います。我々も漁業者と同じように鎌倉の海でもって商売をさせていただいています。第1次産業か第3次産業かの違いで補助金が受けられるか受けられないかの違いはありますが、同じように海を使って商売をしています。その観点から考えると、先ほど朝、最初に話がありましたように、今日は台風の波が入っていて、サーファーと漁船の出入りの問題というのが、必ず台風の時期になるとあります。

そういった問題をどうやって解決したら良いかと言いますと、サーファーは入るな、ここにはサーファーは入らないでくれとなるか、もしくは、漁業者の方が出るな、ということになってしまいます。そういった色々な問題は、私が鎌倉に来て30年ほどになりますが、その中で考えたのは、鎌倉の海を良くしていくのは自分たちから積極的に鎌倉市にお願いをしていかなきゃいけない、というのを良くわかっています。私の考えでいくと、浜に漁師小屋があるというのがまず一つの問題で、それが無くなれば先ほどのサーファーと漁業者の問題は一つ解決します。それから海の家を含めた浜の利用、海水浴場の期間中は7月、8月の二か月間ですが、この間マリンスポーツというのは、材木座と坂ノ下の両端からしか出入りすることができません。一番込んでいる時期は浜が二倍ぐらいの人であふれてしまう場合もあります。そういうことも含めた上で、鎌倉の海の事を常に考えますと、港を造っていただいて、そこに漁業者さんたちを全部集約してもらって鎌倉の海を、浜を、もう一度きれいにしていただきたい、というのが我々の連盟は思っています。昔から漁港の問題というのを私は知っていますが、やはり費用がかかるということで、反対される方がたくさんいるのは知っていますが、環境の問題に対しては埋立式でいけばこれは解決できません。お金は掛かるが堀込方式、これでもし港が造れるのであれば漁業者だけでなく、住民の方も一番問題なく解決できる方法だとは思っています。ただお金だけだと私は思っています。

参加者：今日は漁業者の方たちと会えてとても良かったです。特に、●●●ちゃんに会えたのがとても良かったです。なぜ良かったかという、可愛い子に会えたというのもありますが、こういう人材が鎌倉の漁業者の中にいらっしゃるといのはとても強みだなと思います。

漁業者さんの言っていることは、鎌倉の漁業をもっと「ブランディング」と私たちは言うのですが、要するに有名にしよう、という話だと思います。例えば「●●●ちゃんのアカモク」といって、ただのアカモクじゃなくて、瓶にこうやって、「●●●ちゃんブランド」って売らただけで一つのブランディングになります。とにかく鎌倉の漁業というものをどうやってブラ

第10回ワークショップ議事録

ンディングできるかです。鎌倉やさいはもうブランド化されて結構経つじやないですか、なぜあれがブランド化されたかと聞くと、一つは鎌倉の農家の方はレストランのシェフたちから「あれ作ってよ」と言うとその種や苗を買ってきて、他の農家が作っていないような、外国の野菜とかハーブだとか鎌倉の畑にしかない野菜をたくさん作っているのです。つまり消費者の意見を取り入れているということ、それは結構ブランド化には基本的に重要なことかなと思います。どうやって聞くかは色々考えていきたいですが、そういう生産者側の論理というか生産に携わっている側の論理だけではなくて、消費者側の意見をどうやって拾っていくのかも検討していきたいと思いました。

色々なお金の問題もあると思いますが、私は漁港の問題というのは、デザインで解決できる問題だと前から思っていて、目的はブランディングだと思うので、先ほど少し出かけましたが、船を押し出すというのは大変ですが、それを逆に売り物にしたら良いんじゃないかという話だと思います。例えば酒造りです。大きなブランドも日本にたくさんありますが、地方の小さな酒蔵だけど、純米酒や吟醸酒の美味しいものを造って、量は少ないが高く取引されている日本酒があります。大きな酒造メーカーはステンレスの機械化された蔵でつくっていますが、昔ながらの木の樽を使って温度とかの管理がものすごく大変でそういう杜氏とかがNHKとかのプロフェッショナルとかに出てきて活躍しているのを見ると、あそこのお酒飲んでみたいと思うじゃないですか。

つまり結構苦労しているところを見せると、付加価値がつくような気がして、楽なんだよこの漁港はとなるとかえって、効果が減るのではないかと思います皆さんのご苦労は大変だと思いますが、楽なものを目指しすぎない方が、それよりはとにかくブランディングするには何が効果的なのかと、少しドライな目で見られないかなと思います。少し苦労ですが、鎌倉という環境とか鎌倉という風景を守るためにも、そういうことも鎌倉の漁業者は大切だと思っていますので、過酷な労働にも我慢して、魚を獲り続けているんです、という方向性を私たちも含めて考えていきたいと思っています。そのためにあまり楽じゃないですが、最低限の風雨から守れる漁港で、観光の資源にもなって、というので、私が考えているのは、「新和賀江嶋」をつくる。どうやら和賀江嶋をいじるのは文化庁の方針もあって難しそうだということが今回わかりました。だったらもうひ一つ造ってしまえば良い。和賀江嶋は昔は文献によるとこうだった、今ある和賀江嶋はもう崩れていて本当は歴史的価値が無いのに、文化庁のつまらない政策

でいじれないのなら、鎌倉時代にあった和賀江嶋は石積みでこういう感じだったんですよ、最低限の機能は持たせますが、あまり楽じゃないけども観光のためにはこういうデザインが良いんじゃないかというのを、多分日本にも世界的にも例は無いですが、例が無いとできないのかと、そういうことではなくて、これからそういう設計する人を人材を集めて作れば良いんじゃないかと思います。というようにデザインで解決できるのではないかと最初から私は思ってこのWSに参加していました。

漁業者：木の樽で造った酒と、ステンレスで自動化された酒とでは確かに木の樽に杜氏が漬け込んだ酒の方が何となく美味しそうだし、というのはわかります。実際美味しいでしょう。でも、残念ながら樽をこいで木の船で獲った魚とプラスチックの船で獲った魚は一緒です。苦労の味がするかどうかというのは、少し当てはまらない気がします。言っている事はわかりますが、例えば今、ナイロン製の網で魚を獲っています。昔は綿だったんですけど、綿の網じゃなきゃ掛からない魚がいるとしたら、それは良い。でも掛かる魚は一緒ですから、中々難しいかなという気は少しします。私は先ほど、浜から押し出すのを「大変だけどそれを売り物にしたら良い」と言ったのは、少し誤解があって、例えば私たちがこういうビジョンを出したのに対して、どうしても漁港はいやだと言う人がいるのでしたら、代案のビジョンとして、そういう船を押し出すというのを観光の目玉にして、要するに、水産業そのものを活性化するビジョンを出してみろ、というぐらいのつもりで言いました。それはあるかどうかわかりません。私は、敢えてそれを、毎日365日観光の目玉だからと言って続けるのは少し大変だと思います。週に一回当番を決めてやるぐらいなら良いですが。ほんとに大変なんです。毎日満員電車で揺られて行くのは大変、その通りです。資金繰りが大変、その通りです。皆苦労しているのはわかっています。そういう意味でここに、漁港がほしいときに、安全操業がしたいということと、物理的な意味で効率的に仕事がしたいというように二つに分けたのは、そういうことです。二番目の物理的な意味で効率的な仕事がしたいというのは皆同じでしょう。私たちにも正直言って楽したいという気持ちはあります。それだけではなくて、今の安全ということに対してこの安全だけは何とかなしたいという切実な思いだけは、何というか、毎日の通勤電車のホームと電車の間が1mも開いているのはすぐ直してくれるでしょう。そういうような意味なんです。満員電車の冷房をもっと効かせろというのは、私は少し違うと思っていて、そういうところをわかってほしいと思います。

第10回ワークショップ議事録

参加者：今、漁港がどうかではなくて、この事業には結構皆さん賛成だという意見はありましたから、これを中心にもっとこういう話を、先ほどもありました。最初に漁業者さんの話を聞いて、最初にこういう事をしたかったです。そうすればこんなに時間を無駄にしなくて済んだのにと皆思っています。こういう話を、皆、したかったです。

漁業者：こういうところで話し合うというのは、どっちが先かということなのですが、文化的な建物、文化的な何か、イベントをやるための建物を造れば、文化的な催し物がたくさん行われるという様に考えがちだった時代があります。でも、今そう考える人はいません。漁港を造れば水産業が盛んになって、私たちも潤うし、鎌倉市民も潤う、というのはそういう論理で話されていたことだと思います。この何十年も話されてきたことは、嘘ではありません。過去の漁業行政はそうやってきました。でもどこかでこれを見直さなければいけない時代が来ていて、それは多分20年くらい前に見直さなければいけない時代が来ていた。それが今までずるずるとここまで来ていますから、これをどこかで断ち切って、そうじゃないんだ、箱を造ってもついて来ないんだと、むしろ箱の中のものをきちんと造って、それでは箱を造ってください、というのが論理的な事なんでしょう。

参加者：質問が二つとお願いが一つと技術的な物が。

安全面でお話の中に、遠浅海岸なので船の出し入れとありましたが、それは堀込式であろうと、突出し棧橋式であろうと同じ事ではないのですか。遠浅の海岸は砂地が続いていますので、船が来るときはリスクがあります。それでは突出しが前にあれば少しは前から船がスタートするから良いのでしょうか。

漁業者：漁港では必ず漁船が安全に係留または航行できる水深を確保するために、海底を掘り込む訳です。例えば埋立ての案に仮になったとしても、突堤を造って突堤の端は水深3mから4mになるように海底を掘り込む訳ですから、そう意味ではもちろんそれは安全ですね。

参加者：次の質問です。今日の漁業者さんの話にも私も賛成だという方、手を挙げて。こちらの方でどうだと聞いたら概ね65%は好意的です。

漁業者：それは感じますが、別に手を挙げてもらう必要はありません。

参加者：それならその方向で次のステップへ議論しないと、1年半をまた徒労にしますよ。今日は生身のお話があって、本来これは文字や活字でレポート読んでふんふんじゃありません。今日のように話を聞いたら、結構皆さん納得がいった部分があるでしょ。今日のお話を事務局がどういうレポ

第10回ワークショップ議事録

ートを上へあげてくれるか、問題点をどのように詳細に説明してアタッチするか、次回が最終回に向けての大きな分かれ目になると思います。自分自身は今日のようなお話であれば、徹底的に協力します。物理的にも支援を、知識も、そして人脈も。

F T : 時間を過ぎてしまいましたが何か他に意見はありますか。

漁業者 : 今日初めて参加しましたが、前回までのWSは喧嘩別れだとか聞いていて、今日来るのはどうしようかと気構えていましたが、今回参加した感想は非常に楽しかったです。楽しいという表現があっているかどうかわかりませんが、また参加したいと思うWSでしたので、ありがとうございました。で、●●●さんだけが発言するのは独壇場で、他の漁業者が発言しないのはやる気がないのではと思われても困りますので、今回こうやって発言します。この前、今回こうやって参加するという事で、飲み会がありました。それは若手が皆で集まったのですが、集まればやはり皆それぞれ思いがありますので、お酒が入っているのもありますが、色々な話になりました。亡くなった●●●さんがいたころから新人と呼ばれる人たちを集めてやっていますので、新人たちと呼ばれる面子はとても仲良くやっています。これから鎌倉をどうやっていこうかと色々考えていますので、それも踏まえて今後またWSで話していければ良いと思います。後、先ほど学校の行事と、子供たちを乗せて観光にもっていくとか、船に乗せてという話がありましたが、自分が思ったのは、港が無いので、大きな船にまず乗せる事ができません。子供たちを運搬するにはまず港から乗せた方が安全ではないのでしょうか、というのが率直な意見です。勝手な意見ですが。

もう一つは、震災。私の田舎は石巻です。被災地に行かれた方はわかると思いますが、堤防と言う話は少し違うと思いますが、港ができれば自分の家の前で堤防の役目をして、守ってくれます。東日本大震災くらいのレベルではとても守れませんが、安全という面でも守ってくれるのではというのが、石巻を見ての自分の意見です。それから3か月ほど仕事をしていて思うのは、新築の家が増えて引っ越しをしてきた子供がとても多いです。清和由比のような老人ホームとかもたくさんありますので、坂ノ下に堤防でもあれば多少なりとも安全が確保できるのではと思います。漁業者としてではなく個人の意見です。5年前鎌倉に来る前、漁業者になる前は私もサラリーマンをやっていましたので、言葉足らずだったらすみません。わかっているつもりではいます。今日は貴重な時間をありがとうございました。

第10回ワークショップ議事録

漁業者：若手漁業者の中で、発言しなかった者が何人かいるので紹介します。ここ5年のうちに組合に参加した若手です。

F T：有益な話も伺えましたので、議事録に残したいと思います。事務局から前回のポイントと次回の説明を行います。

終わりに

事務局から次回の開催予定、閉会挨拶を行いました。

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第11回ワークショップ会議録（現地見学後）

日時：平成24年9月29日（土） 11:00～12:00

場所：鎌倉漁業協同組合会議室（見学場所：小坪漁協、坂ノ下地区）

参加者：加者：公募市民：10名 関係団体：7名 計：17名 傍聴者：2名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市役所：市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生 4名

プログラム（現地見学行動予定）

	時間	行 動	備 考
①	8:30	受付開始	市役所正面玄関前
	8:45	出発	マイクロバス
②	9:00	小坪漁港見学	施設見学、解説 他
	9:30		
		移動	マイクロバス
③	9:45	坂ノ下地区周辺見学	浜小屋見学、漁労体験 他
	10:30		
④	10:30	坂ノ下護岸周辺見学	徒歩
	11:00		
⑤	11:00 12:00	意見交換	鎌倉漁業協同組合会議室
⑥		解散	市役所まで送迎可

配布資料

資料：現地見学予定表

資料：現地見学資料（地図）

意見交換会

① 現地見学を終えての感想

現地見学を終えて、今の感想を参加者に話していただきました。

F T : 前回と同じようにお一方ずつご意見、ご感想を述べていただこうと思いますが、今日は漁業者側が皆さんをお招きしたので、お招きされた方の方々を中心に意見を聞きたいと思います。

それでは、そちらから。

参加者 : もっと早くやるべきだった、それだけです。

F T : そうですか。ありがとうございます。いかがでしょうか。

参加者 : 現場を見られたのはすごく良くて、皆も色々なことがイメージしやすかったのですごく良いのですが、これでこの前出た「ある事業体」の話がどうなったのか、これで終わってしまわず、ちゃんと話を詰めていくべきです。あれはとても重要で、皆が「それは良かったね」と多くの人が思ったので、あれがこのまま立ち消えにならないことを願います。

F T : それは、今回のワークショップ(以下「WS」という。)はあと2回しかないのですが、その中でということでしょうか、それともWSを超えてという事でしょうか。

参加者 : 超えてというわけではなく、この間はいずれがメインで話し合われるのかというぐらいの流れだったのに、あれはどうしちゃったのかなという思いがあるので、それを話し合いたいと思います。

F T : ありがとうございます。次の方どうぞ。

参加者 : 私何もありません。ただし、今日の現地踏査は、私にとっては珍しくもなんともありません。あの辺は100回か200回か朝5時半とか8時半とかに来て、作業風景を見ているので十二分に想像できます。その意味では全然新鮮味がありません。むしろ、WS論をこの頃ファシリテータ(以下「F T」という。)が口にされているので、この会合はWS論の会合だと私は思っていませんでした。WS論がいかにあるべきかとか、そういうものだとは思っていませんでした。

参加者 : 今終わったばかりなので、少し整理がついていません。体験させてもらい、ひよこサラリーマンにはきついな、3日もやったら私は死ぬなと思いました。それは事実です。とはいえ、小坪へ行って見て、簡単に言うと、漁業者さんたちが自分たちがお金を出して造るといふのなら、反対はないかなと思います。税金の使い道としてどうなのかなという問題がやはり残っています。大変なのはわかりました。わかるのですが、市民にどう還元されるのか、という部分が明確にならないと、市民のお金としてそれ

第11回ワークショップ議事録

を造るのはどうなのかなという疑問の解決には、今回はならなかったというのが正直な感想です。この間旅行ついでに出雲の境港というところに行ってきたのですが、そこはもう本当に港が中心の観光にはなっているのです。とはいえ、港にお客さんが来ているわけではなく、そこで取れた魚等を買ったり食べたり、それに付随して周りに鬼太郎などもありましたけど、そのようなまちだからこそ、港が必要なんだろうなと思いました。鎌倉もそういうようなまちだと、誰もが思うような状況になれば、必然的に港は必要なんだろうなと思いますが、今のところはそういうことではないし、前回23年度にやった結論である今は無理であるというのは正しい判断だったのだろうなというのが正直なところですよ。やるのだったら、本当に境港のようなまちを作ろうとするのだと、今の案では絶対無理だと思います。それこそ、掘り込み式ではないですが、大きいのを造って、どんとやると、鎌倉をそういうまちにするという覚悟を市民全体が持ってやるしかないと思います。

今の案だとすべてが中途半端です。結局小坪に行って聞きましたが、市民が利用することはほとんど不可能で、危ないだとか、何かする駐車場だとかそういうのも、空間だとかあるし、とはいえ使用料もとっていないし、全ては税金であるということだし。今のままでは市民に還元といっても、緑地ができるというレベルで終わってしまう気がします。であれば、今緑地はありますし、市民にとってはいらぬのではないかという結論になりかねない。なのでやはり、さっきもありましたが、前回の会議WSで皆でいろんな魚を市民に還元する方法を考えようとか、やはりあれを先行して、あれをどういう風にするのか、それに必要なのは何なのかという議論をしていかないと、解決しないし、漁業者のみなさんはああいう命がけのことを毎日やっているわけで、日々だけがどんどん過ぎていくという、なんか、非常に、すみません、まとめる時間がないので、思うところをずらずらと言っていますが、何かそんな感じです。

あと緊急にやらなくてはいけないのは、あそこ今あんな状態で、手作りの小屋みたいに自分が見えたのですが、砂浜はでこぼこしていて、あんなところで命がけの仕事をするというのは非常に危険だと思います。まずはあそこを今改善するべきではないかなと。ま、思いついたことは、簡単なことしか思いつきませんが、たとえばコンクリートをあその前、そこだけにひくとか。プロの皆さんがたくさんいると思うので、あそこをどう改善したら良いかというのを早急にやって、1年でも良いから早く、そちらをやった方が良いのではないかと思います。

第11回ワークショップ議事録

参加者：企画自体は非常に良かったと思います。思っていたよりも皆で歩いてみた方が分かり易かったです。細かいところ言えば、ちよろちよろ見ている中で思ったこととか、改めてまた聞いてみたいこととかありますが、私も整理できていないので、整理して、確認してみようかと思っています。少しだけ、今日の中では残念かなと思うのは、あれは平成21年度だったか22年度だったか、そもそもなぜ漁港が必要なんですかという議論があった時に800万円くらいかけて外部業務委託して、なぜ漁港がいるのかというレポートを作られましたよね、市役所で作りましたよね。

事務局：構想をまとめようという段階の委託業務で。

参加者：もともと私はあれの中のあの理由付けがいま一つよくわからないのですが、というのがスタートだったのですが、あれの中のものを改めてみたら、その中では、これがあるから漁港は必要不可欠です。という、例えば、後継者育成のために港が不可欠である、とか、あるいは、直売をするために港が不可欠である、とか、あるいは、朝市や魚祭りをするために不可欠であるとか、あるいは養殖をするために、いけすを作るために、とあったのですが、小坪を見ている中では、なぜそれが不可欠なのかが少し私にはわからなくて、あの場で、他の市の漁港で、後継者は何をしているのですかとかは聞けないので聞けなかったのですが、そこがなんか、紐付けができないのが、すっと来ない。概念的にはもちろん、自分も船を押ささせていただきましたが、非常に大変だよね、と思うし、あった方がよいよね、というのはよく理解しますが、なんで、どこまで、どういう目的で、誰のために、何のために、と考えると、何かすっと来ない、というのを期待してきたので、すこし残念でした。

参加者：小坪漁港を見て、あの漁港で小坪の漁業協同組合の方の船が全部入っているというので、100m×50m位でしたか、そんな広くなかったので、別にあれぐらいのものだったら、まあ、鎌倉の漁港をどこにつくるかにもよるのでしょうか、あれくらい1個あってもあまり違和感はないかなと、そういう風に思ったというのが1個で、そうですね、まあ、とりあえず今はそれが感想で、港作ってどうするの、という、さっきの例えば、そうですね、まちとしてこういう風にこうするからそれで港がほしいって。港をとりあえず造らないと何にも始まらない気もしないではないし。まあ、どっちがさきなのか、少し考えるところかなという気がしました。

参加者：私は皆さんがおっしゃったこととかなりダブっているので、その辺は省略します。ただ、私の立つポジションとしては、無理論なのですけれども、いわゆる、無理だろうなど。じゃあ、そのままが良いのかということが私

第11回ワークショップ議事録

にとっての関心で、今日見ても小坪の漁民の人と浜で作業をする人ではえらい差があるし、大変だろうなど。だけど、これでまた無理論を言っているとまた60年同じような繰り返しになるかもわからないし、でも無理なものは無理で、できないかもわからないし、ほっといて良いわけではないから。やはりその中で何が考えられるかというのは、今回を機会によく検討した方が良いと思うのですが、代替案として腰越だとか小坪という、収容能力がないということで一発で終わってしまうような気もするのですが、私が今日見た限りでは、全員が全部移ることはできないにしても、例えば10軒なら10軒、5軒なら5軒、少しでも動かせるなら、少しずつでも動かして、実際に効果を見てみる、いわゆる全員動かないのだったら港ができないのだったら、今後は全員残るというのではなくて、具体的にできる範囲内で前向きに代替案というものを進めるということをやりたいなと思います。

参加者：前回のWSは傍聴させていただいていたので様子はわかるのですが、結構あそこの場では漁業者側から色々なビジョンを示していただいて、今後あれをもう少し検討していくべきではないかなんていう話があって、ただそれを受けて次は現地踏査だ、ということに対して個人的には疑問がありました。あの議論をどうしていくかというのが示されないまま、現場に行ってしまうという。ただ、今日現場に来て、私も地元で見ているのですが、実施に船を押す姿とか、浜小屋の中まで見たことはなくて、それはやはり危険だとか、明日にも台風がくるという状況の中で、やはりどうにかしなきゃいけない問題かなというのは、本当に見て分かったというのが、今回非常に良かったと思います。

それで思うのは、今までの議論にもあったかと思いますが、そういう短期的な問題をどうにかしなきゃいけない、で、その手法というのは、明日くるのにそこに明日漁港はもうできないので、どういう方法があるのかというのを議論する必要があるとは思いますが、WSで、時間がない中で、たまたま知った、見たという貴重な体験をさせてもらっているメンバーではあるのですが、その短期的な目的だけを、結論をもっていくためのWSでもない、そこは、せっかく見た後のうまく生かしていくような方法というのを漁業者なり地元なり行政の方がしっかりとやっていくべきだな。それと同時に、漁港の問題については、前回のWSでビジョンが出たように、もう少しその、何で必要かという、水産業を含めたビジョンを、産業振興課がやるというよりは、まちづくりとして市がどういう方向を示していけるのかを、まあ市民を含めてですね、というのが必要かと思って

第11回ワークショップ議事録

いて、それを少なくとも2回のWSで議論ができないかと。やはり市の他の部署なども巻き込みながら、たとえば、掘り込み案は色々な、この間のWSの提言のようなものを実現させていくにも、もしかしたら良い場所なのかななんて思って、それをきちっと時間をかけて作って行ければ良いんだろうなど、そういう風に思いました。

参加者：まず、あの、船を押してみたかったのですが、腰を先週悪くしてしまってできなかったのが残念でした。風邪をひいたり腰を悪くしたりであまり頭がすっきりしてません。

まずやはり、海はよくぶらぶらしているが、浜小屋の中を見せてもらって、浜からそのまま続きで、これで台風がきたらもろに入っちゃうなどというのはすごくよくわかって、要するに、そういう自然に防ぐものがなく、作業しなくてはいけないというのは、今の文明の中でなんとかしなくてはいけないことだと、私は強く思いました。

小坪の方を見てなのですが、鎌倉の漁港をイメージして小坪を見たのは初めてだったのですが、やはり、ああいう閉じたところを作らなくてはならないんだなというのを思って、結局波が来るのを防がなくてはならないので、閉じなくてはならない。そうすると漁業者の閉じたスペースに、ある程度なってしまうのかなと。で、こっちの浜を見た時に、今、マリンスポーツの方と船との危険がすごく大きい。じゃあ、どう鎌倉に漁港をおさめたら良いかというのを、どうも、ああいう閉じたスペースの中に置きたくないというのが、どうしても。はっきりしないですが。やはり今イメージしようとするとはやはり掘り込み式。やはりマリンスポーツなり、きれいな浜なりと分けたところに漁業の活動という風にするのが、私は、たった今ですね、そういうイメージを、描くと、なります。

参加者：皆さんの意見を聞いてて、どれもその通りだと思ったので、私は私なりにマリンスポーツ連盟という立場で意見を言わせていただきたいのですが、さっきもありましたように、サーファー、もしくは、ウィンドサーファー、はやりのスタンドアップというのがあるのですが、それとのトラブルというのが絶対に考えられると思うので、これは、漁業者の方の考えではなく、私達の考えとして、鎌倉市が鎌倉の湾・浜をどのように利用していく、どういう風に活用していく、ということを、それが最終的には港を造れば問題は解決できるんだという方向を、市が考えていただいて、漁業者からの要望と合わせて、総合的に考えていかなくてはならないかなと思います。というのは、夏場の海水浴場の問題もありますし、説明すると色々あるのですが、全体的に考えていけば、必然的に港が必要

第11回ワークショップ議事録

になるのではないかなと私は考えているので、そういう攻め方も一つあるのではないかなと思います。

参加者：私は生まれも育ちも材木座なのですが、海をみて育ってきましたけれど、今日、改めて、漁業の方と話をさせていただきながら拝見させていただいて、今、造れる、造れないという話もありましたけれども、やはりある程度、理想的な港ってなんなのかというのを、やはり計画しておくべきなのではないかなと思うのです。これは造る、造らないは別として。やはりこれが手遅れになってしまうと、やはり漁業者の意見、我々市民の意見が反映されないものを勝手に作られてしまうという危険性も出てくる可能性があるわけですね。まあお金をいくら使うなどいっても、お金を握っているのは役所なので。そういう考え方をすれば、ここで一つの方向性というのは作っておかなければいけないのではないかなという風に考えます。ですからやはりある程度このWSの皆さんの意見を聞きながら、漁業者の方の意見も聞きつつ、造るんであるなら、より一層良いものを、という形の方向性を取っていくべきではないかなと、今日見せていただいて、そう感じました。

F T：まだご発言していない方はいらっしゃいますか。それでは、一通り今日の感想を話していただいたので、漁業者の方から、何か一言お話いただけますか。全員とは申しませんが、どなたか代表で。

漁業者：今日は暑い中どうもありがとうございます。現場を見ていただいた通り、小坪漁港と私たち鎌倉の砂浜を使った漁業とはだいぶ危険度が違うと思うので、漁港を進めることを宜しくお願いします。

F T：ほかにいかがですか、お若い方は。

漁業者：今日小屋を私は見てもらったんですけど、また台風が来るたびに直して。新しいものも欲しいなと思うのですが、どうせまた来るなとそういう考えがあって、何もできずに、今、いるのですが。一番危険だなと思うのが、波が来て、小屋が流され、道路に上がっちゃったりするんじゃないかなと。そういう年がいつか来るなと思います。そういうことがないように、なんか、したいなあなんて考えているんですけど。

F T：ほかにいかがですか。

漁業者：一つは直近の問題、今日見ていただいた浜の危険度をどう軽減していくかという問題。これはもう皆さんみれば一目瞭然、あの浜小屋の中にある様々な機械というのは、高潮なり高波なりがきて砂が被れば全部廃品になってしまうのですね。それをまた、一から全部購入して立て直さなければならぬ。保険等々も入っているのですが、毎年毎年のことなので、保険

第11回ワークショップ議事録

の引き受けもままならなくなっているという状況なのです。一回流されてしまうと、そのたびに何十万かの金その復旧のために飛んでいく。そのことを何とかしなくてはいけないという直近の問題。

それから、もう一つは、ある長い時間をかけて解決していかなければならない問題として鎌倉の水産業をどういう風に活性化していくかということ、その両方を解決する物理的手段として将来にわたって漁港をつくっていくということがビジョンとしてはあるのではないかと。その二つを並行してやっていかななくてはならないのが現実の問題だと思うんですね。で、これはもうみなさんから知恵を出していただいて、この安全をどう確保していくか、そのためにどう予算を付けていただくかということが一つあります。

それからもう一つは前回ご提案させていただいた鎌倉の水産業を鎌倉の大きな目玉として、鎌倉の産業の大きな目玉として育てていくためにはどうしたら良いかということをもう一つの方向として、きちんと市民を交えて論じて行かなければならないのではないかと。具体的には前回から何をやっているかということ、仕事をしながらなので中々進んでいないのですが、いわゆる六次産業という言葉でいわれているように、生産者が流通や加工まで自分がしていくことこの道、これに対する行政からの補助がどういう風になっていくかということも現在調査中であるということと、私個人としてはそれだけではなく、この仕事を市民や行政も含めたいいわゆる第三セクターとして展開できないかということも今考えています。六次産業化を第三セクターでやっていくという例は今無いんですね。今まで。それからさらに鎌倉の障害者団体の方からもとても良いご提案だということで、色々話し合いたいという風に申し込まれているので、それも含めて話し合っていきたいという風に思っています。だけど、何せ時間がないので、それほど早急には展開できないかもしれないのですが、地道にやっっていこうと思っています。

一つ、今の話とは別に、今日、小坪を見ていただいたことで一つ言っておきたいことがあるのですが、小坪漁港ができたのが、昭和26年か27年です。（漁港指定が27年ですね）。全国津々浦々にある漁港というのは、昭和25年から27年の間に、多分8割から9割がその時期にできているんですね。要するに戦後の復興期に一斉に全国津々浦々に漁港ができたんですね。じゃあその後昭和30年代から40年代以降に、大都市直近に特に大都市直近に漁港が建設されたという例はほぼ0に近いんじゃないかと思えます。

第 11 回ワークショップ議事録

それは、昭和 25 年から 27 年の復興期に、かなりのパーセンテージで全国に漁港が整備されたということが一つ理由なのですが、それから考えると、今、私たちが今造ろうとしている漁港というのは、いわば全く新しい試みだと捉えてしまった方が良いのではないかと思っています。昭和 25 年から昭和 27 年の段階で産業復興のために漁港の整備をした、官が先導してつくったという時代では今ないですから、今我々が目指そうとしている漁港建設というのは、本当に新しい視点と新しいビジョンをもってやっていかななくてはならないのではないかと私個人は感じています。

F T : そのことについて漠然とでもイメージをおもちではないですか。

漁業者 : 具体的な絵をかけといわれると難しいのですが、産業振興として漁港がつくられたということは、ここに漁港をつくるから、皆がんばって生産しろという方向ですよね。それとは全然違う、ここに漁港がほしいという市民なりの願いがあって造られるというものでは、おのずと機能が違うのだらうと思います。機能が違うということは、船をあげたりする物理的な機能というのは一緒なのだらうけど、その周辺につくられる施設だとか、場所であるとか、あるいは、何でしょうか、機能ですよね。昭和 20 年代に作られた漁港の機能とは多分違うものにならざるを得ないのではないか、なるべきなのではないかと思います。

② 次回以降のワークショップについて

F T : さて、今日はもうあと 30 分しか時間がないのですが、残された 2 回の WS について。一つは、前回行われた事業展開の話をもう少し詰めていったらどうかという話がありました。もう一つはその中に漁港建設という問題もからめて考えるべきではないかという、そういうこと、あるいは、漁港を造る、造らないというのを決めるのでは、どういう漁港であれば良い漁港になるのかというのを検討する時間が欲しいという意見もありました。この 2 本立てで、次回の委員会を使ってもよろしいかということ。今の雰囲気ですと、漁港の話をする、この WS では漁港を造ることを承認したのではないかと受け取られるのが嫌で、皆さん少し敬遠されていたというように感じますが、終わり方としてそういう風にならないように終わらせることというのは十分考えられるんですね。例えば 2 回で、別々にやっていくと一方で行われている議論が自分たちに入らないから不安であるという意見もありましたから、例えば次回の 1 回はどちらか先にやって、残りの 1 回はどちらか残りの方をやると、いうこともあり得ます。最初の 1 時間は検討したいことをそれぞれ分かれてやって、残りの 1 時間で

第11回ワークショップ議事録

意見交換をして、こういう討議が出たということをする、そういうやり方もあります。どういたしましょうか。

参加者：全部の流れの中で、誘導されている、誘導されていると。全部の流れから見たら、すでに1年半も、いわゆる、賛成なら賛成、反対なら反対という意見がかなり出尽くしている。かなり細かく議論ができていて、後どうするの、という段階について決めてみませんかという中で、個別に話をするとか、別な会を立ち上げてやってみようとか、話が出たりしている。我々にしてみれば、毎回、F Tが何か言うまで何をやるのかさっぱりわからないし、事前準備もできないし。その場で思いつきで言って、言い残したことはメモしてくださいと。次にやってくると、皆が理解を示して、前は反対したけれど、総合的に見れば皆があった方が良いという雰囲気ですよと、だったら造りましょうと、総意ですと、そういう雰囲気がだんだん醸成、作られている雰囲気です。先日、市役所の議会の中継で前川さんという女の議員が立って、この問題について言っていたら、色々このWSについて触れて、かなり細かい点も議論されているということは理解するけれども、そもそもは漁港を造るためのWSだと、だから早くWSで、漁港を造ろうという雰囲気をまとめてくださいね、良いですね、という形で締めくくられたんですね。私はあれをみて、自由に、というようにやっているこの会が、議会が言っているように、そういう方向にまとめていくと、いうことの作業をしていて、あと2回残っているものも、そういう流れに乗るようにしていかないと、産業振興課の方も議会の裏切ることになるし、議会の方も、予算をパスしたのも、そういうことに努力していくんだらうと、あるいは努力してもらいたいからF Tに出して、そういうプロフェッショナルな方に、反対賛成ともめないように、うまくまとめて行く、技量ですね、持っていくと。そんな風だと思うんですよ、依頼主から見ればね。だからそういうことになっているのに、いつまでも新しいように何かやってください、皆さんの意見を聞きますと言うんだけど、所詮何か決まった方向にですね、持っていきこうという努力をしているようにしか、だんだん見えなくなってきていますね。だから、あと2回でどうしますか、と言われても、私なんかは、もうここまで言い尽くしているのだから、具体的に、作業環境がだめなんだから、代替案で腰越だとか、小坪の港をこちらの漁民の方がもっと色々使えるようにして、少しでも実害を減らしていくという議論の方が大切なような気がしているのですね。率直な話ね。

参加者：この話って、せっかくここまでやってきて、このWS以降、スケジュール感、やり方というのはどういうものですか。なぜそれを言いたいのかとい

第11回ワークショップ議事録

うと、WS自体はあと2回で終わりますねと、この2回の中で、成果といえるものができるのか、できないのか、少し私も悩ましいなと思っています。したがって、せつかくこれだけ、残った方相当真剣にこの話に取り組んでいると思うんですけども、正直言ってこれをうやむやにされるのは非常に不本意なので、何かやはり残りたいたいと思っています。思えば、長い間やっけていながらも、市民の話聞く機会は全くなかったよねという、そういうのから出始めて、そこそこ良い形で、いろんな意味でいろんな立場の方の意見もよくわかるし。あるものは歩み寄り、あるものはまだというのはあるかもしれませんが。これで終わった後、どうするのだろうというのがないと、基本的にその後何もしないというか、であれば、無理矢理でもなんか成果を造らないと、なにやったのという話になってしまうし、何がしかそういう形が続くのであれば、前と同じで、後に対するメッセージという残し方もあると思うし。そこが悩ましいと思っています。新事業にもすごく興味あるし。この中で頭から漁港なんかまったくいらないだろうと思っている人は多分いないでしょう。でも、それぞれの中に停止条件というのがあって、それが、前回の取りまとめにあるように当面無理という表現になっているのですが、当面無理という意味はなんなのだろうとこの間から考えていて、当面というのは5年先のことなのですかとかの時間の問題を言っているのか、社会環境の問題をいっているのか、例えば、そういう新事業体の構想を言っているのか。何か停止条件があって、で、ということであれば、まだ納得しやすいのですが。当面の意味というのは明日のことなのか、それがまとめのポイントのような気がしてきたんだけど。何ができたら、例えば、もっと具体的に考えても良いんじゃない、とか。たぶんそうだと思う。先ほども申しましたが、皆頭から漁港いらないよねという人はもういなくて、じゃあ今やるかというそれは無理だろうというのが、一つの、前回までの整理だったので、その当面って何というのがポイントだと私は思っているんですね。ごめんなさい、ぐだぐだ言いましたけど。このWSの後はどうするつもりなのですかというのは少し今聞きたいです。

事務局：WSの1回目2回目に資料を配ってご説明したのがありましたけど、漁対協で答申をいただいて、これで2年目になりますけど、WSやって、その次目指すのが基本構想。その中では、漁対協の提案もありますし、このWSの成果も踏まえて一応市の方で、基本構想の素案をつくるのは市の方になります。その基本構想の素案に対してパブリックコメントをかけて、基本構想にした後は、基本計画といった流れで、その中でWSで出された

第11回ワークショップ議事録

意見、それから漁対協の答申、というのは、どっちが上でどっちが下ということはないと思っています。並列というのですかね。それを、行政の方としてどうやって、色々な意見をたくさんいただいているので、それをどうやって一つにしていくかというのはありますが、先ほどの今後のスケジュール等へのご意見はすごいヒントというわけではないのですが、当面という話、それは、先ほど議会の中で前川議員が触れていたと言いましたけれど、確かに今すぐに漁港を造るというのは、お金のなし、財政が非常に厳しいものですから、できないだろうというのはある程度理解できるのです。将来的には造るという前提があるのですが、当面の事業についてもしっかりやってくださいねというのが、でたのですね。最後、まとめとしては、これだけ鎌倉地区の漁業者が大変な思いをしているのだから、そこに向かって進んでください、というようなまとめをされていました。そういう意味で、「当面」の持つ意味がヒントになるかなと思うのです。今、基本構想をここで作りましようと言ったとします。そうすると、基本構想というのはある程度固まってくると基本計画になる。そうすると、いろんな調査をやったり、色々なお金がかかるのですが、本当に漁港を作るんだということが市の方でも決まらないと、たとえば10年後に造るというためのものを、今、基本構想のようなものをつくっても、本当に良いのかなと思っています。当面無理だねとさっき言っていましたが、では何がクリアできれば、こういったことがクリアできれば、色々な立場の人が納得してくれるんだろうなというのを出していただくというのは、非常にこのWS、色々な立場の人がいらっしゃるので、出していただくのは今後の計画づくりに参考になるのかなと思います。我々も当面難しいなというのは意識はしています。じゃあ、具体的にこういうことが、この間の「鎌倉漁業協同組合の将来ビジョン」の中で示された提案があった、港だけではなく、地域の活性化につながるようなものであれば、それでなければ港をつくるべきじゃないとか、何かそういった制約条件みたいなもの、課題を洗い出してくださいというのは、あと2回しかありませんけれども、そういうのを2回かけて出していただくというのは、今後の計画づくりに際しては、市としてですが、行政としては非常に参考になると思います。

参加者：全く個人から行くと、それが落ちどころ、やるとすれば、それが落ちどころかなと個人では思っているのですが、ただ、冒頭私が申し上げた質問の趣旨からすると、いやもうこれでこの会議は終わってですよ、冒頭おっしゃられた平成24年度の行政計画もそうなっていると思うのですが、基本構想やりましよう、パブリックコメントをかけましようという展開を考

第11回ワークショップ議事録

えているのであれば、申し訳ないのですが、無理にでも結論というか、結論とは言わないかもしれないのですが、成果を作っておかないと、ぐだぐだのまま、WSはぐだぐだでした、じゃあ、基本構想いきますか、というのは皆のためにならないので。この状態で基本構想かけますよというのであれば、申しわけないですが、無理でもなんでもある程度の成果、結論を作らないと、我々のやってきたことが無になってしまうので、幸か不幸か、さっきの繰り返しになりますが、春までの流れの中では、言葉で言うと当面無理という表現があったのですが、私は自分で当面の意味はなんだったのか自分で考えたのですが、ま、それはさっきの話で、言いたくて言ったわけではないのですがね。言いたいことは、このままぐだぐだが良いのかという事なのです。実は今年度になってからのWSって、理解が深まったという成果は感じていますが、中身が何か進んだかというとは実は何も進んでいなくて、何もないのですね。これではまさに成果ないよねと。ぐだぐだが良いのかという。続きは、メンバー変わるにしても、形が変わるにしても、続きはあるのか、ないのか、それによって、成果はつくるのか、ぐだぐだが良いのかというのは重要なポイントだと思います。2回の中で。紙になるなら、紙の中をみて、またこれが違う、あれが違うというのを当然やるものでしょうから。事実上、次回2週間後にそんな紙がでるんですかというのととても出ると思えなくて、ちょっと、今後どうするのだろうというね。この会を延長したいと思っているわけではないのですが。

参加者：ぐだぐだやってきましたよね、確かに。ぐだぐだやってきて迷路にも入ったりしたけど、議論の中身に進展がなかったかという、私は進展があったと思うのですよね。単に物理的にどこにどういう漁港を造るのか造らないのかというような話から、鎌倉の水産業をどのように位置づけこれからどういう風に発展させていくかというのを、漁民だけではなくて市民も一緒に考えていけたら良いなというのを、ある種、共感を得られたということが、一つの成果だったと私は思っているのです。ところが、残念ながらそれはWSの中だけであって、私は漁港を支援して下さるであろう前川議員の発言に対しても実は失望したのですが、前川議員さんはWSの中で鎌倉の水産業のビジョンについて話し合っているそうだけれども、そんなことよりも漁港を造ることの方が先決ではないかとおっしゃったんですね。私はやはりそれを聞いて愕然としてしまうのですね。このWSで2年間かけてやってきたことはいったいなんなのだろう、そのことがどうして伝わっていないのだろう、という風に思ってしまうのです。そういう風

第11回ワークショップ議事録

に行ってしまうことで、また、そんな鎌倉の水産業のビジョンなんか考えるよりも早く作れよ、という、荒唐無稽というかあまりにも無謀なことを議員の口から聞いて、やはり、もっともっとうこういう議論を広めていかななくてはいけないのだなと感じました。そのために、こういうWSという狭い範囲での話し合いではなくて、違う形で検討を進めていく、それは、実質というのか実際行動とともに進めていかななくてはいけないことじゃないかなと思っています。漁港・漁協を中心に反対や賛成やそういうことを、いかに市民と一緒にやっていくか、今、障害者団体の方から一緒にやれないかという話が来ていますが、そういうことを広めながらWSの中で深めてきた理解をもっと市民全般に広めていくという活動がこれからは必要なのだろうなというふうに思います。

参加者：さっきから漁業者の方と全く同じ意見なのですよね。今の、皆が話し合っていて理解が深まってきたことが結論になるのではないかという最初におっしゃったことは、本当に全くその通りだと思っていて、ぐだぐだになっちゃうのはむしろ結論が既にある出ていて、皆の理解が深まっている。例えば、ある事業体だかビジョンをつめていくグループというかプロジェクトというかWSを立ち上げましょう、という、それで結論になれるのではないかと。それで後の2回は喫緊の台風対策とか、今、浜が、漁業者さんたちが台風が目の前に来て困っていることを、対策するというところに2回を当てれば良いのではないのでしょうか。もう、これが結論になり得るのじゃないかなと。私は先程の漁業者の方の発言と全く同じ意見です。さっきおっしゃった、二つの、今の安全対策と漁港を含めた港とか地区の全く新しいタイプのものが必要だと、今まで作ってきた漁港は戦後の復興のために皆がやってきたので、その時のものとは違い、今、日本全体は変わらなくてはいけない時だから、全然違うタイプのを考え出そうよと、その考え出そうよとの、プロジェクトなりなんなりを、新しく、このグループとは別に立ち上げていきましょうという結論で良いんじゃないかと思えます。さっきから漁業者の方の話が全く、そうそう、という感じを私はうけるのですが。

参加者：そうですが、私が言いたいのは、それが成果で私は良いんですよ、市の成果は本当にそこだと思っているのですが、ただ、それが、今期中にパブリックコメントをかけるよという時に、パブリックコメントに出せる材料としての成果になりますかということです。パブリックコメントの材料とするのであれば、別の成果を無理やりにでもつくらないと、このWSは何したかわからないということになりませんか、ということで、だ

第11回ワークショップ議事録

からこの辺のスケジュール感ってどうなんですかという質問をしたわけです。これをもってパブリックコメントをかけるよといわれるのであれば、このぐだぐだ状態では、ぐだぐだでしたねという材料が、パブリックコメントの材料になっても困ります。(重ねて:そうじゃないと思うという声) だってさ、パブリックコメントって。

参加者: それも結論だからしょうがない。

参加者: パブリックコメントをかけるということは、漁港を造りますというパブリックコメントなら、どう思いますかということで意見をもらうので、将来ビジョンは大事ですねというのは重要な成果ではあるのですが、造りますけどどう思いますかという材料にはならないと思います。だから、私はスケジュール感は大変だと思っています。

参加者: お話になる方の意見、雰囲気、お顔付、そしてこの10回になったのかな、さっきどなたかがおっしゃっていたけれども、大分機は熟したのですね。議論は熟したのですね。漁業者の方ご発言もあるけれども、今のご発言もあるけれども、漁港をということでテーマを最初投げかけられているのですけれども、いろんな要件をそこに盛り込んで、その中にはどんな組織が今後やっていくべきなのか、実際の場面でね、まあ、第三セクターという議論が出てくるが、つまり、どういったやり方で、どういった種類のお金で、どんな構想を盛り込めば、その中に漁港もありきだという、漁港という一つのテーマも盛り込めるか、考え方が整理されているかな、というのは坂ノ下全体の再整備ですよ、私にいわせれば。鎌倉も古い体質の自治体なので、開発というとすぐにリアクションを起こす人々がいるけれども、開発ではないのですね、鎌倉に必要な施設の一つですよ、坂ノ下というのは。坂ノ下全体を考える時に。それをどうやって絵をかいているかという中でいろんな意見があってきた中でそれを要件として載せながら議論して絵をかくという作業を次の1年か半年か知らないけれどもやっていけば良いと思うんですよね。そういう時には、漁業者の方は日々船を動かして朝は大変だから時間がないとおっしゃるけれど、首謀者のリーダーが本気でやらないと動きませんよ、自治体なんかは。何事もそうですよね。だからそれをどうやってあれするかということで私は一つ提案しますけれども、私は一昨年、一般社団法人を登記しました。これは既存の観光協会が悪くてということではなくて、鎌倉のマンネリズムを非常に飽き足らなく思っている人たちが、例えば、観光協会の中にも副会長や理事でおられるんですよ。そういった方々は私の会に顔を出すようになって、そして、鎌倉の明日の観光を楽しく語り合う会という長ったらしい名前を付ける

と、今まで出て来なかったような人たちがみな出てきて、行政からお声をかけられないような人たちでも、観光問題について一家言も二家言も持っているような人たちがいる。例えば人力車の人まで呼びましたよ。そんな感じで集まると、こういうことがやれたら良いね、ああいうことがやれたら良いねということがあって、特に耳新しい目新しいものはないけれども切り口を変えて加工すると新しい商品になると、観光商品になると、いうようなことがあって、じゃあそれはしかし拠点がないやだめだということに結局なって、拠点を見つけようということになって、見つけましたよ。それは徹底的に民ですよ、主体は。しかし、さっきの議論の中にもあるように、鎌倉の民の力を多用しなければ何もできない状態に入っていますよ。だから公の方に何かアイデアを求めるというのはやめた方が良いでしょう。民が作って公を揺さぶって、民が公のために公的なものをやる時代ですよ。それを、漁港という一つの要素が入ったテーマの中に皆さんやる気があるかですよ。やるなら私は手伝います。具体論をもって手伝います。漁港だけで良いのか、いやあそこにどうしようもない古いプールがあるからそこも一緒に治しちゃうんだとか、いや、公園の条例がかかっているからできないこととできることがあるというけれども、じゃあ公園の条例を取っ払ってしまえば良いじゃないですか。公園の条例なんて人間が取っ払えますよ。そんなくらい強いマインドがなければ坂ノ下に何もできませんよ。私は東京工大出身のある方がやりたいことをきちんとあれすれば最初の絵は手弁当に近い状態で書いてあげると、名前を言ったら皆にわかっちゃうような人ですよ。そういうチャンネルにひそかに話をして、坂ノ下にいろんなテーマを持ち込む時に協力してくれるかと、極安で、良いよと、言質をとる前捌きの場面が皆さん其々にできるかどうかでしょう。加藤さんの荷を軽くしてあげなければ何もできませんよ、と、私は思っています。

F T : そうすると、なんとなく私としては、成果についての発言があったように、このWSの成果をこれこれこうしてはと具体的な提案まで持っていかないと成果にならないかなと不安を私はもっていたので焦っていたのですが、これまでの発言の中で、このWSというのはメッセージを出せば良いんじゃないかということでした。共通認識としては漁業の現場が非常に深刻な問題を抱えていると、これは皆さん共通だと思います。その上で、まず、この鎌倉の漁業というものが将来に向けてどうあるべきか、市民を受益者として巻き込んでどういう展開をしていくかについてきちんとしたビジョンを打ち立てようというメッセージ。二つ目は、今漁業者が台風

第11回ワークショップ議事録

の被害等々で喫緊に解決しなければならない問題をたくさん抱えている、これについて早急に手を打て、というメッセージ。三つ目は市だけに頼らずに、WSのこの漁業をどうするかということも含めて、様々な活動を立ち上げて、具体的な展望を取り組んでいくと、そういう姿勢が必要であるというメッセージ、こういうメッセージを最終的なイメージとしてWSの成果として出すという事であれば、なんとなく皆さんの方向性がそろっているのではないかと思うのですが、いかがですか。

参加者：なんとなく接点が見えてきたのではないのでしょうか。

参加者：少なくともその議論をやらない基本構想を作るというのは、われわれが今本当に真剣に色々なものを提示して話をして、本当にやっていこうかと、漁業者から一案が放り込まれて、あれを議論したわけではないじゃないですか。やるべきじゃないかというのは皆一致しているのに、それをなしにして、基本構想案つくりました、どうですか、というのは完全にプロセスが違うような気がしてですね。その辺、さっき言っていたスケジュール感とつながるんですが、基本構想・パブリックコメントは確かに来年度の目的だったり、今年度の委託の成果に入っているのも、その行政目的はやはり見直さないと、この議論が何のためにしてきたのかという非常に残念な結果になるので、そこを少ししっかりしてもらいたい。

事務局：皆さんの意見を聞き、その辺はきちんと考えたいと思います。あせって中途半端なものにはしたくないとは思いますが、しかし、市がWSをやるというのは、市としては漁港が必要だという認識でやっていますので、最終目的としては将来的に造っていきたいということで皆さんのご意見を聞いているということは理解していただきたい。そこはやはり皆さんの合意なしでは、100%の合意はあり得ませんが、そこは歩み寄って、先ほども機が熟したらとありましたが、タイミングもあると思いますので。

F T：皆さんがおっしゃったように今まで賛否それぞれについて様々な意見が出たし、それを今さら蒸し返しても仕方がないと思っていますし、このWSは賛否を決する場ではないし、合意も測れないと思うんです、この問題に関していえば。造りたい人、造りたくない人がやはり歴然といらっやいますので、どちらかに決めようというのは無理なのですから、先ほど皆さんからの意見を聞いて、メッセージとして、たとえば先ほどの3点ほどを掲げて、その3項について具体的にはどんなことがあるのかについて意見交換をしていくという方向で、まず来週1回ぐらい使って、最終日にざっと我々でこういうメッセージをこういう内容でよろしいかというような原案をお示しして、それを皆さんと議論するという事でよろしいでし

第11回ワークショップ議事録

ようか。

参加者：次回は何が成果となるべきかというようなイメージでそれぞれご意見されれば良いのではないのでしょうか。

参加者：その3本のメッセージをもっと力強く、提言、というか、要するに、色々な立場の人があつまって漁港を作るにあたっての検討をした結果、この3つの提言にまとまった、という風なことで、その提言について、今F Tから3本でましたが、その提言について精査すれば良いのではないか。

参加者：十分・不十分もありますしね。良いのではないのでしょうか。

F T：それに関して、今日、計画地で色々メモされたことがあるでしょうけれど、今日の議論を踏まえて、いったんお持ち帰りいただいて、次回WSの時にこういう考えはどうかと私に出してもらえれば非常ありがたいので、お忙しいと思いますが、そういう観点からの意見なりお考えなりをいただければと思います。よろしくをお願いします。

参加者：今、少し今日のことで漁業の方だけに直接聞きたかったのですが、漁業組合の皆さんは50人位いらっしゃると思うのですが、今日小坪に行っただけですが、10人の漁業者の方にあちらの港を利用してもらおうということは現実的に可能なのですか。それは単にいやだっていうことなのか、絶対に無理ということなのか。こちらの漁業組合をはずれて向こうの漁業組合に入るといことですが、漁民の皆さんの中に、あちらに移りたいという方はいらっしゃるのでしょうか。

参加者：それは難しい、というのは、向こうの組合が入れてくれないと思います。

参加者：10人なら良いですよと言われたときに、お前行けと言われたら、おれはいやだお前行け、ということなのか、あるいは。

参加者：漁組になるには、引っ越さなければいけません。小坪の漁組に入るには小坪に住所が無ければいけないので、引っ越さなければなりません。だから無理です。

参加者：無理というのは引っ越しができないから無理ということですか。

参加者：私が引っ越して、今まで鎌倉の組合でやっていたのですが、こちらの組合に入りたいと言え、逗子に引っ越してね、そう言えば多分受け入れてくれる、まあ、可能性はあるかも知れません。

参加者：例えば合併とかになった場合にはそういうことができるのですか。

参加者：鎌倉の漁業協同組合は鎌倉市でなければなりません。逗子の協同組合であれば逗子市民でなくてはなりません。

参加者：それは漁業協同組合法で決まっています。地先の海のものを取る権利は地先の者に与えるということですので。

第11回ワークショップ議事録

参加者：ということは例えば港はしばらくできないとして、台風がくるとか（漁業者：緊急避難はあります）、大きな被害があるかもわからないのに、引っ越すことを考えたらこちらであえて大波が来ても耐えている方が、向こうに移るよりは、いた方が良く。被災との選択を迫られたときは。

参加者：私はこっちの方が良いです。

参加者：こっちに残って耐えますと。今から逃げたいという方は引っ越す方もいるんですよ。

参加者：いや、いますよ。実際に鎌倉でお手伝いをされていた方で、こっちで漁協の組合員になろうと思っていたのですが、自分で考えて、自分はやはり、その人は葉山に行きましたが、葉山の方に引っ越されて葉山の漁協に

参加者：ここではたまらないと。

参加者：そうですね、一人では無理だということ。

参加者：それはしても良いの。

参加者：それは個人の自由です。

参加者：今日、見て、漁業者の人とも話したのですが、船を陸揚げするときにサーファーが、という問題があり、自分もサーフィンをやる中でなんか残念だなという気持ちです。具体的な動きで、例えば船が出るときにスピーカーみたいなもので船が出ますよというなんか合図をして皆がよけるというような、運用上のルールを、難しいんだとか、色々あるのかもしれませんが、例えば地元ですっとやってきているお店の店長からも聞いたことが無いのですよ。なんとなくは知っているけど。そういうことを地元でやってきていけば、十分協力するだろうし、船をあげるときに一緒に押すよなんていうのもありえるのかなと思ったので、せっかく今日見て感じたことなので、そういう体制もとれば良いなと思いました。

参加者：手伝ってくれていますよ。

参加者：良く理解してくれる方は、漁業者が言うまえに言ってくれますよ。地元のサーファーの方は。そこに船が上がるからそこは開けてやれよ、と言ってくれます。

参加者：怖いのは今日みたいな土日ですよ。要するに東京から来る人たちがたくさん来てる、船が前から入ってくるんですが、その船がどこに行くか理解できないから、ぼーっと見ているのですよ。船が真正面に来てもこうやってみている。

参加者：スピーカーとかで知らせないのか。

参加者：笛を吹いてよけろと言ってもどっちによけて良いのかわからなくてというのが現状です。これは、難しい。

第11回ワークショップ議事録

F T : 台風対策でこれからすぐに行かなくてはならない人がいる。

事務局 : それでは今日はこれで終わりたいと思いますが、これから次回、それからもう一回と二回ありますので、今日ご提案いただいたテーマを考えたいと思いますので、よろしく願いいたします。

終わりに

事務局から次回の開催予定、閉会挨拶を行いました。

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第12回ワークショップ会議録

日 時：平成24年10月13日（土） 10:00～12:00

場 所：鎌倉市 第3分庁舎講堂

参加者：加者：公募市民：10名 関係団体：7名 計：17名 傍聴者：9名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生 6名

プログラム

はじめに

- ① 本日の議題について

第1部

- ② WSメッセージの主題について
- ③ メッセージの発信先について

第2部

- ④ メッセージのまとめかた、内容について

終わりに

- ⑤ 次回のご案内

配布資料

第12回ワークショップ 次 第

資料-1：ワークショップからのメッセージについて

参考資料：現地調査後に寄せられたご意見

事前配布：第11回WS議事録（未定稿）

第1部

② WSメッセージの主題について

③ メッセージの配信先について

「WSメッセージの主題について」及び「メッセージの配信先について」について事務局から「資料-1 ワークショップからのメッセージについて」により概略説明を行いました。

F T :お手元にワークショップ（以下「WS」という。）次第がありますが、毎回この通りに進んだことがないので臨機応変に行います。前回の見学会を受けて、色々なディスカッションが行われて、そろそろこのWSとして最終報告をと言いますか、このメッセージを誰に向かって出すのかということを決めながら、それを意識した話し合いをしていかなければなりません。今日を含めた2回しかございませんので、そろそろ様々な意見の対立とか、あるいは意見の違いとかが出ていますが、それら反対し合っている意見をまとめるということは到底不可能ですので、WSの総意としてここまでだったら書けるということを決めたいと思っています。これまで寄せられたご意見等を今事務局のスタッフが学生を含めて集約作業を行っています。後程、結果を簡単に紹介します。

このWSでどんなメッセージを誰に向かって発信するのか、ということに関連するご意見を、ご提出されたご意見を基にしてでも構わないですし、今、この場で感じた意見でも構いませんので、お一人ずつご意見を頂きたいと思います。

その際に、もうWSとして、どういうことを市に、これだったら皆が納得できるのではないかと考えていて、そして、皆さんのお手元にWSのメッセージについてというメモがございますけれど、これはあくまでも皆さんがメッセージの方向性について意見を言う際の参考というものでして、ここがいかんとかいう話では、選択肢ではありませんので、その点はお間違えの無いようお願い致します。それから、発信先にしても、発信先によって書き方が変わってくると思うのですが、鎌倉市に対してWSからのメッセージという事なのか、それとも、鎌倉市民全体に対してWSからメッセージを発信したいのかによってメッセージの書き方が違うと思いますのでその辺を少し念頭においてください。この作業はもしかしたら次回に分けるかもしれません。今日ある程度これで良からうというまとまりがあれば次回それを文章化する作業をやろうと思いますが、ここで結論がつかないということであれば次回もこの問題を協議しな

第12回ワークショップ議事録

ければなりません。今日これからWSとしてどんなメッセージを誰に発信するのかについてご意見いただければ、ファシリテータ補佐（以下「FT補」という。）がこちらの紙に書き出して、それを後で集約できるように整理します。そのように進めたいと思いますがよろしいでしょうか。

それではそのように進めたいと思います。では最初に、このWSでどんなメッセージを発信すべきか、についてできればお一人ずつご意見を戴きたいと思います。それでは端から順にそちらの方どうでしょう。皆さんの意見を聞きながら考えますということであればパスしても構いません。では次の方をお願いします。

参加者：まず最初に、この未定稿というものが送られてきたところから始めても良いですか。これ、すごく全員の言葉が書いてあるかのように書いてあるんですが、これの、本当に細かい所まで、句読点まで全部書いてあるように見えるんですけど、実はマリン関係との接触の懸念があることとかを各ショップで対応して、みたいなコメントがあったところがごっそり抜かれているとか、あと、細かく共有しているところじゃないから省いているのかもしれないですが、例えば「小坪に何で移転しないの」というのに対し「それは引っ越ししなければならないから」とか、そういう議論があったはずなのに、そこがごっそり外されているんですよ。それまですごい細かい「家庭内ですみません」なんてところまで入ったりして、そういう風に全部書いてあるかのようにしておいて、ごっそり抹消されているところがあるというところがちょっと疑問に感じて、どうなのかなって思います。やはり誘導されているとしか思えないねって人も中にはいるんですけど、それがちょっと悲しかったです。とても色々やってくれているように見えてもこうして文字にしちゃうと、何でごっそり破棄しているというのはどうしてかなって思いました。

それから、私は、メッセージのこの間の三つを残してWSの成果としたなというところに、本当に賛成です。まとめるというよりまとめきれなかったから、次に、WSとしてのメッセージを託しますという形で締めるのが良いと思っています。台風の対策と、ビジョンの話、海づくりを含めた話と、どういう形にしてそうなるのか、まとめきれないのですが、そうやってメッセージを三つに託してやっていくしかないかなと思います。WSとしては議論を出しつつして、このWSとしての結論はもう出ているのだと思うんですよ。ここで賛成反対という二つに分けるというのもどうかと思うんですが、意見が違っている人が歩み寄りには確かにし

第12回ワークショップ議事録

て、理解が深まったと思いますが、完全に一つの意見にまとまることはないということが結論だと思います。だから、何らかのWSのような会を起ち上げたところに、こういう風なことを話し合ってくださいね、ということしかないと思います。ただ、そんなことをしている間もなく、台風対策は本当に早くしなくてはいけなくて、それを一番にやるべきかな、と思います。あとビジョンの話を、前回の見学会の後も、皆色々な意見を持ってここに参加した人たちが、皆あの話にのっていったというのが、これは良いなと思っているということだったので、それは、しっかり話し合う会が必要だと思います。

F T : 前回の見学会の後に、三つぐらい、私が皆さんの意見をまとめたものを提出しましたがけれども、それ以外でありますか。

参加者 : それ以外はないです。ちょっと今はまとまらないです。

F T : 次の方お願いします。

参加者 : 私も2年間やってきて、いよいよこれからまとめますよ、という時にどうやってまとめるのか、一番最初に、こういう事だからこれだけ2年間掛かってやる、という議論をしてきたのではなく、流れついて、その間色々な議論が伯仲し、どちらかという色々な意見が出た中で、ファシリテータ(以下「F T」という。)が、サンドバックみたいに蹴られたり殴られたりして、耐えているうちに皆が、何とか協調できることはないか、ということで、馴染んできたみたいな、そんなような全体的な流れで、いよいよこれから2年間の成果をどうやって活かしていくか、ということでもまとめてくださいと言われたんですが、私も、今回出てくる前に、では何が根底なのかなと考えたんですが、要するに、漁港問題というのが60年前からずっとあり、箱物を造って解決していこうと、それに対して今回WSでは色々な意見が出て一筋縄ではいかないということで、環境問題、財政問題、それからいわゆる漁業のビジネスとしての自立性の問題、色々そういう問題が出てきて、むしろ箱物よりももっと別にやらなくてはいけないものがたくさんある、という意見が出ているのだらうと思うのです。従って、市がつくっている行政計画の中に、箱物としての港が入っているのですが、これをそのまま実行されると困るなど私は思っております。従って、そういうことで反対であるということが、はっきりと、行政計画を進める人、あるいはそれをコントロールする人にわかってもらいたい、市民の声として聞いていただきたいと思います。それを印象深く訴えるものであるには、どういう書き方をすれば良いの

第12回ワークショップ議事録

かということを考えてみたのですが、まだこれから2回あるので、その中で議論していきたいと思います。ただ、話の進め方としては、先生が言われたような三つのポイントというのはポイントだと思いますし、今回寄せられたご意見の中に、大変良いまとめ方をされており、私もかなり同感する部分が多いです。ただ先ほど言ったように、それをどうやってまとめるのが、議会なり委員の皆さんなり市民の皆さんなりに、今、行政計画で上がっているものを見直してもらって、今まで通り、一辺倒で一回決めたものをそのまま単に継続しているだけではおかしいのではないかと思います。その間に時代感覚も変わり、財政状況も変わり、環境に対する考え方も変わり、災害の発生する問題も変わってきて明らかになってきている訳ですね。今回そのメッセージの中で私が言いたいのは、こういう問題を60年間ずっと全く変わらずに放置してきた議会、あるいは市も、相当おかしいのではないかと、やる気がないのではないかと、汗流して働いてないのではないかと、税金の無駄遣いをしているのではないかと、むしろ、そういうような、何かこう怒りに似た気持ちも湧いてくるのが実感です。少し思いついたことだけで恐縮ですが、今そんなような感じしております。

F T : 漁港は反対であるという声もちゃんと明記してほしいということはわかりますが、そこを同じように、そうすると、造ってほしいという声もあったことも明記しなければいけないということですか。

参加者 : それはそういう意見としてあったと当然そうあるべきです。ただ、それは多数決という言い方はできないと思うのですが、私も自分だけのあれではいけないと思って、友人だとか全く関係ない人たち、いわゆるこういうものに関わっていない人に、こういう事やっているんだけどと言うと、一般市民の感覚としては、「おおそうか、大変だな」となります。ただ、税金使いますよ、それから環境問題についてもこういう問題が起こるかもしれない、と言うと、「それはまずいんじゃない。そんな事が起こっているとは知らなかった」となります。一般市民の感覚というのは「知らない」で、知らされると「お金が出ていくのではたまらない」というのが、単純な流れとしては一般的だったような気がします。やはり港を造るという以前に、今やらなければならない問題がたくさん出て来ますし、その中に手を付けるものがあるということを、そこからやっていくべきだと私は思っています。

参加者 : 今まで傍聴してしまして、今回初めて代理で参加させていただくのです

第12回ワークショップ議事録

が、私がまずここに呼ばれたきっかけというのが、自分は、相模湾の沿岸の海岸浸食が激しいということで、県の方で、今、計画の策定があったということで、鎌倉の海岸線を、海岸の砂浜をどう守っていったら良いかという観点から、この漁港の話聞いたのですが、やはりいきなり震災の後に、鎌倉漁港対策協議会（以下「漁対協」という。）の案を見せられたのですね。漁業者さんの気持ちとかちょっとわかるのですが、それは置いて、まず漁対協の案を見せられた時に市民感覚からいくと、ちょうど震災で船が港から溢れて家に乗かってしまったり、そういう状況がメディアで流れている中で、あの図を見させられて、浸食のことをやっていたがために、まず、あそこはダメだよと、漁業者さんのためにもあそこはおかしいのではないかというところから、この話に加わらせていただいたのですが、実際、WSをやるからということで見てきたら、そこに決まったからそこについて語り合うつもりで来たのですが、全然そういうことがまだできてなくて、もっとそれより前の話で、住民の方に聞いてもその話は知らないと言う人がほとんどだった訳ですね。それでタイミングもあったと思うのですが、腰越漁港は今あれだけテトラを入れてコンクリートを入れて大きく造っていますが、あれは関東大震災の基準なんですよね。震災があって県の人たちも今度漁港造るなら、県としてはあれ以上のものを造らざるを得ない、という状態で、湾の中にあれ以上のものをやるの、とやはり普通の人は思ってしまうと思います。昔からあった計画だから、議員さんとか、市の計画というのは、中々止められないんだなというのは私もわかるんですが、やはりせっかくこういうチャンスがあったのだったら、皆でもっと良くしていく方法を、守っていけるものとか、育てていけるものを、ここで皆で考えられる機会があるのだったら、そうした方が、結局行政のやり方で、町が二分されてしまうような、今までのやり方では、せっかく坂ノ下というところはすごい良い場所なんですよね。もちろん漁業者さんとも海レクとも共有してきた歴史がある訳ですし、そういう坂ノ下の良さを知らない人たちで、荒らされたくないというのが私の気持ちです。もちろん漁業者さんにはずっと漁業を続けてもらいたいし、私たちも協力したいし、今までも漁業者さんたちが鎌倉の湾を守ってくれたのは、浸食のことから勉強しても、今までの古い昔からの漁法を続けてくれたから、今の鎌倉、他の漁港周辺の砂浜から比べたら、本当に守られているのですよね。やはりもっと、そういうのを私たちも理解したいし、だからといって、今

第12回ワークショップ議事録

漁業者さんが大変なのをそのままっていうのは可哀想だったら、私たちも協力して考えるのですが、ただ一方的にあの図を見させられてしまっただけ。本当はあそこって、多分一番、漁業者さんにとっても良くない場所であると思うし、それを一番漁業者さんが知っていると思うのですが、ただもう、そこしか場所がないとか、消去法でそこになってしまったという経緯だったと思うのです。とにかく前提にすごい不信感とか、土台が無い中で、このままこの計画を続けていかれると、そこに住んでいる人たちに、また誤解が生まれて、対立が生まれて、という腰越みたいなことにはしてほしくないの、もっと住民説明会を、こういう事が決まりましたからという住民説明会ではなくて、事前に、前提の段階で、こういうWSみたいなことをやっていると言うとちょっと柔らかく感じちゃうのですが、もう少しきちんと理解してもらえるものをつくってからにしてもらいたいです。

F T : 例えばということで挙げてあります、このWSのメッセージとしての三つということに関して異論はないですか。

参加者 : まず、漁業の将来ビジョンというのはすごく大切なことだと思うし、私たちもそれに対して理解はできるのですが、平塚新港みたいな感じで、ハードとソフトを同時にやってハード先行でいった結果、結局後からソフトが追い付かず、シーフードレストランなどのそういう市民向けの企画は全部停止状態になってしまっていて、ハードだけが残っていますが、実際そこは利用状況が20%だとかということになるので、漁業者さんが並行してこの議論を進めていくべきだという話をしていたのはわかるのですが、やはり今の時代、そのビジョンが落ち着いて、ある程度成果が出てから、ハードのことを考えていったら良いのではないかと思います。

F T : 失敗例もあるのでその辺をケアしてくださいということですか。

参加者 : そうですね、すぐそこで起こっていることがたくさんあるのですから、鎌倉はこれまで守られてきた、海岸線や海水浴のこともそうですが、本当にすぐそこで起きていることなのですから、もったいないので、それを踏まえてください、ということです。もっと勉強してからで全然良いのではないですかということです。

参加者 : まずメッセージの主題で、大枠ではこの三つだと思いますが、今この三つで自分は特に異論はございません。感想とかも述べて良いですか。

第1は、鎌倉の漁業の将来ビジョンというのがあり、鎌倉の漁業が衰

第12回ワークショップ議事録

退しつつあるような感じを受けたので、これはこのまま衰退して良いですかということをお聞きしたいのですが、です。鎌倉の漁業の現状をちょっと説明した方が良いと思います。漠然と将来ビジョンと言われても現状がわからないと、どうすれば良いのかわかりません。当面造らない方が良いという意見もわかるのですが、では、造らなければ造らないで、造らなかつたらどうなるのかという、造らない方が良いというので、では造らなくて良かったねと。造らない方が良いという人は、それで造らない、でOKでしょうが、逆にデメリットもあるので、そこもちょっと教えてもらいたいなという感じです。あと、メッセージの発信先に鎌倉市長という話もありえますが…それが一つです。

あと、主題として、皆さん、一市民の目線、とか、市民の意見だ、市民の感想とか、おっしゃいますが、基本的に公募市民19名ですし、関係団体を入れて38名ですから、一括りに市民の意見と言われると、ちょっと、と私は思います。だから、メッセージの主題に、手を挙げて応募された19名の方がここにいらっしゃいました、そういった方々のご意見です、という感じが良いです。それで、市民の意見を聞きたいので、もっと色々な方から、何か意見を、メールなどでお寄せください、とするのも良いと思います。以上です。

F T : ビジョンを書くのは良いのだけれども、現状をきちんとはっきりした方が良いのではないかというお考えですね。

参加者 : 特に鎌倉地域の漁業と現状はこうこうこうだから、この漁港ができるだけ早く必要です、と。で、これを造らない場合、こうこうこういう風な、良い点もあるのでしょうか、困るなということもあると。それで、市民の意見というより、実際は19名とか38名の方の意見ですよ、と。発信先は市長も入れてほしいです。以上です。

F T : このWSの位置づけについては、また、後程事務局からもう1回、再確認があると思います。それから、造ってほしくないと思っている人もいるし、造ってほしいと思っている人もいるということはちゃんと書くことですね。

参加者 : 前回現地見学した時の意見交換会で、この三つが出されたんですよ。それで私は良いと思います。これからのメッセージとして。それだけです。

参加者 : たまたま、「資料1 ワークショップからのメッセージについて」という資料を頂いたので、基本的にはこれに沿って思うところを述べたいと思

第12回ワークショップ議事録

います。メッセージの発信先がどうあるべきかというのがすごく重要だと思っておりますが、私の考えから言えば、やはり一義的には市民宛だと思っております。さっきどなたかがおっしゃいましたが、あくまで1チームの代表としてなので、それが、皆さんそう思いますか、という意味では、限られたメンバーの中ではこう思いましたが皆さんは、というのが重要なところだと思っておりますので、一義的にはもちろん市民宛だと私は思うのです。ただ、一方においては、それを実行したりあるいは牽制したりするのは、例えば行政というか市の職員さんでもあるし、市長でもあるし、あるいは議員さんでもある訳ですから、そういう意味では、やはり現実的には、鎌倉市宛ということなる、という風に思っております。それが発信先のイメージです。つまり行政の人たちに届かないような書き方は「うーん」というのはありますが、市民向けに書いてほしいなという意味です。

メッセージのまとめ方とありますが、これは色々あって、書かれた理由もわかるのですが、これはやはり限られた中でやっていくには、事務局の方に取りまとめていただくべきだと思し、多少プロセスが面倒くさいかもしれませんが、1回、2回、キャッチボールをして必要なところは直すというのが、前回同様、現実的ではないかなと思っております。メッセージの主題という部分なのですが、一番大事なところなのですが、これはFTが挙げられた三点が色々な意味でこれまでの議論を包含していると思っておりますので、全然異論がないです。ただちょっと、やや、ですね、別に穿った見方をしている訳ではないですが、頭出しが「三つあるんですが」と、当然この1・2・3が不可欠というか必要です、という締めだと思し、ちょっと気になるのは、本来、ではそれらが不可決ですね、必要ですね、といった話が、さっき言った並行なのか先行なのか、という部分ですね。これはちょっと色々なところでまだ意見がぶつかっているところもあると思うんですが、私は、これらの主題が先行である、という理解で考えているんですが。マジョリティな意見としてですね。これは意見がぶつかることもあるので整理した方が良いのではないかなとは思っています。

加えてですが、ちょっと横にそれますが、今日配られた「参考資料 現地調査後に寄せられたご意見」という中で、皆さんすごく鋭い、真剣なことを書かれているなと思うのですが、特にこの[ご意見1]に出てきた話というのは、非常に、文脈もですが、私的には非常に鋭い意見だなと思っております、ほとんど一致しています。色々な部分に、随所に、かなり鋭い表現

第12回ワークショップ議事録

があって、後で皆さんにこれについて伺いたいのですが、この[ご意見1]どなたが書かれたかわかりませんが、かなり言いたいことは、特に「2 当面意味」とかですね、2ページ目の中段とかですね、かなり鋭いなど思っております、ぜひ活かしたいと思っております。最後に私の言いたいことなのですが、さっきのこのメッセージはこの文面通りでよろしいと思うのですが、前回、私とその当面の意味って何でしたっけと自分がこう、話を振ったのですが、自分なりに過去の資料とかを振り返ってどういう話だったっけと整理しました。考えたら、なんで今駄目なのですかというような主旨の部分というのは確かに出尽くしていました。それで、どこに出ているのかと思ったらやはり、主なところでは前年度の報告書の中、あるいは今年度になってから第9回WSで事務局がお配りになった「資料-3 解決したい課題とその対策例及び懸案事項」という資料があり、かなり鋭く整理されています。これを、どれが必要ですね、必要じゃないですねという議論は、確かに、あまりしても仕方が無いなど、改めて思っています。ただ、そこで思ったのは、そういった課題が仮にあったとすれば、それはどうすれば解決できるのですか、という、クリアする要件とは何だろう、ということをおもいました。特に自然環境と海岸侵食の問題とか、極めて高度に専門的な話というのがありまして、それはイメージ論で議論しても絶対解決しない訳であって、何をもってこういう問題を解決と言えるのか、という部分は必要だと思えます。一案ですが、特に専門性の高い部分については、例えば個々の議題毎に専門家と市民なり行政なりを交えたような、ミニ協議会というか、場があり、それを踏まえて、1個1個、課題を解決していくというようなやり方が、結構皆わかりやすいのではないかなと私は思いました。それが追加の提案その1です。

追加提案その2は、これも常々思うのですが、WSはこれで終わりますと、一方で、ここにまとめた成果があるのですが、一方ではこれまで漁対協という成果がありましたと、我々の成果と漁対協の成果とは、どういう位置づけになるのでしょうか。WSとして漁対協についてはこう思うという意見を入れた方が良いのか、そうしないとある意味相容れない点が二つ残ったのですが、さあどうします、という表現は、それこそ市民の人は混乱すると思えます。考え方や立場はあると思うのですが、ある程度漁対協案についてはどう思うという。実は前年度の報告書の一部に盛り込んであるのですが、極めて概念的なことしか書いてないので、もしかしたらそういう項目をまた作ったら良いのではないかなという気はちょっとしてい

第12回ワークショップ議事録

ます。以上です。

F T : 主題については先行とおっしゃったのは、港を造るということに関してですか。

参加者 : はいその通りです。そういう意図があって書いているとは思いませんが、「課題です」という切り出し方だったので。もちろんこれ、「必要ですよ」という意味で書かれたと思ったのですが。書かれてあった通り。ま、こういう文的にはいないという人はいないと思うのですが、では、漁港だ、という話をした時に、かえって、並行で考えるべきことですか、先行で考えるべきですか、という議論が今回はありましたので。中々結論は出ないと思うのですが、ちょっと整理した方が良いのではないかという気はしました。それこそ読み手が誤解しないようにと思っています。

F T : WSが終わっても様々な課題があるわけだから、課題を解決するために小さい勉強会とかを開いたりしてほしいということですね。

参加者 : そうですね。悪口を言う訳ではないのですが、例えば現地の環境調査をしましたかと、市役所の方は「しました」とおっしゃる訳です。すごく意地悪な言い方をすると、あんな天気の良い波の静かな日に、海の中に潜り込んで、砂地でしたねって海藻が生えていましたね、というレベルで、果たして十分と言えるのかという疑問は、やはりこれは根底にある疑問なのです。言い方がきつくて申し訳ないのですが。もうちょっと定量的な話とかも、盛り込んでくれないと理解できないということです。あくまで定性的な評価ですから。否定はしませんけど。そういう意味ではやはり専門的な話というのはイメージだけで言っても絶対にかみ合わないなという思いがあるので、という意味です。

参加者 : メッセージの主題である、「1 鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」、「2 台風被害など、喫緊の課題に対する解決策」、「3 行政に頼らない、市民による水産業支援への取り組み」これはF Tがまとめられたと思うのですが。

F T : 皆さんの意見を集約しただけです。

参加者 : 見ればわかる通り、それぞれ、1、2、3、と範囲が随分違います。1は非常に広い範囲のことを言っていて、2、3は非常に具体性をもっている訳ですよ。並行ではちょっと語れない気がします。あえて言うならば、「1 鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」、その中に「2 台風被害など、喫緊の課題に対する解決策」、「3 行政に頼らない、市民による水産業支援への取り組み」というのがあって、2は下にくるといいますか、具体案として、

第12回ワークショップ議事録

その内容として、あるというのが自然だと思います。それが1点。

それから、これは鎌倉地域の漁業と漁港に関わるWSなのに、この主題の中に漁港と言う文字が一つも無い訳です。漁港を造るということが非常に厳しい状況であることはわかっているし、それは色々な意味で、漁業者の立場としてもわかっていますが、安全操業と効率の良い漁業を営むために、漁港を造ってほしいという思いはこれからも変わらない訳です。その思いを一体どこに持っていくのか、1、2、3のメッセージの中のどこに組み込んでいくのかということを見ると、穿った考えをすれば、1というのは、実はこれ、漁港に関することも含めた将来ビジョンという風にここに書かれているのかもしれませんが、鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョンという風には書くと、非常にその反発が大きいということで漁港と言う文字が抜けているのではないかという気がするのです。違うかもしれませんが。やはり漁港に関してこれだけ話し合ってきた訳ですから、主題の中にやはり漁港建設をどうするかということは、項目としてはやはり必須なところだと思います。だからそれを含めて、「1 鎌倉の地域の漁業の将来ビジョン」の中に、「その1」として、漁港建設をどうするのか、あるいは台風被害などに対する解決策をどうするのか、水産業による取り組みをどうするのか、というようなことになるのではないかという印象は持ちました。メッセージの発信先は鎌倉市民であることは当然なのですが、一体どのようにしたら、十分、効率的にこの情報が伝えられるかというのは、もっともっと検討すべきだと思います。メッセージのまとめ方に関しては事務局が取りまとめるということで、それをたたき台に討論するということがよろしいのではないのでしょうか。

F T : 漁港に関するお話ですが、確かに今までずっとWSをやってきて、漁港に触れるとそれはちょっと困るという方もいらっしゃいましたし、漁港を早くほしいのだという方もいらっしゃいました。共通のメッセージとしてどういう書き方をすれば皆がそれ自体をよろしいと思えるかが大事なのだと思います。何かお考えはありますか。

参加者 : 漁港建設はなるべく早い方がよいという意見は当然ある訳ですが、ただそういう簡単な問題ではないということも、色々な議論の中で理解している訳です。端的に言うならば、いつの日にか、条件が整えば、漁港建設はやはり実現してほしいというのが漁業者の願いなのです。条件が整えば、ということの中に本当に色々なことがあると思います。条件が整

第12回ワークショップ議事録

えば、ということの中に、例えば水産業の取り組みであるとか、環境の変化であるとか、色々なことがあると思うのですが、そのものを入れることによって何か漁港建設が推進されるとか、そういう事ではなくて、漁港建設はあくまでも、将来的にはやはり我々漁業者の願いだということは、やはり周知していただきたい。その周知する項目がこの主題3項目の中には一見すると欠落しているような気がして、ちょっと心配だなということです。

F T :あの三つのメッセージ、三つかどうかわかりませんが、仮にこういう主題に対して合意されたというのとは別に、明記すべきこととして、これについては統一した見解は得られなかったが、こういう意見が出たということ明記する、そういうことですか。

参加者 :そうですね。たぶんこれ、1が鎌倉地域の漁業の将来ビジョンということと、3の水産業支援への取り組みについては、ある意味非常に重なって見えているようで、実は1の鎌倉地域の漁業の将来ビジョンという中に、将来条件を整えば漁港を建設するという、あるいはそれが漁業者にとってのやはり悲願であるということは含まれているものだという風に理解すればこれで良いのですけどね。

参加者 :うまくまとめられるかどうかわからないのですが、私個人の意見というかこれまでの感想として、WSを始める前は漁港に対して反対だったのですね。ただ、今現時点では漁港は造った方が良いのではないかというのが私の意見です。どういうことかという、「ただし」が付くのですが、その「ただし」が結構大きくて、メッセージの主題の1にある、漁業とか漁港の将来ビジョンというところが、参考資料「現地調査後に寄せられた意見」の意見1にちょっと書いてあったのですが、結局、今、海を使っているのは漁業者の方とサーファーの方がいるのですが、それぞれやはり、漁港を造りたいと言うと漁業者が漁港造りたいんだろうなという意見だとすると、やはり反対はすごく出ると思うんです。ただそこが、海を使う人、例えばサーファーと漁業者と一緒に使える場所があって、そこにかつ、例えば市民が参加できて、サーフィンもやれるし、冬になったら漁業者みたいな、皆、海を使って楽しめるというところまで行けると、いや、そういうのだったらあっても良いんじゃないかという気がしています。前回、浜小屋とかを見させてもらった感想としてなのですが、逗子の小坪漁港にあった、ああいう形は反対でして、浜小屋を見た時に思ったことが一つあって、道路から景観を崩さないように浜小屋の

第12回ワークショップ議事録

高さを制限されているということもあったし、実際に浜小屋があつて砂浜もあつて、砂も流されていて、そこにまた土嚢が積まれている状況もありました。結局それって、綺麗にする、景観を守ろうと言いつつも、意外とぐちゃぐちゃだったな、という印象がありました。であれば、これはすごく簡易的な話なのですが、道路からちょっとした所にコンクリートで斜め状に、ちょっと絵を描いたので、後で出しますけど、斜めの状態に半分地下ぐらいに造って、そこをちゃんとコンクリートで覆って、そこに浜小屋の施設を造り、ある部分はサーファーのストックヤードみたいなもので、貸し出す、みたいなことやっても、おもしろいのかなと、ちょっと思ったりしていて、そうすることで、津波が来た時に、防波堤がちゃんと垂直になった方が強いというのものもあるのかもしれないですが、その辺は建築の人に任せるとして、サーファーが使えるし、漁業者が使えるし、かつ対話できる場ができるみたいなところが、おもしろいのかなというのと、後は、将来ビジョン的なところで言うと、意見に書いてあったように、小学生とか未来をというところに関して言うと、漁業者の方としては漁に出て収入を得るのが第一なのでしょうが、教育プログラムに完全に組み込んでしまい、鎌倉の小学校とかに授業として漁を体験するという取り組み。漁業者の若手のチームに任せて、一度、ふれあいの場を作ってあげたら漁業者を育てていくというところと、漁業をちゃんと伝えていくというところができるようなプログラムがあっても良いのかなと思いました。メッセージの発信先としては、難しい問題ですが、誰が出しても意外と反対は出るだろうというのが私の感想で、意見が出れば出る程まとまっていかないんだろうなというのは、これまで色々な会社とかで参加した経験なので何とも言えません。私の意見としてはまとまっていけないですね。あとメッセージのまとめ方としてはWSとしてまとめていくのが良いのかなと思います。実際にはうまくまとまらない可能性もありますが、それも含めてそのまま出してしまった方が良いのかなというのが意見です。

F T : 先ほど、浜の使い方をどう共生していくかという話と、子供たちを含むプログラムの中で一緒にやっていくという話をされましたが、これを議論の中に含めた方が良いということですか。

参加者 : そうですね、あと、3にある「行政に頼らない市民による水産業支援への取り組み」というところは、ちょっと別個に分けてもっと大きい形でやれた方が良いのかなという気がしています。こちらに関して私は、すご

第12回ワークショップ議事録

く興味もあるし参加もしたいです。喫緊の課題ということでいくと、先ほど言ったように、わからないですよ。市にそれだけ財政力があるのかわからないですし、それが本当に景観を守るのかもわからないですが、インパクトが少ない形で景観を守りつつ、浜小屋も守るという、そんなことをちょっと見学で感じました。

参加者：特別ありません。常識的にやって常識的な行動をすれば良いと思っています。ただ「参考資料 現地調査後に寄せられた意見」で、「意見 5」は中々良い意見だなと思っています。結果的、皆色々な意見が出た要件等々が、結果、そういったことも皆含まれていますよ、というのが私は望ましいなと思っています。

参加者：私も今の「意見 5」が良いと言うのは、ちょっと見ましたけども。私の意見としては、前の前の漁業者さんの意見とほぼ同じです。ただ条件は、先ほどもお話に出ていましたが、やはり反対派の方も多いですし、それから賛成の方もいらっしゃる、漁業者の方も当然なのですが。やはり並行して明記すべきだろうと、条件はその一つにまとまると思います。あと、やはり造るのでしたら、先ほどあったお話のように、漁業者の方だけが利用してということではなくて、市民全体が利用できるというような多目的な施設ということが必要ではないかと思います。これによって海岸線がきれいになったり、一つの目玉となるような事業をやってほしいと個人的には希望していますので、そこが明記されていればより良いのではないかなと思います。

参加者：メッセージの主題に漁港ということが入っていないくて、それはどういうことなのかなって考えていたのですが、最初の1年、漁港を進めていこうということと、いや色々考えがあるんじゃないかということで、中々対立の状態であまり話が進まなかったと。で、成果として報告書がまとめられたと思います。なので、そういう対立を避けるために今回のまとめからまったく漁港というものをはずそうということなのか、それとも市の、加藤課長の方は、漁港は必要という立場なので、最後にどこかに条件は整いつつあるとかなんかそんなメッセージが入っちゃうのかとか、

F T：信用していませんね。

参加者：はい。だって、必要という立場なので。こういう理由であると良いというのがあるということなら良いんですが、必要っていうのもう造るっていうことが前提じゃないですか。それはおかしいと私は思っています。1年間揉めたところを見てみてやはり環境面への不安というのがたくさん

第12回ワークショップ議事録

出ていたと思います。要するに、地域の人間とマリンスポーツ関係からなのですけども。やはり、湾の中に構造物を造ると潮の流れが変わって海岸線がどう変わるかわからないと、そういう話が出て、色々なご意見いただいて、調べてみたらやっぱり色々な所でそういうことが起こっています。なので、個人的には湾の中に構造物を造るのは環境的に納得できない。要するにどう変わるか事前に予想ができないので、ちょっと難しいのではないかと思います。特に市民がその辺を色々と理解していくと反対の声がすごく強くなると私は思っています。運動は強くなると思っています。今回は皆、共通意見としてまとめていこうということを考えると、その意見を入れることはできないと思っています。ただ、「条件を整えば」について、まったく漁港に触れないならそれで良いのですが、漁港に触れるのであれば、条件の所を少しはつきりしておきたいなと思います。一つあるのはやはり環境面ですね。やはり市民が知らない間にとならないためには、専門家と市民を交えた委員会なりWSなり、何て呼ぶのかわからないですけども、しっかりと環境面を、皆が納得する形で検討する過程を設けてほしいと。これなら全員で納得していただけないですかね、と思いますけど。

参加者：平行線になってしまうのでは。

参加者：いや、平行線になってしまうということは、科学的にちゃんと示せない、平行線ということは、やはり、そうしたら市民投票にするとかを、できたら議論してください。

F T：今のお話に関して、どなたかもおっしゃられておられましたが、主題に漁港の話がないというのはなぜかということについて、皆さんお察しの通りに、漁港ということを仮に入れると、それについて賛否両論あるということですから、私の今までの感触では、この三つについては特に異論はなさそうだけれども、漁港をどうするかについては意見が対立したので、それぞれ反対者はこういう理由で反対したし、賛成者はこういう理由で賛成しているのだということをおちゃんと明記する、ということをして市会議員やあるいは市民か、市長かわかりませんが、そういう風に伝えるということになるのかなと思うのですが。いかがですか。

参加者：それでは、そこのところは1年で終わったのではなくて今回また載せるということですね。

F T：それが一番フェアじゃないかと思うのですが。反対者もあり、賛成者もある、それぞれの理由があります。ただ、今のご提案はもう少し前向き

第12回ワークショップ議事録

で、条件を明記する、こういう条件がクリアされなきゃいけないのではないかと。先ほどの方もおっしゃたけれども、課題があって、その課題を克服して作業が今後も続くというのと、それから意思決定プロセスに市民が入って議論をするっていうことが非常に重要なんじゃないかということですね。

参加者：前回の現地の見学はお疲れ様でした。我々漁業者といたしましては、前回のような風の時ばかりでなく、船の出入りも、荷物を積んで出入りしている訳でありまして、あと沖での作業なのですよね。船の動力化、そういったものが、船が小さいもので中々そういったことができなくて、網揚げの機械なども重いので載せられない訳なのです。砂浜の現状なのですが、台風が来る度に、砂がもっていかれて侵食の状態であります。強いて言えば、漁港というのは将来的に必要だと、私はそう、組合でもそう思っております。ただし現状を維持していくには、それなりの対策、早急な対策をやっていただきたいと思います。それも市民の皆さんにご理解いただきたいと思います。以上です。

F T：皆さんも、今喫緊の課題として、このままじゃ駄目だなということは理解済みですから、それについて何か対策を打つようにというメッセージを入れるというご意見は出ていましたね。

参加者：あまり話すのがうまくないので自分の感想を言います。私はやはりどうしても港が必要ではないかと思えます。何回も何回も砂を繰り返し入れるよりも、箱みたいなものがどうしても必要じゃないかなと思っております。何で漁業者さんはこんな辛い所でやっているのかなと、皆さんは思うかもしれないのですが、やはり魚を獲るのは面白くて、何と言ったら良いのかな、獲れない時もあるし、獲れる時もあるのですが、わくわくする、エキサイティングしてくるのですよね。そういうのをやはり若い人にも教えたりして若い人も増やしていきたいなと私は思っています。そのためにはやはり今のままでは駄目で、浜小屋が流れたりなどの被害とかもあります。この間、船を押してもらって出しましたけれども、あれは大変ですが、他の仕事も大変なものもわかっているので、あれだけが辛いわけではありません。家族が、戻ってくるのかなという不安もなく、安心安全で仕事がしたいですというのが本音です。

参加者：WSのメッセージということで、主題についてですね。WSは鎌倉地域の漁港から始まって、そのうち会議で漁業というのが入ったのを、1の鎌倉地域の漁業の将来ビジョンではなく、漁港というのを入れていただき

第12回ワークショップ議事録

たいなということです。あと、メッセージの発信先というのは、皆で聞いて理解してもらえれば良いなということで、その下にあるまとめというのは、またその後の議論になると思うのですが、その時また組合としての考えを言わせていただきます。

F T :先ほども申しましたが、賛成の人と反対の人が分かれているので、どうしても一つにまとまりません。この書き方としては、反対の人がちゃんとして、賛成の人がちゃんといいますと。なぜ反対なのか、なぜ造ってほしいのかということ明記するということではいかがですか。

参加者 :それは反対も賛成もあるので、良いです。

参加者 :WSで色々な意見が出るというのは、当たり前なこと、全員がその線には反対というのもないし、それぞれのことに対する理解の度合いや参加の具合は違います。それは良いと思うのですよ。それがこのWSとして、昨年度、結論付ける場所ではないということを書いて、提案された方がいるように、これだけの意見があったと、意見を出せば良いだけです。先ほどの方が、これ19人でしょと、皆集めて、全部で19人しか集まらなかったと。その中に非常に偏った委員の選出というのがある訳です。一つのマンションで6人が出ていると、もっと出ているかもしれません。これがいけないというのではなしに、民主主義で、そう出るのであれば、こういう意見がこういう状況であったと、その様相を映せば良い訳です。先ほどの方が言われるように19人で、これ全部で鎌倉を代表する市民と言えるのかということ、これは明らかに違います。私が言いたいことは、まず60年の間、私が直接委員として、あるいは副委員長として、あるいは部会長として参加し、今、公式にレポートが残っている都市マスタープランからいきますと、平成7年スタートです。今、平成24年ですよ、それからこれは結論付ける場ではないということで、その次のマスタープランのWSがあって、これも結論付ける場ではない。市民が何百人と集まっています。鎌倉地区、非常に広範囲な所で市民が集まっています。特定の所のいわゆる住民という形ではなくて、市民の声というのも今蓄積されて、正式にマスタープランの中にあります。私は今日持ってきていますが。特にですね、マスタープランの委員会で、平成の15年、17年で決まりまして、(仮称)鎌倉漁港の整備の検討、ということが、マスタープランの正式の案として載っております。それから、次に市民100人会議、これは市民が144人。マスタープランで市民が何人集まったかということと数百名です、鎌倉市全域から出ております。

第12回ワークショップ議事録

名前も皆載っております。市民100人会議は、何と今、総合計画に載っております。議会が賛成して、これは、コピーがほしい人には差し上げますが、鎌倉地域の漁業の推進、こういう風に決定されて今総合計画に入っております。これはだから、このWSでどうこうという問題ではなくて、このWSはWSで、意見を出せば良いのです。それをプロが、反対があり賛成があってもどういう理由で反対で、どういう理由で賛成で、どういう人がそう言っているのだということを、ちゃんと出せばそれで良いと思います。あえて漁港を造るというWSで漁港をはずすということは不自然だと思います。ですから、どういう漁港、今、3月11日から変わってきていると思いますが、どういう漁港を造ったら良いかというような、日本の中で。そういうことを取り入れ、また環境の問題もあるでしょう。そういうことも多く取り入れて考えてほしいということを送れば良いのです、このWSとしては。これが大事な仕事なのです、と思いますよ。このWSで決めてどうこうというのは不可能でできません。市民のたった19人ですよ、悪いけど。たったと言うといけませんけど。それまでのマスタープランで何百名、これ誰の、具合が悪いので言わないのですが、明日の鎌倉をつくる市民100人会議で市民が144名で論じ、しかも議会を通過した総合計画にランクされています。そこでは鎌倉漁港の整備の推進ということをはっきり謳われています。必要がありましたら後から来ていただければ、コピーがあります。それはどういうことかと言うと、最初にこれ、市から送られたものですが、これの平成6年ぐらいから平成24年までの間の色々な努力が市民を中心としてやられて記録が残っていると、こういうことなんです。これを我々が否定することはできません。我々がやれることはこのWSの中の意見に対立があれば対立があったと、こういうことをしたい、環境という砂浜の問題を持ち出された方がいると、誰もそれが大事でないと言う人は一人もいません。皆大事なことなのです。それが色々なレベルに応じて出ているということが、こういう委員会の特徴なんです。恥ずかしいことはないです、こういうWSだったと、委員はこういう構成だったと。マスタープランは全部残っています。100人会議も全部名前が残っています。そういう風に出せば良いじゃないですか、というのが、私も先ほどの方の意見をお聞きして、それから漁業者の方もすごく的を突いたことを言われました。漁業ということが謳われていて、漁港ということが謳われてないのはこれおかしいよね、と。私もそう思います。あえて軋轢を避けるた

第12回ワークショップ議事録

めに選ぶというのはこれは、正しくない。軋轢があったらあった、こういう委員構成でやった、ということは、はっきり謳って、それを出せば良いじゃないですか、という風に、私は今のところ思います。で、このコピーについてほしい方はいらしていただければここに50部用意してあります。

F T : 今のお話の中で、重要なのは、このWSの位置づけなのですが、このWSというのが、行政手続きの中のどういうところにあるのか、ということを確認しなければいけない、ということですね。どなたか他の市民の意見も聞いた方が良いとおっしゃったけれども、パブリックコメントとか、この後色々な手続きがあるようでして、それについてはまた後から事務局の方からご説明いただきたいと思います。

参加者 : 皆さんの意見、私はもっともだっただけでいつも聞いているのですが、今の方のお話は初めて聞いたので、ちょっと私としても勉強不足だった、なのですが、メッセージの主題の中でやはり漁港という言葉を入れるのは私としても、これ、漁港の、漁業と漁港に関するWSの中のメッセージだから、出ていても良いのかもしれないですが、一応漁業と漁港の将来ビジョンと入れるのが良いと思います。メッセージの発信先としては思います。鎌倉市とあるのですが、市は行政なので、市議会の方にも発信していただきたいと思います。というのは、和賀江嶋のことを復活させようということを考えている議員の方もいらっしゃいますし、前回のWSの中で、ある議員の方の話が2人出ていましたが、何か、このWSやっていることを知らないんじゃないかなという、伝わっていないという気がするので、結果だけでも良いのですが、市議会の方にも出した方がいんじゃないかと思います。あと、メッセージのまとめ方なのですが、先ほども言いましたように、皆さんの言っていることはごもっともだと思いますので、それをうまくまとめていただいて、その中に入れていただきたいと思います。

参加者 : メッセージの主題ですが、一つ確認ですが、昨年度の成果とは別に出しますか、今年は今年度の成果として出しますか、それとも昨年度の続きとして、昨年のごも含めた成果としてまとめるのでしょうか。

事務局 : 前回もお話が出た気もしますが、23年度の成果はある程度総論の部分でまとめている部分もありますが、今回、より具体的にテーマを絞ってやっていくということになりました。そういう意味では、23年度と24年度に分かれますが、通しでWSの成果という風になるのではないかなと、

第12回ワークショップ議事録

それは皆さんで決めていただけて良いと思います。

参加者：そういうことと言いますと、去年の成果でまとめられた内容が、この「メッセージの主題」に包含されていくのではないかと考えていますので、これについては異論はないです。発信先は、市民と行政側へのお願いをぜひ入れたいと思ひまして、話がありました。計画自体に漁港を造るといふ話があるのですが、賛成反対の意見があり、それがなぜかというところを掘り下げてより具体的に書くというのがこのWSでのメッセージにできれば良いかなと思っています。総意として、反対だとか賛成だとかというところまではおそらくまとめられないと思うので、反対の意見は、こういう理由で、賛成なのはこういう理由です、というところのまとめまでかなというところが正直なところ。市側へのお願いというか、発信するものとしては、仮に漁港の計画が進んでいったとして、アセスメント等の、今、8回か9回ぐらいに戴いた資料だと、定性的な評価、比較をされているところがあって、さっきどなたかからお話がありました。アセスメントやりました、実施しましたというところだけではなく、より定量的な、データで比較をするなり判定をしていただきたいと思ひます。その結果も、市民により広く伝えていただきたいというようなメッセージだと思っています。以上です。

事務局：先ほど、箱メガネで下を覗いたくらいという話で、環境アセスメントは、まだやっていません。それをやるのはもっと先だと思ひますが、その時はまだ定性的な評価しかしていないので、あれでやったとはとても言えないので、それはもっと計画が進んでいく段階で環境アセスというのは行います。

参加者：何で先なのですかね、始まってしまったら終わりではないですか。始まる前にアセスメントやって。

事務局：今はまだ、何も形が決まってないので、例えば、波がどうだとか、それが先ほどご心配されている砂浜の形状の変化などそういったものを全部やらなくてはいけないのです。今はまだ、その段階ではない、まだ形も決まってない、合意もできてない中では、非常にお金のかかる問題なのでやっていません。ただ、今わかるのは経験則的に、ここにこういうものを造ったらこうなるだろうと、相模湾全体をみても、先ほどご意見もありましたように、まさにその通りなので、それは、あつてはならない、あつたとしても最小限にいくとめる、または復元する努力をするのがアセスなので、それは始まる前に必ずやらなくてはいけないものという風

第12回ワークショップ議事録

に、当然、私どもも思っております。

参加者：ついでに良いですか。腰越漁港の時って、結局環境について調査費が途中で無くなってしまったから、全部はできなかったという結果があって、と聞いたのですが、お金が無いとそういう調査も中途半端なのかなと、私も思って、そういうのもちゃんと見込んでやって頂いているのでしょうか。

事務局：おそらく今言われたのは、県の環境アセスメント条例の対象となるほどの大きさではなかったのですね。ただ、埋立てがありましたので、それに準ずるようなミニアセスをやっています。今おっしゃられたのは、もしかしたら、例えば藻場ですよ、埋立てがありますので、その埋立てをする部分は岩礁帯なので、そこには海藻類がかなり繁茂していて、埋め立てでそれがなくなるために代替地はどこかないのかという話があった時に、調査をしたのだけれども、中々周辺にそれに代わるような場所が無かった、というような結論になってしまった、ということじゃないかなと思います。環境アセスメントに準ずるものは、例えば海浜変形がどうなるかとか、潮の流れはどうなのかとか、そういったものはきちんとやって、埋め立ての免許はとっております。

F T：何か言い残したことはありませんか。

参加者：ちょっとメッセージの主題ということに戻ってお話しますが、先ほどの皆さんの意見の中にちょっと気になる、漁港建設に賛成か反対か、あるいは賛成反対を併記しようというようなご意見があったのですが、賛成反対という風に二極対立に分ける方が、もはや無意味だなという気はしています。未来永劫、鎌倉に、絶対に漁港を造るなという人はこの中に多分いないですよ。結局条件を整えればということなのです。その条件というのは、例えば今の方がおっしゃったように、環境アセスメントをして環境への負荷が調査され、あるいは市民の大切な税金を使うにあたって市民にどういう利益が還元されるのかとか、様々な色々な条件を検討すべきなんだろう、ということは、これは反対意見ではない訳ですよ。非常に前向きな意見なのです。私たちはやはりそういう意見に耳を傾けながら、将来漁港を建設したいという夢を持っているということなので、この辺を、賛成と反対がありました、と併記します、というように、何か対立があったようにまとめるのは、避けた方が良いのではないかなと思うのです。去年のWSの結論から言うと、どちらかと言うと、そういう賛否がありましたというような書き方になっていましたけれど

第12回ワークショップ議事録

も、さらにそれから1年、色々な討議をした結果、やはり理解が進んだということも含めて、鎌倉漁港を造るにあたっては、様々な条件や様々な意見を聞くべきである、ということが、合意されて来たのではないかなと思います。これは変に言い換えている訳ではないですよ。漁港を造るということが、ある種の既定事実で、ということを行っている訳ではなくて、今や賛成反対という、何か二極対立するような形を止めるというか、そういうことを投げ出してしまうというのかな、そういうのはちょっと我々としては情けないなというか、WS全員がそれでは情けないなと思ってしまうのではないかなという気がします。

F T : これ重要な問題ですので。はい、どうぞ。

参加者 : 今の漁業者さんがおっしゃる、気持ちはわかるのですが、私は、はっきり申し上げたいと思うのですが、鎌倉市が二つ港をもつことには絶対反対です。というのは、もうこれ以上環境破壊を進める訳にはいきません。既に提案の中に入っていましたけれども、次のジェネレーションに対して、これ以上の環境破壊を残すことはしたくないし、納税者の立場としてはこれ以上新しく箱物ができて、その費用及びメンテナンスに負担が掛かることは耐えられないということです。

ではどうするのかということですが、それについては色々議論したと思うのですが、やはり浜でやることについてできる限りの対策を打つと思います。港ということに関して、やはり私は、小坪、あるいは腰越を使って、いわゆる鎌倉の漁業協同組合も、今、腰越だとか他の漁業協同組合と統合して、もうちょっと抜本的に、これからの漁業をどうしていくのか、あるいはどのように展開することによって生き延びていけるのかということ、まったく新しい次元でやらなければいけないような気がしています。ただ、漁業をやっていない当事者が勝手なことを言っているということで、ご不満はあるかと思いますが、少なくともそういう意見を持つ市民がいるということは、はっきりと申し上げておきたいと思います。

参加者 : 掘り込み式の漁港についてはどうなのでしょう。漁港を造るにあたっては色々な課題があるというのは、例えば経済的に、お金を掛けて、それが市民に還元するものとなるのかとかあるのですが、やはり大きいのは環境面であり、環境面に関してはマリンスポーツの方とか、住民からも、特に掘り込み式には反対は出ていなかったのも、一つ、その色々な課題をクリアした上で掘り込み式を、という案になるのではないかというこ

第12回ワークショップ議事録

とは、市に対して提案できるのではないかと思います。つまり、色々な法律や条例とかがあってできないという話ですよ。そこを市に対してやはり色々な課題をクリアさせた後に、この事業を考えてみては、ということ、条例を変えてでも考えるべきではないかと提案しても良いかと私は思っています。先ほどご意見があったように、お金を掛けてという、そういう別の課題がありますが、環境面だけは。

F T : もし掘り込み式という案だとしたら、どうお考えですか。それは条件になりませんか。

参加者 : 港を造るということでは、条件にならないと思います。いわゆる、税負担が、市としてどちらにしろ、負担出来ないと思います。ただ坂ノ下の再開発という面で、あそこをどうするかという問題と、港とを、一緒にするべきではないと思うし、私は、再開発については、別途、専門家なり、市民を募って、そのためにあの地域の50年後、100年後を見据えて、どういう開発をしたら良いかということで、まったく新しい別な次元で検討すべきだと思います。

参加者 : 今、ご発言いただいた方の中身についてちょっと教えていただきたいことがあります。まず環境破壊という言葉です。東日本大震災で東北の沿岸はひどい環境破壊をされたし、大きく言えば地球、海底からずり上がったたりずり下がったりですね、大変な環境破壊が、また瓦礫の山が海の底にも湾の底にも沈んだままだと思います。あれは環境破壊じゃないのですか。ちょっと海岸線をいじったら環境破壊だという言葉は、数十年来日本沿岸全部にありますけれども、その辺の環境破壊という言葉と、自然が環境破壊している、それまでは違うものを形成していることについて、差をどういう風に認識したら良いのか教えていただきたいことが一つです。

それからもう一つは鎌倉市の総合計画は、現在、3次の後期の計画をもう1回リチェックしようということが行政から出て、議会も賛成して、そしてシンクタンクにコンサルテーションを投げている訳ですが、今24年度、25年度、27年度までの従前の計画が継続しながら、しかしその先も見据えて、この先3年間を含めてリチェックしようというのが、確か行政の動きだと思っています。そのコンサルテーションの答えが、監査法人がまとめるという形になっていますが、つまりそこで言われていることは、従前の1次、2次、3次をそのまま踏襲していても残っている行政計画はできないというのが一つあります。例えば大船駅東口の再開発

第12回ワークショップ議事録

は随分行政も熱心にやって専門部署も設けていますが、この間の議会でも当局の説明に対して本会議での議員の質問は、総事業費いくら掛かるんだと、大船東口全体で240億円前後かかりますと、お金はどうする気だと、50億円は鎌倉市が用意しなければいけないと思いますと。その50億円の中身は、という質問に対して、10数億円くらいは年度計画で次々と予算計上をして、あとの30数億円は市債を起こすと。それに対して議員の再質問はそれだけだで大変だと、35億円、15億円、50億円を市が要するに用意していると。借金を含めて。では、後の200億円はどうするのだと言ったら、これはもう答えは出ない訳ですね。そういうような中で、総合計画で来ている中で、では大船駅東口はどういう風にしたら、初期の目的にかなったプロセスを組めるかということ、今、議論し始めている訳ですね。事程左様に、漁港の問題も昭和30年からずっとやってきて、松尾さんが選挙に出る前には確か9,000万円くらいの実施予算が計上されているように記憶しています。これは明らかに自主計画の設計予算ですね。で、それを見直すということでもって松尾さんは当選された、というのはこの、WSが開催されてくる所以だったと思うのですよ。ということであるので、結果的に皆の議論が、環境の問題にしても、あるいは、地産池消の問題にしても、それから風景、景観、ランドスケープ、環境の問題にしても、少しずつ皆の質問に答えるような道を探るのが、ここは賢い、今どきのリサーチだと思います。

F T : 今お聞きになられたことから分かりますように、漁港の文言の入れ方は非常にデリケートな訳ですね。この後また、今までの総括、集約をいたしますけれども、メッセージとして漁港について触れるのは、このWSの総意としては中々難しいかもしれません。これだったら良いですよ、という入れ方が見つかれば良いかもしれません。

参加者 : それに関してなんですけど、一番最初の前年のWSの時に「漁港に係る」、で始まって、それで、ある程度その答えが、当面無理みたいなのがありました。でもそれでは、とって、ビジョンがないからと言うのだったらビジョンを皆で考えようよと言って、それで今回「漁業と漁港に係る」になって、結果それがビジョンを中心となったという風に終わったら、そしたらまた、そのビジョンを全てもう1回ちゃんとそれを話し合ったから漁港建設の話に来たんだったら、またいつになるかわからないけど、漁港に関するWS、違う言葉かもしれないけど漁港に関するWSというのが始まる――。結局、全員というか、市民を含めた人たちでぐるっと

第12回ワークショップ議事録

回って来たらやっと終わるんじゃないなくて、今これはもしかしたらビジョンを話し合った結果こうなって、ビジョンを語ったところで終わります、漁港についてはもう1回話しあう機会が必要ですね、ということになるんじゃないかなと思います。

F T : WSとして結論を出すという訳ではなくて。

参加者 : 漁港に関して触れないっていうのも、流れを無理に変える必要はないと思うんですね。話し合ってきた結果こうなった。何も漁港という言葉が入っていないから入れなきゃいけないことは無いと思います。実際そうやって始まって、そうやって始まったのだけど、こういう流れが出来たのだから、それを無駄にすることは無いと思います。またいつか、という言い方はちょっと無責任かもしれないですが、いつか漁港に関して、どういう形でどういう施設を工夫して造っていくっていう、細かいことを決める会ができれば、今はビジョンで良いと思います。

参加者 : 去年最初に私が来たのはどういう漁港ができるのかという、面白そうだなと思ってきたので、タイトルが抜けると、例えば市民の皆さんに今回の結果を出す時に、漁業に関するWSだと、何か勘違いされませんか。

参加者 : いやいや、ただ日本語と言い回しの問題だけじゃないの、皆さん。私に言わせれば、鎌倉漁港を複眼的に考える市民の結論ですよ。

参加者 : まあそういうのは良いと思います。

参加者 : 日本語のことですよ。言い回しの問題ですよ。

参加者 : そうすると、なんか水産業の問題みたいに勘違いしないかなと思います。

F T : それでは、もう1回確認したいのですが、このWSが行政手続き上どういうところにあるかということ、ちょっと事務局から再確認してみます。

事務局 : 何回かご説明をしてきましたが、市の総合計画に位置づけてやってきました。市の総合計画があり、その下に都市マスタープラン、その中でも確かに行政計画として鎌倉地域の漁港建設についての検討ということで、登載されております。その後、漁対協があり、そしてこのWSをやらせていただいています。それで、このWSをやらせて頂いている意味というのは、漁対協の答申を受けてそのままいくんですか、といった時に、市長はもう少し市民の意見を聞くべきだ、ということで、初めてこういったものを開催させていただいています。皆さんの意見は、貴重な意見ということで受け止めさせていただきます。

そして今までやってきた漁対協も含め総合計画、都市マスタープラン

第12回ワークショップ議事録

など、色々ございますが、そういった中で市民意見を受けています。それに加えてこれをきっかけに興味を持った方たちの意見などを、市で総合的に最終的に判断させていただきます。それを最終的に認めていただくのは議会であります。そういう意味では、このWSの位置づけというのは結論を出す立場ではないのですが、皆さんがこれだけ熱意をもってやったということを、市長含めて、伝えなくてはいけないし、市民にも伝えなくてはいけない、そのように思っております。

そういった意味でも、このWSの位置づけとしては、確かに決定する場ではないのですが、今後の市の施策を考えていく中での一つの重要なファクターであるという風には考えております。

ちょっと話がはずれてしまうのですが、先ほどから漁港が入っている、入っていないという話があり、それはそれでも良いのではないかという話もあるのですが、今回寄せられた意見で、ご意見1とか2のところなどにもありますが、「当面とは何なのだろう」という投げかけがあり、確かに前回の成果のところでは「将来に亘って漁港建設を否定するものではない」というような一文も入っております。今後このWSでは、先ほどどんな条件がクリアされれば良いのか、ということに触れていただくのもこのWSからの意見として、我々行政としては、非常に参考になるのかな、という風に思っております。位置づけとしては、先ほど申し上げた通りです。

F T : 例えばこのWS以外、今後ですね、市民意見というのが、行政の意思決定手続きの中に関与する機会というのは、どんなものがあるのですか。

事務局 : 基本構想を作るのであれば、パブリックコメントは行いますが、それ以外にもSNSなどを使って色々意見募集をしたらどうかというご意見もありますから、それは可能だと思います。ですからまた広く、皆さんからこういう、自由に意見をいただくのは可能です。一つは、正式な手続きとしては、パブリックコメントをいただきます。それ以外に、例えば、市のHPの中でそういった意見募集箱みたいなものを作って意見をいただく、といったことも可能だと思います。やっていくべきと思っております。

F T : WSのアウトプットをこの結果は何らかの形で市民が見れるような形になると思いますが、今のお話のものというのは一般市民もどんな風に閲覧できるようになるのでしょうか。公開されるのですか。

事務局 : パブコメは必ず公開されますけども、個人的な意見で出たものについて、

第12回ワークショップ議事録

公表して良いかどうかというのはちょっとその方に確認をしなければいけないのかなと思います。例えば誹謗中傷的な意見もあったりなどもするかもしれませんので、その辺はちょっと慎重にやらなくてははいけないと思います。全て出せるかどうかというのは、その方の意見、内容を見てご相談なのかなと思いますが。

F T : という位置づけだそうですけども、この時点で何かご質問はございますか。

それではですね、我々がこのまとめ方の原案みたいなものを出来れば次回にご提出して、それで意見交換するということになるかと思いますが、今までのところのざっと総括をしたいと思いますのでお願いします。

F T 補 : まだまとめきれっていませんが、まず、事前に頂いたご意見というのを、皆さんのお手元にある資料を、水色の紙で、問題提起であったり、意見、感想、質問という風に、大雑把にですが、分けてあります。話し合いの中でも、この後もどんどん書き足していきたいと思っておりますが、今日の段階で、今整理しなければいけないものという論議は、まず概ねF T が、前回までの流れで少し言葉として、仮でまとめた内容について1、2、3、のレベル付けをどうするかというのが一つ提案されています。

今三つ併記されているものが、必ずしも併記、並列ではなくて、この鎌倉地域の漁業の将来ビジョンという中に、喫緊の課題と、水産業のことについてというのが含まれるのではないかというのが、一つ、ご提案いただいています。

二つ目が、漁港についてというのがメインテーマで始まっているのだから、その漁港という言葉をやはり入れるべきではないかという話があります。これは漁業の将来ビジョンということにしていますと。これまでのマスタープランでの位置づけと、漁対協の答申の中で、漁港についていくつか明記されているものがあるのですが、それとの位置づけということを考えて、漁港について語ってきたというのを、どういう風にタイトルに入れるのか、文言の中に入れるのか、というのは、すごく大きな課題ではないかなと思いますので、これは丁寧に話し合っていた方が良くかなと思います。それらについては誰に向けてということ、また皆さんのご確認が必要ということでなのですが、大きく、市に対して、あるいは議会に対してということと、ビジョンですが、今後、具体的に、前回までの流れで言うと、自分たちから動いていかないと、

第12回ワークショップ議事録

物事は動いていかないということを、皆さんおっしゃられているということをお考えますと、具体的にメッセージを発信したは良いけど、それを一体誰が担っていくのかということも含めて、少し慎重に考えていく必要があるのかなと。投げっぱなしになってしまうと、また、この今まで費やしてきた皆さんの時間ももったいないので、少し、誰がどう責任を取って、誰にどうメッセージを発信していくのか、というのを少し具体的に整理していく必要があるのかなと思います。言葉としてはこれでもう一回持ち帰って、整理する必要があるので、今日のところは、ちょっと、集約のところまでは作業レベルでは追いつきませんが、色々な意見がとにかく出されているのを、もう少し整理して、特にこの3本柱を、並べ方であるとかに合わせて整理をして頂いたものをみなさんに見て頂く必要があるのかなと思います。

F T :ざっとした集約ですけど、何か抜けている点、補足したい点はございますか。

参加者 :ご意見を読みましたが、よく、税金の無駄だからやめろというのは、おっしゃる通りなのですが。では、漁港建設に税金を使わなければ、それで何をするのか、ただ闇雲に削れと言うのだったら、漁港以外に無駄なことなどいっぱいあるのだから、全部削っちゃえと。

参加者 :維持管理費まで考えてくれていますか。養浜をするにも浚渫するにも何億円もかかる、建設した後には。

参加者 :でも相対的なもので、じゃ、他にも色々あるじゃないですか、公園整備とか、色々。

参加者 :そういう積み重ねが今の日本を作ってしまうのではないですか。

参加者 :ある意味、ここだけではなくて、他もターゲットにしてはどうですか。確かに予算がない、税金は削った方が良くと思いますが、なにもね、そういうことを言うのだったら、ここではなくて、議会へ行って、無駄な予算を省かせる、財政含めて予算全部見て、そっちの方をやった方が良いのではないかなと私は思います。

参加者 :税金に関してという話は、国民の税金全員関係あることなので、そのお金をただ漁業者さんたちが自分たちの仕事が大変だから、皆のお金で解決してねっていうところにやはりちょっと問題があるのかなと思います。それは歴史的なことがあると思うのですが、聞いていると、漁は大変だろうけど楽しくてやっている、おもしろくてやっているという意味もあるというような話がさっきも漁業者さんの口から出ていました。それに

第12回ワークショップ議事録

皆がお金を出して漁港を造りますというのだったら、多分こんなに揉めないのではないかと思うんですね。もちろん場所が場所なので、揉め方が違うと思うのですが。自分たちが大変だから、一般的には自分のことが大変だったら、自分のお金でなんとかしますよね。でも国民のお金を使って自分の生活を守ってねというのが、ちょっと皆がやはり反抗するところではないかと思うのです。ただそれは歴史的なことであって、その漁業とか農業とかを税金でなんとかして行かなければならない、保っていかなければならないからということがあるのでしょうか、今のこの時代に中々それが受け入れられないという状態があるのかなと思います。だから皆さんたちも、ビジョンを話し合ってと言って、皆の理解を得た方が良く思うんです。自分たちの仕事が大変だから、と押していくと、やはり反感を買うだけではないかと思います。自分たちの税金で造っても、どこの漁港でも漁業者さんたちから置き場代って取らないですよ。もしこの前、現地調査の後で話に出たように、戦後に造られた漁港とは全く新しい、違うものを造ろうというなら、例えば漁業者さんたちも置き場代を払い、店なりなんなりができるのならその人たちが場所代を払うとか、そういう風にして、漁業者さんたちからもお金を払ってもらって共同運営していくみたいな、新しいタイプの漁港とか、そういう風に話がいくならわかるんですけど、自分たちの作業が大変だから、造ってね、それだけを押してくるのが反感を買っているところだと思います。税金のことに關してはそうじゃないかと思います。

参加者：でも今の政府や自治体の役割として、産業振興というのはある程度やっていますよね。世界中どこの国でもやっています。大変だから出すというのものもあるかもしれないが、でも、そんなことを言ったら、例えば工場とか、どんな産業も税金の免除か何かである程度の助成金受けているではないですか。どんな仕事も大変なんですけど、なにも、漁業以外にもたぶん助成金を受けている産業ってあると思うので、そんなことを言ったら、全産業の産業補助金を止めてしまえということになるのではないですか？

参加者：でもそれを当たり前だと思って、未来永劫当たり前だと思っていることはちょっと問題かなと思うんですけど。

参加者：精神論ですか。

参加者：いや、そりゃ漁協だってすぐに金を用意するよ、きっと。100万円ぐらいなら。

第12回ワークショップ議事録

参加者：だから違います。造ってもらいたい側というよりは、漁業者さんが自分の気持ちを訴えるのではなく、気持ちを訴えた上で、漁業者の方がいつも提案してくれているみたいに、こういう風にやって、皆で造っていきよ、という方向に持って行って皆の気持ちを動かさないと。大変だからと言っているだけだと、先に進まないのではないかなと思っています、税金に関して言えばそうです。

参加者：今、財務省のような議論が出て、非常に高邁なことを考えている人がたくさんいるのだなと思ったのですが、私が提案したいのは、お金を使うから、税金がどうのこうのと言う前に、これ、産業振興課が担当しているのですね。それ以外の鎌倉市のプランは都市計画課、経営企画課、これがプランしているのです。なんで産業振興課がやっているかとお考えになったことがありますか。私が言いたいことは、この去年の10月25日に内閣府で我が国の食と農林漁業の再生のための基本方針構造計画、これで、今の第1次産業と言われている農業、漁業を6次産業化しようじゃないかという、極端なわかりやすい言葉で言うと、お金を稼ぎましょうと。地産池消という言い方もあるでしょうけど、色々あると。それならポジティブになると思うのですね。いくら使うからやめろとかね、そうすると自分の家の前の、マンションの前の道はお前たちで直せと、こういう・・・。

参加者：マンションのことばかり言いますが、誰もここにいる人は、マンションに住んでいる人は、マンションの前だから嫌だという言い方は1回もしてないのですよ。少なくともここで話し合っている人はそれを越えて話し合っているのに、マンションのことばかり言わないでください。それであなたは自分がマンションに住んでいたら嫌って言うでしょ。何でマンションのことばかり言うのですか。

参加者：マンションはいくらでもあるんです。日本人のマンションはあなたのところだけではないです。

参加者：それであなた陳情出しましたよね。45人のうちの7人出てるって、その数字嘘です。

参加者：そんな議論時間がもったいないからやめた方が良いでしょう。

参加者：そういうのをわざわざ陳情で出しといて、違う数字を入れるってどういうことですか。

参加者：やはりああいうのは誤解されますよね。

参加者：そうですよ、傍聴者の事だって。

第12回ワークショップ議事録

参加者：時間がもったいないですよ。

事務局：ちょっと冷静にいきましょう。この話はこの場ではちょっとやめましよう。

参加者：そんなことを言われても困るのだけど。要は、皆で、産業振興課が担っているこのプロジェクトでお金を稼ぐようにしたらどうでしょうという考え方はないのですか、という提案をしたいです。政府から内閣府決定で第1次産業を六次産業化しましょうと、いわれている訳です。それについてどう考えますか

参加者：でそれは私が答えましょう。政府は、お金はないけど掛け声だけはどんどん出すのですよ。だから民の力を導入しなきゃ駄目なの、もう、PPPとかPFIとか、年来言っただけの事を、鎌倉市もその気になって作り始めている訳です。急ぐならば、それを先取りして利用していくかどうかです。現実の一つ私はやっていますよ。30億円から40億円かかるよ。だけどこの間正式に鎌倉市と、それから次は4県市があるから各自治体の皆と連携は構築しますよ。鎌倉市と構築できましたよ。その前に地主と鎌倉の代表する大企業等が、組んでくれましたよ。そして鎌倉市と今色々な考えを出しているから、それには積極的に貢献をしますよと、だから連携の構築を、喜んで交流しますと、こういうことです。

参加者：ということはね、やろうと思って、やればできるのだよと、あなたの言いたいことはそういうことですね。答えが出たではないですか。私が提案しているのは、聞いているのは、こういうことですよ、皆さんどうですかと。

参加者：ただしその場合、私は今回のこのことは複眼的にと思います。複眼的に色々な要件があるから結果よし、結果よし、ということに皆少しずつなることを考えれば良いということです。もっと具体的に言うと、FTと同じ大学で、あなたより大先輩の方が、あるエンジニアリング会社の大手の常務取締役です。その人たちは東日本大震災が起きた時色々な沿岸地域から頼まれたことは、かつてその会社が、それほど大型は無いと思うけど、エネルギータンクを随分沿岸に建てたのですね。それが皆、ほとんどそばに漁港があると、皆やられたということで所管の自治体から復旧と、その先の復興の絵を描いてくれと言われていたけれども、復旧のことに目先が自治体たちはすぐにいっちゃって、また同じことをやるか、というようなことは悩ましいけれども、具体的にどんどん絵を描いて各自治体に出していくと、ということを私は、引っ張っていこうと

第12回ワークショップ議事録

思っています。新しくやると言うのであればね。

参加者：では、それって開発の話はなんですか。

参加者：漁業組合もやる気になって、意気込みが無いとね。金が無くても意気込みだけはしっかり持ってもらわないと。

F T：今のは例えばの話です。WSとしてどうするかとはまた、まとめなきゃいけないです。

参加者：さっき彼が税金について使うって話に、なんか別の方がおかしいことを言っているような流れになって、私は気になるのですが、彼が言っていることが、私はおかしいと思っています。要するに税金はちょっとぐらい、無駄にしても良いのではないかというのはおかしいと思います。

参加者：無駄とは言っていない。必要なら出せば良い。ただそれは闇雲に、税金をこれ以上無駄に使いたくないから止めましょう、というような感じに受け取るのですが、果たしてこれが無駄かどうかわからないじゃないですか

参加者：だからそうでしょう。無駄に使って良いとあなたは言っているのではないのですか。

参加者：私は言っていない。漁港が無駄というような意見はやめなさいという…。

参加者：私らの感覚は。

参加者：あなたの感覚ですよ。

参加者：そうですよ、最初に言いたかったのは、私だけの感覚かと思ったのですが、私の知り合いの人で事業をやっている人にこの話をしたら、それって何もリスクが無いよね、と。自分たちはほしい、ほしい、と言って、手に入れば、それが上手く行かなくても何も失うもの無いよね、と。自分たちで事業をやる人間は、自分でお金をかけて、失敗したら自分のお金が無くなっていく。

参加者：漁業者の方だって自分たちで船を買ったり、あそこで浜に揚げたりとか、浜小屋造ったりしてやっているじゃないですか。

参加者：漁港についても同じであって良いのではないですかね。

参加者：漁港に関しても。

参加者：はい。

参加者：ある程度、じゃ例えば何%は出してもらおうとか。

参加者：いや、あなたがそういう言い方をしなくても、要するに1年間そういう議論をしてきて、漁業者の方から将来的なビジョンをちゃんと持って、

第12回ワークショップ議事録

これから儲かることをやっていくようにしていきたい、行政に頼らないで自分たちでやっていきたいと、そういう意見が出ているのですよ。ちゃんとお金が掛かったものは市民に還元していくという意見が出ているのですから。

参加者：だからあの事業体はすごく良いと思ったんですよ。皆で出し合って、それで皆が同じように向って、皆が未来に向かってやっていくなら。

参加者：だから、そういう風に税金を使わないで。

参加者：ここまで話をまとめてきたのに、税金を少し位良いってというのは、その言い方はおかしいんじゃないですか。

参加者：おかしくないです。私は少しくらいとは言っていません。だからそれは、使っても良いと思いますよ。

参加者：漁港漁場整備法で国が半分出すって決まっていますよね。

事務局：色々あるのですが、例えば今回の腰越漁港を例にとれば、今の交付金の制度ですが、国が2分の1以内で、県が4分の1以内、残りが市、ということになっています。これは地域によって違います。例えば沖縄だとか、離れ島のように非常に厳しい条件のところは、国が負担する率が高いのですが、本土については制度上そういう負担割合になっています。

参加者：今、言ったご意見で、例えば漁業の人は何も苦勞しないで、お金出さないう税金出してくれるから漁港を造る、それが気に食わない、それが市民として納得できない、というご意見ですか。

参加者：そうじゃないですよ。だからここに挙げられているように、将来のビジョンを考えていきましょう、ちゃんと産業として成り立つように作っていきましょうと、行政に頼らないで自分たちでやっていこうと、それで良いじゃないですか。

参加者：そういう意見もあるし、違う意見もあるということです。だから100%民活にする必要はなくて。

事務局：ちょっと色々な意見が出されているのですが、例えば漁港がまったくくない所、または改修する場合でもそうですが、簡単に補助金とか交付金とかは受けられません。例えば、漁業者さんは、確かに普段の就業の中では非常に効率的にはなるのですが、それも一つの大きな要素ですが、それ以外に地域にどれだけ還元できるかというソフト、例えば、今、6次産業化や地産池消などによって、地元に対してどんな経済波及効果があるのか、これも採択される時の大事な要素なのです。ただ単純に漁業者さんたちの就労環境を改善するためにやらせてくださいって言ったら、恐

第 12 回ワークショップ議事録

らく採択されないと思います。だからこれに加えて、今まで出していたような、市民還元は何なのかとか、それをやることによって他の産業に対する経済波及効果はどうなのかとか、または観光に対する集客はどうなのかとか、そんなような色々なPRできる、それを造ることによってプラス効果がどれだけ見込まれるかによって、例えば 20 億円掛かる投資をしてもそれ以上の効果があがるということを検証します。これが、費用対効果分析ということなんです。ですから漁業者の方だけが就労環境が良くなるからといって、20 億円を回収できるということは難しいと思うんです。ですから、計画を作る時には必ず、漁業者さんの立場としてはそういう意見があるということを理解していただいて、それ以外の市民の方は、どうしたらもっと、市民の皆さん、税金を負担されている方にとっても良い港になるのかということをやっていきましょうという風に、私はこのWS、今年に入って、去年からもそうでしたが、特にこの、漁業者さんの現場を見ていただいた時、それからビジョンを聞いていただいた時に皆さんがかなり濃い反応というか、興味を示していただいたので、それは良い方向なのだろうなと思っています。ですから、ただ単に税金、税金と言うこともありますが、どうやって使うか、それはただ、漁業者さんが大変だから使うというものでもないし、皆さんや市民の方も含めて、納得しているものでなければ、恐らく、国なり、計画を採択する部署では、中々良いよとは言ってくれません。だから、漁業者さんが大変なので造らせてくださいと言っても多分門前払いをされてしまいます。そこを皆さんで、折角ここまで来たのですから、色々な良い意見を出していただいているのですから、どうやったら、この将来ビジョンも含めて、どれだけ市民に還元できるのか、これだけの税負担をしていくという理解を求めていけるのか。漁港は端からいらぬという方から見れば全然違うかもしれませんが、そういう方向で話がしていただけているのかなと感じておりましたので、先ほどちょっと色々な意味で熱くなってしまうしましたが、冷静にもう 1 回考えていただきたいと思いました。

参加者：ちょっと論点がずれてしまうかもしれないので、恐縮なのですが、私がこれまで参加した中で、すごく感じているのは、結局のところ、漁業と考えた時には、漁業者さん対市民対漁港みたいになってしまうのですが、鎌倉って考えていくと、お寺が残っていて、きれいだなと思うのですが、漁業って建物とかが残っていないから見えないのですが、結構、鎌倉の

第12回ワークショップ議事録

漁業って歴史があったりとか、カツオを献上していたりとか、そういう話があって、和賀江嶋があったことも実はここに参加してから知りました。よくよく考えてみたら、食文化とか、鎌倉の歴史を語り継ぐという意味があって、それは今まで残っていたものに対して、これからどう残すかという意味へ転換させていった方が、もっとすごく良いのかなと思います。お坊さんとか有難いのですが、それよりも現実的に、漁業というところが、市民と密接に関係しているのだ、ということがわかったことが、すごく、身についたというか。そこをもっと活かせる方向を考えるという意味では、もっと良いやり方があるのではないかな、ということはずっと考えながら、ここに参加している、というのが私の感想です。だから、今を考えるよりは、これから先を考えたいなというのが意見です。

F T : それには、その発想をメッセージにいかに入めるかということですね。そろそろ時間なのですが、最後に、先ほど、議事録の現地調査後の意見交換の記述にちょっと疑問があるということでしたが、どんな点を省いたかというのを事務局、説明できますか。

事務局 : 基本的に特に省いているという感覚はないのですが、たしか最後のところですね。どなたかが、議論が終わった後で、質問という形で、漁業者さんたちは他に移れるんですかという一連のやりとりがありました。それはちょっと最後の質問ということで本論に関係がないということで省略はさせていただきましたが、それ以外のところでは聞ける範囲のところを基本的には入れているつもりです。もしかしたらその一部、音が重なってしまっていて、聞こえなくなったことがあり、そのちょっと一部分が抜けてしまっていることがあるかもしれません。

F T : もしお気づきの点で、これはちょっと書いておいてください、記録に残してくださいという時にはお伝えください。はい、なんですか。

参加者 : 傍聴席で聞いたのですが、ちょっと部分的なことになってしまうのですが、私は鎌倉の坂ノ下という所がすごく好きで、漁業者さんも住民の方ももちろん海レクの方も皆好きなのですが、現地調査の時にサーファーがたくさんいて漁業者さんの作業に邪魔だから、やはり港をという流れだったのですが、その中でWSメンバーとして出ている友人が、海レクと漁業者さんのソフト面で、海に出るアナウンスなどの、システムがあるとか、出る時には必ず漁業者さんが出やすい時に避けるとか、そういうことを地元のお店の人たちが海沿いでそういうお店をやっている人たち

第12回ワークショップ議事録

にも周知していかないといけないね、と海レクの人たちは思っていたのです。もっと協力しなくちゃねと。組合長さんも、地元の方はわかっているのだと言ってくださいましたよね、地元のサーファーはわかっているのだと言ってくれたのもすごく嬉しかったし、そういうところを、私としてはすごく大事だったのですが、このWSとはまたちょっと違うのですが、坂ノ下の海レクと漁業者さんたちとの関係をこれから先、良くしていくためにも、あ、今良いのですよ、今良くて、これから色々な人が入ってくるから、誤解が生まれてしまうのですが、せっかくなまぐいっているのに、ということメッセージとして残しておいていただけたらと思います。

F T : はい。その他にももし、抜けているな、と思われて、ぜひともというのがありましたら、メールか何かでご連絡ください。

それではちょっと、非常に重い課題もいただきました。言葉の問題だと言う意見もありました。言葉の問題も非常に難しいので、とにかく次回までには粗々のところをご覧いただいて、こういうキーワード、こういう構成でよろしいかどうかということ、皆さんに見ていただけるような資料を、まとめられるかどうか頑張ってみますので、よろしく願います。

参加者 : それは事前に送られてくるのですか。

F T : どうですか。

事務局 : 次は11月17日です。今回は最終回になってしまいますので、私どもとしては、その前になるべく早く、一回送らせていただいて、見て頂きたい、そして、ご意見をどんどん頂いて、なるべく最終回には、かなり完成度の高いものにして見て頂きたいと思っています。今日の議論のために前回の物だけをご用意させていただきましたが、今までの議事録は、今年度に入ったものについてもご意見をいただきたいと思っています。併せて、今までの会議録、今年度の分も、なるべく早いうちに送らせていただいて、表現等、誤り等の意見がありましたら、あわせてお寄せいただけたらなという風に考えています。よろしく願い致します。

F T : あとは、申すまでもないことかもしれませんが、ここでの意見の対立はこの部屋の中であって、一歩外に出たら、普通に戻ってください。では、どうもありがとうございました。

第12回ワークショップ議事録

終わりに

事務局から次回の開催予定、閉会挨拶を行いました。

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

第13回ワークショップ会議録

日 時：平成24年11月17日（土） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市 第3分庁舎講堂

参加者：公募市民：10名 関係団体：7名 計：17名 傍聴者：14名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤

研究室）

事務局：鎌倉市役所：市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室

院生5名

プログラム

はじめに

① 報告書とりまとめにあたって

第1部

② ワークショップ報告書について

第2部

③ 今回のワークショップに参加してのご感想

終わりに

④ 事務局より

配布資料

第13回ワークショップ 次 第

平成24年度鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ報告書

～ワークショップからのメッセージ（素案）～

資料：事前に寄せられたご意見

はじめに

① 報告書とりまとめにあたって

「報告書とりまとめにあたって」について、事務局の産業振興課加藤課長から説明を行いました。

事務局：おはようございます。産業振興課の加藤でございます。第13回ということで、雨も降ってまいりましたけども、足元の悪いところお集まりいただきましてありがとうございます。今、司会の方から報告書のとりまとめにあたってということで、1週間ほど前に皆さんの方にワークショップ（以下「WS」という。）からのメッセージの素案を送らせていただきました。こちらの方につきましては、皆さんから意見をいただいて、前回WSでどういうまとめをするかということについて話し、それに沿ったまとめとなっております。1枚開いていただきまして目次がございます。今日は皆さんが一読していただいているということを前提に進めさせていただきますが、平成23年度の報告書を取りまとめた時に色々ご意見をいただいて、最初に、今回で言えばメッセージ、前回で言えば成果と主な意見を前に持ってきた方が良いだろうということで、最初に今年度のWSの概要を記載させていただいた後に、皆さんの方から発信をしていただくメッセージ三つについて記載をさせていただいております。その後、第4章といたしまして、7項目に分けまして、意見を分類整理をして編集いたしました。この文面は議事録から拾っていったのですが、話し言葉ということで、このWSの報告書をご覧になるのが、このWSに参加されていない一般市民の方ですとか、または市の関係者も含めてですが、初めて読まれるということを前提に、なるべく分かりやすいように、初めて読んだ人でも意味がわかるような形に事務局の方で編集をしたつもりです。ですので、発言をされた方のニュアンスと違うようなことがあればこの後言っていただければと思います。それから大変遅くなってしまったのですが、この報告書にWSの資料編ということで、この未定稿第8回から12回、本日13回も入れて、今年度開催いたしました議事録をすべて付けたいと思います。それは、ここでは主な意見とか要望ということで抜粋して出させていただいておりますが、より正確に内容を知りたいという方もいらっしゃると思いますので、議事録の方をそのまま付けたいと思っています。今日配布して、量も多いので、この場では中々議論できないと思いますが、これは後で、期限を決めさせていただいて、皆さんの方からご意見をいただければと思っています。それからこの素案にはまだ付けておりませんが、これまで配布した資料も併せてつけ

第13回ワークショップ議事録

て、今年度のまとめとさせていただくつもりです。23年度と24年度を通してどうなのかということで、23年度の成果品としては報告書に取りまとめしておりますので、それとこの24年度を併せてこのWSからの報告書なりメッセージ、という形になろうかと思っております。報告書の取りまとめにつきましては、以上でございます。

第1部

② 報告書とりまとめにあたって

「平成24年度鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ報告書～ワークショップからのメッセージ(素案)～」について、参加者より意見を頂きました。

F T :おはようございます。いよいよ最終回を迎えました。13回のうちほとんど、もしくは全てに参加された方もかなり多いです。このWSのためにご自身の貴重な時間を相当犠牲にされたのではないかと思います。ご協力感謝いたします。このWSの最終報告書をどのようにまとめるかについては色々な方々と話を進めてきた経緯により、このWSのメンバーの総意として書ける事と、それ以外の事、書き分けなきゃいけないということがありましたので、そこに注意して事務局が原案を作成した訳でございます。今日は既にお目通しいただいているとは思いますが、その原案に対して、内容やまとめ方について個別に意見など頂戴したいと思います。事前にいただいた意見については先ほど説明がありましたように、皆さんのお手元に文字化してございますので、この意見も参考にしながらご自身のご意見を書きだしていただきたいと思います。全員と申しますが、話しづらいこととか色々ございますでしょうから、1人1人伺いますけれど、パスするのも自由でございますのでその旨ご了承ください。皆さんのお手元に、メッセージについてデータのまとめ方について項目欄がございます。ご自身の意見を整理する上でも、事務局としていただいた意見を今後の報告書にどう盛り込むかということを考える上でも、このような、整理された方が便利だろうということで作りました。この項目にどうしても収まり切れないご意見もあるでしょうからその時はまたおっしゃっていただいて、ご自由にこの項目欄にメモを書き込んでいただければありがたく存じます。それから今日はどのように皆さんにご意見をお聞きすれば良いか、少し悩んだのですができるだけ多くの方々から声をいただきたいとのことですので、この表に書き込むだけでも結構ですし、個別にご意見を伺いますのでその時に開陳されても結構でございます。よろしく願いいたします。

この後一通り終わりましたらこの報告書は今後どうなるのか、どのよう

第13回ワークショップ議事録

に編集されていくのか、編集された結果どのように、誰に手渡されていくのか、について意見交換をして市としての当面の目標、あるいは考え方について伺うということに時間を取りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。まず前半は内容・まとめ方についての個別意見を頂戴したいと、こういう風に思っておりますよろしいでしょうか。

それでは伺ってまいります、ちょっと今日ご都合で途中退出しなければならぬそちらの方からお願いいたします。

参加者：中座しなければいけないので、最初に発言させていただきます。素案に関しては良くまとめていただいたという印象です。WSからのメッセージというのは何らかの行動を規制する、あるいは決定するというような性格のものではないので、色々な意見が出たということ、特に平成24年度に関しては漁港を造るか造らないかというところから始まって、水産業一般、漁業と市民の関わり方、というようなどころまで色々な意見が出たという、そういうことが反映されているということで、私はとても良かったのではないかと考えています。修正案も拝見したのですが、非常に細かい文言の問題であるとか、例えばこのWSからのメッセージが何らかの担保として使われるのではないかというような危機感をお持ちの方は当然こういう修正をされてくるのだと思うのですが、それはそれでよろしいのではないかと考えています。何よりも2年間かけてやってきたことの成果が、単なる漁港に賛成する反対するということを超えて、もっと広範な、産業振興とか、漁業のこれからというようなことに広がったことが最大の成果である、ということがこの素案の中に盛り込まれているという印象でしたので、私はこの素案に賛成いたします。

一つ、提案があります。2年間に亘ってやってきたこのWSを今回終わる訳ですが、このまま終わってしまっても良いのだろうか、色々な問題提起がされたことをこの後どうやって市民や我々「漁業者」で統一、具体化していくのか、ということに関して私は何らかの形で継続的なこうした会合が必要ではないかと思いました。先日鎌倉女学院中学校の学生さんが8人ほどみえまして、職業体験をするということで色々話し合ったのですが、その中の1人の女子生徒が、こう言っていました。「景気対策とか不景気だとか色々なことが言われているけれども、今の世の中を見ると、不必要な物をあまりにも多く供給しすぎているのではないか、何か人間の生活に必要なことまで色々なことを通じて欲望を喚起して供給しているというこの世の中に何か疑問を感じる」というふうにおっしゃっていました。それに引き換え、人間の生活にとって一

第13回ワークショップ議事録

番大切な例えば第1次産業とかそういうことがおざなりにされているのではないかということで職業体験のテーマとして漁業を選んだというふうにおっしゃっていました。中学1年生の女の子です。中学1年生の女の子でさえ、今こういう問題意識を持っているということを考えると、やはりこうした第1次産業に対する様々な意見の交換とか、ビジョンの構築とか、そういうことが私はとても必要なことだ、漁業者にとっても必要な事だし、市民にとっても必要だ、という印象でした。そんなこともあり、私はこのWSをどうやって発展的に解消して、次の何らかのフォーラムのようなものを起ち上げていく必要があるのではないかというふうに感じましたので、私からの個人的な提案として提案させていただきます。実は、その鎌倉女学院の職業体験の少し前に国大の附属中学の男の子たちも漁業体験をしに来ました。実は今日その子供たちが学習成果の発表を中学でやりますので、ぜひともそれに参加したくて私は中座することになりますが、お許してください。以上です。24年度に関しての半年間、皆さん色々な意見を頂戴し、本当にためになりました、ありがとうございました。

参加者：前の方が大変素晴らしいまとめをしてくださったので、それ以外にどんなことがあるかと考えながら今お聞きしたのですが、私自身もこういう漁業問題についてこのWSに出る前は詳しいことは知らないというか、海岸を散歩する時に漁業者の皆さんの様子を見て大変だろうなどとはいつも思いながら見ていました。ただ漁港問題につきましては環境破壊ということも大きい問題として、私はベーシックには反対の立場でおりましたが、これは単に反対ということを超えて、漁業の問題だけではなくて、この鎌倉の海をどうやって守っていくか、また守っていくことも中々大変だなという印象を強く持ちました。それからこのWSをしている間に、仲間から色々とデータなどをもらって、周りの茅ヶ崎なり、葉山なりが、やはり同じ問題を抱えて、積極的に市民が勉強しあって、あるいはどうやって守っていくかということに真剣に取り組んでおられる姿を見まして、まだまだ我々は遅れていたなど、これからその志のある皆で行政だけに任せるのではなくて市民もこの海を、自然環境を守っていくために何ができるのか、何が必要なのか、その辺について継続的に話し合っこの海を守っていききたいということ、今まで以上に強く感じました。そういう意味で私もなにかお手伝いできることがあったら、やりたいなど、そういう印象を持てたことも私にとってはプラスだったと思います。

第13回ワークショップ議事録

F T :ありがとうございます。何となく、プログラムの後半にある今回のWSに参加するご感想の方に話移ってきてしまっているみたいですが、よろしいですか。ありがとうございます。

参加者 :長い間、やっとこれで最後になったという感じで、ほっとしているのが、また感想みたいなこと言ってしまっていますが、これだけの資料をまとめられた事務局の方、大変ご苦労様でした。報告書は大変よくまとまっていますので、私はそれで十分だと思います。

参加者 :足かけ2年間、皆様ありがとうございました。この素案に関しましては、私は特に異存はございません。細かい訂正点があるのですが、細かいところなので、気にし出したらキリが無いので、これで自分は異存ありません。

参加者 :感想っぽいやつは、何十年振りかに小学校の社会科の勉強会が続いたという印象です。感想は、ただの社会科の勉強会が続いたということですね。技術的には今、ファシリテータ（以下「F T」という。）がおっしゃるように取りまとめのペーパーの原案を用意されている、その先に何を期待されているのですか。逆に私は、このWSという形で皆の意見を聞こうとおっしゃった、根っこのところの姿勢をね、事務局にご質問したい。

F T :その話はこの後で。

参加者 :わかりました。じゃあ以上です。

参加者 :ぱっと見た感じで、これらの意見が反映されていれば良いのではないかなとは思っていますが、今回は前回の23年度とは別ですか、それともそれを含めた、という形になるのですか。

F T :今回のまとめ方ということですね？事務局、どうですか。

事務局 :さっき少し話したのですが、これは24年度のとりまとめですが、WS全体としては23年度の報告書と今回の報告書、これをセットでこの鎌倉地域の漁業、漁港に関するWSの成果というふうに考えています。

参加者 :出し方としては、23年度に作った報告書と別冊でもう1冊こっちの報告書があるのですか。

事務局 :23、24年度版と通しでの報告という形です。

参加者 :またこの間いただいたのは別の物ができるのですか。

事務局 :これに資料編を付けて、24年度の成果となります。このWS全体で見れば23年度に細かい話がされていますが、一般の方に「このWSの成果はなんですか」となれば、23年度と24年度の報告書が一緒になって成果ということになります。

第13回ワークショップ議事録

参加者：そうするとまとめられているかどうかですが、内容的には23年度はそのままいじらずにそこにあって、今年度の報告書が付け足されるということなのですね。

事務局：その通りです。

参加者：じゃ別に今年度の報告書が最終結論ではなくて、23年度があって24年度もある、という考え方ですか。

事務局：その通りです。

参加者：わかりました。それであれば良いのではないかと思います。

参加者：私としてはこれで良いかなと思っているのですが、ただ、WSをやっている間に色々な課題が出てきて、もうちょっと何かの形で話し合いとかそういうものがあったら良いのではないかと、そういうふうに思いました。これはこれでよくまとまっているみたいな感じがするので良いと思います。

参加者：私もこの素案は良くできていると思います。これで良いと思います。

参加者：内容は私も特に良いと思うのですが、これを、例えば全然関係ないうちの隣のおばさんとかがどうやったら見られるのでしょうか。

事務局：皆さんに了解いただいた後、ホームページ（以下「HP」という。）の方には公開をいたします。後は、うちの職場にこの報告書自体はありますので、必要だという方にはお配りすることは可能かと思います。基本的にはHPで公開しようと思っています。

参加者：HPで公開されるということは、グリーンネット、いつも皆さん拝見していると思いますが、要するに中々見にくいということだと思っておりますね。こういう報告書までたどりついて見られる人は本当に興味のある人で、そういう情報のリテラシーの無い人は中々そこまで行かないと思うので、私としてはこういう皆さんのWSの成果が出ましたよというのを報告するイベントをやってほしいと思います。報告会でも良いし、事務局に何かのイベントの折と一緒にパネルディスカッションみたいなものに入ってもらおうとか、報告してもらおうとか。もう少し積極的に市民にこの成果を披露する場を設けていただきたいなと思います。

参加者：先ほど23年度との扱いはどうなのかという話があって、やはり流れとしては継続してきているので23年度で話し合われたことは今回話し合われていないということがあるかと思うので、両方セットで出していただけるとのことなら必ずそうしていただきたいなと思います。後は色々配りされて作られているなと思います。これを受けて市がどうするか、この後ですね、そちらの方に興味があります。あとそれから皆さんのお

第13回ワークショップ議事録

話、これをどこかで報告する機会、市民に対して報告する機会というのは良いアイデアかなと思います。またその時に市としてこれを受けてどういうことをするのかという話ができたら良いのではないかと思います。

参加者：さっきの最初の方のお話にあったように、こういう色々なものがあふれている世の中で、第1次産業のことについて考えようと若い人たち、中学1年生くらいの人たちがそういうふうな考えを持っているということを大人たちはよく心に留めておくことは必要だなと思いました。

この報告書に関しては、羅列してあるだけのような気がしないでもないですが、とても中立的な立場で書かれていて良かったと思っています。ただ今後についてフォーラムをしたら良いのではないかと、最初の方のお話にもあったように、同じようにと思います。その中で、漁業について考えるということは、漁業者たちが当事者であって本当はそういうビジョンが生まれてきて、周りの人たちがそれをフォローしていくというのが本当はそういう形だと思うのです。ただ色々な、皆会社の経験とかを活かしてそういうふうに意見を言ったり、自分の意見を構築したりする、経験を活かしてやっていることなので周りがフォローして一緒に考えて良い形になっていけば良いと思います。一番大事なのは当事者の漁業者さんたちの中で、更に若い人たちがもっと声をあげて、若い人たちの意見を取り入れていく漁業者さんたちになっていってくれれば一番望ましいと思います。何十年後かわからないが、漁港なのか何かが完成した時にでも、一番主で使う層の方たち、今の若手の人たちが主で、将来自分たちが今からずっともう年を取ってやめる時まで、とても良い施設と思って使えるものを、今の、ごめんなさい今の年上の方たちのことではなくて、今の若い人たちが自分たちが本当にそれが良いかと思うことを伝えていって作っていかねばいけないので、若手の漁業者さんたちに本当は一番声をあげてもらいたくて、それでそれを市民がフォローしていく形を作って最初の方がおっしゃたように、フォーラムなり、漁業のビジョンなりを考えていくということを私はとても望みます。

参加者：24年度分の取りまとめをどうしますか、という点では私はこれでよろしいかと思っています。今日になって微調整という失礼かもしれませんが意見が出されて、見れば確かにこんな話もあったかなと思うので、入れればぜひ反映させていただきたいなと思いますが、よろしいかと思っています。先ほどの方の話ではないですが、どちらかというとこれはこれとして、この先どうするの、というか、これについてどう活用するのか、そちらの方が段々興味のポイントになってきたので、時間があるのであれば、

第13回ワークショップ議事録

今日もそんな話をさせていただければと思っているので、また後ほどにします。

参加者：たくさんあるのですが、WSについては、まとめについては私もこれで納得できます。ただ、これを機会に海のこととか、例えば漁港を造るなり、防災対策するなり、堤防造るなり、といった時に、周りで起こっていることを、既に30年、50年前に周りがやってきて今、後悔していることを鎌倉がなぜ同じことをするのだろうかというふうに見ると見えるので、もっと色々なことを考慮して対策を考える。対策を考える時には色々な主体性の人たちが共存している湾の中なので、お互いに誤解が生まれたり対立が生まれたりが無いような、鎌倉の地域力とかそういうものを活かして先ほど最初の方が言っていたフォーラムとかもそうなのですが、もっと私たちは勉強しないといけないのではないかと、せっかく色々な情報があるのに活かしていないのではないかとというのがすごくあったので、漁業者さんも市民の方も海レクの人たちも一緒に何か考えられる、鎌倉の美しい砂や海岸線を守れる方法を考えながら、対策したり、自分たちの暮らしが良くなったりする方向に持っていけるきっかけになってくれたらなと思っています。あまりにも鎌倉が閉鎖的で皆さん山やお寺のことばかりに一所懸命で海的事情は県に任せきりで、実際何が周りで起こっているかということをも自分も含め、知らなかったのだなというのがあって、ほんの一例なのですが、今日用意してきたものもありますので、すみませんが、今後の参考に使ってください。

F T：後ほど配布してください。

参加者：私は周辺の住民で職業はサラリーマンで、何回かWSの中で住んでいる方の本音とは何なのかと、要するに自分の家の前に漁港ができるということが嫌なのではないか、それだけじゃないか、というご意見もいただいて、自分なりに自分の本音とは何だろうかというのをすごく考えました。実は私は坂ノ下に住み、初めに来た時は、あそこの広大な空き地、市民プールの周り、あの辺など再開発できないかなと、サンフランシスコなんか行くとフィッシャーマンズワーフみたいなものがあって、そういうものができたら本当は良いのではないかな、とそんなことを考えているところがあり、そのような色々なことが良く分からない状況でこのWSに参加したのですが、自分の本音は何だろうかと思った時に、私には小2の娘がいます。ですから自分の本音というのは、自分の子供、あるいは子供たちの世代に良いものを残してあげたい。できるだけ「負」は残したくない。負の遺産を残さずに、良いものを残したいというのが

自分の本音なのだということをおこのWSで気づきました。それで、良いものって何だと考えると、お配りした、前回出席できなかったのも、私の意見がまとめてあるのですが、良いものというのは、皆さん漁業者の方が続けてこられたような漁、つまり浜に漁があるという文化であったり、新鮮な魚が食べられるというメリットだったりということで、そういうものは残していきたいです。

負の物というのは、税金の話がありましたが、何十億という負債を子供たちの世代に残したくないです。それから再生不能になる自然は残したくない。本題に入りますと、私がもしこのメッセージの中にもう一つ加味していただきたいことは、ソフトウェアの活動というのでしょうか、今回も見学会があったりとか、あるいは浜売りの話があったりしましたが、そういうソフトの活動をもっともっと、特に漁業者の方主体で市民もそれをサポートするような形で、進められるというのが、その旨が記載されると有難いなと思っております。というのは、漁業者の方もおそらく後継者の問題は非常に困っているはずで、これからの世代にどのように引き継いでいくか困っているはずで、ですから、さっきの中学校の話もありましたが、子供たちの世代に漁業の素晴らしさであったり、新鮮な魚が食べられる素晴らしさであったり、そういうものをどんどん伝えていく、そういう活動をするのが、実はその子供たちの世代になった時に漁業者さんを助けるためにこういう活動やこういうインフラが必要だねという話になっていくと思うんですね。その点はぜひ、今後の活動にも関わりがあるので、明記していただくと有難いなと思います。

それからもう一点、これは今後の話になるのかもしれませんが、お配りした資料の中に平塚の事例があります。これ読んでいただくと非常に参考になる点がありまして、要は造ってみてからそこが結構危険な場所とかあまり使えない場所、波が高くて使えない場所であることがわかったり、あるいはさっき言った施設、レジャー施設だったりフィッシャーマンズワープ的なものを造ろうとしたら、色々な規制があってそういうハードが造れなかったりということがすごく事細かに書いてあります。これは非常に大事なポイントだと思っております。何か造るにしても造らないにしても、ここに造るからそれありきではなくて、アセスメントや計画というものを相当多角的に検討しないと、造り始めてから困った、実は造れないとか、造ってから全然使われないという状況が生まれるのだと、それが本当に近くの都市で起こっているのだということは、ぜひこれから計画を進めるにあたって注意しなければいけない。何回もこの場でも費用対効果やアセス

第13回ワークショップ議事録

メントの話が出て、それは造る場所が決まらないとできないのだという話がありましたが、実際は逆なはずで、色々な場所で造った時の自然への影響ですとか、その辺りの法規制をちゃんと調べた上で、ここだったら大丈夫という所を選ばないと非常に後で痛い目に遭うんだなということが周りの事例からわかるなと思ひまして、資料としてお配りしました。

F T : まずメッセージについてのご発言ありましたが、これは後ほど皆さんで協議してください。

F T 補 : ファシリテータ補佐の橋本（以下「F T 補」という。）です。今二つの資料を一緒に配ってしまったので、資料の解説をしますと、赤い文字の「鎌倉湾の自然の砂浜を守ってください」というのが前の前に発言された方からです。「現地調査後に寄せられたご意見」というのが前に発言された方からの資料です。

参加者 : 素案については、2年間に亘りこのようにまとめられていて、私は良いと思います。この場に於いて市民と漁業者と、海浜の利用者がこのように色々意見を出し合って、WSという場を、私は初めてこういう場を経験したのですが、今日で最終ということで、今後またこのWSに代わるようなものがあれば、また私は参加したいと思います。

参加者 : この素案に対しての話題ですが、全部読み切れなかったのですが、見ていて、漁港の必要性をうたってくれていて、それに対しての反対者の意見も取り入れており、素案は別にこれで良いのではないかと思います。と思いますが、「配布資料 事前に寄せられたご意見」の中で現在の坂ノ下の侵食という欄があります。これは漁港ができると海岸の環境が変わるようなことが書いてあるのですが、できる前と、消波ブロックをあそこに入れた時と入れない前を、自分たちで見えています。それを見た結果というのは。これを書いた人はそういうようなことで侵食されるようなことを書いたのかもしれないが、あの消波ブロックを入れた時点で134号線に波が上がりなくなりました。先輩から聞くと、その消波ブロックが無い時は、伊勢湾台風、室戸台風という時には134号の、以前は学生会館だった花月園の中の玄関の中まで波が上がりました。それと今のローソンがある所、あそこの前まで波が上がりました。ローソンの人は越してきた方なので石垣を壊したのですが、地元の方は残してあります。なぜその土地に昔から居る人は石垣を壊さないかというと、それは消波ブロックができてから波が上がりなくなったということを知らないからです。侵食のことばかりを言って、生命が大事だということを言わずに、このメッセージの中に追加するというのですけれど、これはどうかと思

第13回ワークショップ議事録

います。そう思ってちょっと意見を言わせていただきました。

参加者：まず何をやらなければいけないかといって、スタートをした時に我々が見せられたのは、第1回と第2回に色刷りで目的を書いたものをいただいたはずですが。それが目指す道で、集まった人はそれぞれによって質も違うでしょうし、考え方も違うでしょう。今、市役所の3階の行政資料コーナーに行くと、今までのこういうプロジェクトのレポートが全部あります。鎌倉漁港対策協議会（以下「漁対協」という。）のレポートもあります。ですからこれを市民一般に、さっきから見られないのかという話がありましたが、パソコンというようなものでなくて、書いたものが資料室に行くと手に入ります。手に取ってみて、というようにして公開するということは、この資料をどう扱うかということについての私の考えです。それでこれはどういう目的でスタートしたのかというと、第1回と第2回にルールがちゃんと配られている。これが我々の進んでいかなければいけなかった道なわけですから、それに従って市は予算を取り、我々は来た訳です。ですからこの素案に問題があるとかじゃないと言うことです。

それから私は委員の名前をすべてオープンにすることを言います。他の委員会もみなそうでした。こういう人たちが集まってこういう意見ができてくるのであると。良いじゃないですか、オープンにして。パソコンで見るというのもオープンですが同じことです。ですから私は最初の目的に従って、そのようにしていただきたい。資料は行政資料コーナー、市役所の3階にあります、漁対協のも皆揃っています。私がずっとやっておりました市民百人会議、あるいはマスタープラン、交通マスタープラン等、皆あります。誰が出てどうしたかというのはF Tの名前も含めて皆オープンにされています。その人たちがこういう目的でこんな意見が出たのだよ、ということはとても大事なことで、それをやっていただきたいです。ですから、いちいちこんな中身について、これは年寄りの意見だ、これは若い人の意見だ、というのはどうでも良いので、こういう人が集まってこういう意見ができた、それでこういう所にお金を使ってきたという報告をきちっと行政がすると、これを望みます。その次のステップについてはまた考えれば良いことです。今までのことに関して、これは悪い、これは1行下がっているとか上がっているとかということはありません。我々のやらなければいけないこと、できることは決まっているはずですから。というのは、海は変えられないと。どこかよその海へ行って鎌倉漁港を造るのか、あり得ません。今おかれている所の自

然の災害を含めた中でやらなければいけないと決まっている訳です。条件は与えられている訳です。その中でどう問うていくかということの次のステップでやっていきたい。その第1ステップとしてはよくできていると、自分は思います。

F T : 一通り意見を頂戴しましたが、個別の意見として掲載するということは別に、総意としてメッセージを発するということに二つほど、ご注文がありました。

一つは、漁業者も含めて浜の活動のソフトウェアを充実させて、市民がそこに入りやすいような雰囲気を作ってほしい。そういうニュアンスの、主旨の、文言を入れてほしい。例えば、これはメッセージの項目からすると、1番の所に付け加わるのでしょうか。

それからもう一つは、恐らく2番に関わるのですが、侵食傾向一辺倒ということではなくて、構造物の造り方によってはその侵食傾向が治まったり、波が上がらなくなったりするということを注記してほしい、というご注文でした。恐らく2番だと思のですが、この文言をメッセージの中にお入れしてよろしいかどうか、どうでしょうか。ご異議のある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。なければこれを盛り込んで素案を修正したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

では次にこのWSの今後を含めてですね、報告書をどうするかについて議論をしたいと思います。これについては先ほどから少しコメントがございましたので、またこのステージで順次ご発言いただきたいのですが、いかがでしょうか。話したいこと、あるいはご注文ございましたらあらためてお話しください。この報告書の取り扱いの仕方、このWSがこれで終わるかどうかなどですね…この報告書は修正されますが、この後どのような形で、はいどうぞ。

参加者 : このWSを終わるかどうかというのは、今までの鎌倉を見て、歴史で良いかどうかは別にして、時の流れによって、漁対協の一次と二次ではメンバーが全部変わっています。若い人がやれば、その時の若い人たちが何十年経って、レポートが残っていますが、どういうものだったかという、その当時の年寄りの意見とあまり変わっていないということもある訳です。歴史が証明する訳ですから、今ここで年が若いなら若い、年寄りとは年寄りという議論はつまらない議論ですから、市民という資格です。ですから私はどういうふうにするかということに関しては、メンバーは刷新する、変える、ということをお勧めします。同じ人間が集まってやっても同じ意見です。違う視野の人を持ってくる。共通して残って

第13回ワークショップ議事録

いただくのは漁業関係、これは当事者ですから。それから市になりますね。それが今、F Tが言われた、今後どうするのだろうかということに関しては、続けるにしても同じメンバーで同じようなところで続けるということよりもメンバーを一新すること。他の人の意見も出ます。それ見れば良いじゃないですか。

F T : このWSはこれで終わる訳ですが、先ほど最初の方から、これは終わるが、今後も何らかのこういう議論の場というのは継続的に続けていくようなそういう環境作りが必要ではないかというお話は、他の方からも出ていました。それについては今、同じメンバーでなくて、メンバーを変えて個別に議論していくべきではないかと、こういうお話でした。

参加者 : これからのことをちょっと考えて事務局にご質問したい。先ほどあちらがおっしゃったように、これでどうなってしまうのかが、私は一番心配しています。私も前、自分の関係では鎌倉市と嫌というほど付き合っています、行政当局とです。そして市当局の対応の過不足も非常に苛立たしく思ったこともありましたので、私は別の角度から手を突っ込んでいます。そこで産業振興課に逆にご質問したい。所属されている組織は産業振興というセクションですから、産業を衰退するのを助長するのがお仕事とは思いません。やはりバランスよく継続していくことだと思うのですね。それでこの報告書は、どことどこで議論して、産業振興という命題に沿った道筋を辿っていかうとされているのか。私は個別的には上級職のこの現状に対する落としどころみたいなことと聞いています。ですから私は、文字で提案したかどうか覚えていませんが、経営企画部とか政策創造担当とか、それから市長、副市長等で、そしてそれに関連する議会など、皆さん出て来ていただいて、私どもの疑問に答えていただきたい。今あちらがおっしゃったことも、年月ばかり掛って同じことの繰り返し、私は交通問題でも30回ほど出た会もありますし、30回も出た方が更に遡ると十何年間出ているという話もある訳ですね。ですからその轍はもう踏まない方がよろしいと思っているので、行政的にこれからどういうふうに進めていかれるのか、本音があるならば、他のセクションがない所ですからどうぞ存分にお聞かせいただきたいと、こう思います。今後のことはむしろ、一番気になりますね。

F T : 産業振興課の本業としての舵取りをこのWSを受けてどのようにされるか、明確にしてほしいということですか。

事務局 : 今の方のお考えになっているのは多分、すごく壮大な計画なのかなと、以前お話は聞いたことがあるのですが、私はそこまで力量ありませんの

第13回ワークショップ議事録

で、庁内をどこまでまとめられるかはまだちょっとイメージできませんが、このWSはそもそも漁港問題について話し合っていたという中から、今回メッセージの中でもありましたが、市、または漁業協同組合（以下「漁協」という。）に水産ビジョンが無いというご指摘をいただいております。私ども産業振興課、また市民活動部はこの13回、皆様にご協力をいただいてやった中で、段々皆さんの意識も変わってきたと思いますが、私どもの目線もちょっと変わりつつあります。そういう意味ではメッセージの一番上にある鎌倉地域の水産業の将来ビジョンですが、これは前々から産業振興課として、水産業の計画というようにしてしまうと仰々しくなって中々実効性がないのですが、こうやったら良いという、そういった基本的な、具体的な行動計画みたいなものはありません。これはぜひ作らなくてはいけないということで考えていた時に、このWSをやるという話が出てきました。漁港の話は置いておくと、本来我々がやるべきことというのは、水産業の振興です。それに対しての漁業者さんがどうなれば良いのかというのを第一に考えるのですが、それを取り巻く色々な方がこれだけ色々漁業者の事業体なり、起ち上げるなら協力したいというようなお話も合って、当然それは水産業の活性化になることですし、地域の活性化になることから、私どももそれに積極的に加わっていきたいです。主体は漁業者なのか、行政なのか。行政が主体になると進むものも中々進まないということもあるかもしれませんが、第一義的には水産業の振興策をどうやっていくかということも模索していきたいです。または、近いうちにそういった会でも起ち上げられたら良いなというふうに思っているところです。他のもっと経営企画課だとか政策創造担当だとかというところまでは今、そういう話までは具体的にしていないのでお話しはできないのですが、段々広がっていけば、当然そういう所にもどうなのだと、というようなお話ができるかなとは思いますが、今、具体的には申し上げられません。そんな状況でございます。

参加者：ちょっと先ほどの、私は別に若い人だけでフォーラムをやって、というつもりは全くなくて、もちろん市民全体の、フォーラムが続いていくのはもちろん賛成ですし、ただそのメンバーも入れ替えるという先ほどの意見にも賛成です。ただ、誤解されては困るのは、そういうものの中に、年配の方の意見を聞かないということではなくて、あくまでも先ほど申し上げたのは、当事者の漁業者さんたちの中の若い人たちといった意味なので、そういう全体で行政と絡んでフォーラムなりなんなりしていく

第13回ワークショップ議事録

のに、上の方の世代を拒むことを言ったつもりは全くありませんので誤解の無いようにお願いします。その辺はむしろ参加していただきたいと思っています。あくまでも当事者の漁業者さんの中の若い人たちに声を出してほしいということです。誤解無きようにお願いします。

参加者：加藤さんのおっしゃった話について、ちょっと私の懸念を言いたいのですが、今課長のお話を聞いていると、産業振興課として漁業の推進ということで、その範疇を産業振興にしか絞れないというか、タッチできないというような発言があったのですが、一般市民の私からすると、漁業問題、観光問題、あるいは今後の世界遺産との関連とか、色々幅広いことを加味して議論しないと、個別な話をしてもまた別な所から別な規制が出てくる、あるいは意見が出てくるということで、縦割り行政の典型のような話はないようにして、もうちょっと断続的に、市の中で統合的に、縦割りじゃなくて横も連携して、もっと意見を出し合って話を進めていただきたいなと思います。

事務局：産業振興課中心の話みたいに聞こえてしまったら申し訳ありません。メッセージの中で、この漁業というのも観光資源の一つとして皆さんに位置づけしてをいただいているので、当然、漁業だけで活性化してくるとは思わないので、鎌倉というブランド力を活かして水産業を振興していくというのは当然考えなくてはいけないと思いますので、それは皆さんがおっしゃったように使えるものは何でも使って、というふうに考えております。

参加者：今の流れについて、私の経験をお話ししますと、私は「明日の鎌倉をつくる市民百人会議」で部会長を務めてこれを成立させ、議会までもっていった当事者ですが、最初の担当課は市民活動部の中の産業振興課でしたが、それで産業振興で我々がプランを作った後、これを議会に持って行ってプランに残したいということで経営企画課に移ったんです。この間の紙を注意深く読んでいただければ、なぜ設立根拠がそうなったかという所に会議設置要綱というのがありまして、課長があの時はいたかどうか知りませんが、産業振興課が主管の課で、それでプランを立ち上げました。そしてその次もっていったのが、それを、議会を通して予算措置をして総合計画の次期基本計画の素案に入れる、そのために何をしたかということ、市にそれを申し出て委員会設置要綱に従ったプロセスを経て市の中で議会に出すために実に何十回というプロセスでやっています。本当にすごい会議でした。これは経営企画課を中心にして、そのリーダーだったのが経営企画部長、後の副市長です。ですから産業振興課は確

第13回ワークショップ議事録

かに産業を振興する課ですが、私が心配していないのはこれを皆さんの意見が出て、この次の皆さんのそういうふうな意見であるというのであれば、それを委員会設置要綱で経営企画に持って行って全庁的な意見とする。経営企画課にもっていくと市の全庁的な意見となるんですよ。そして副市長がリーダーの全部入った会議に掛けるのです。そこまで持っていけば、今は産業振興だが、前の方が知りたがって心配しておられることは自然と無くなっていきます。ということで、産業振興が基本で、今、起ち上げて今やっていますが、第1次産業というのは第6次産業までやって良いと内閣府の今年の10月25日に出来た訳です、案が。それはここにおられる人が詳しいのかもしれませんが。ですから第1次産業の漁業者、農業者は、お店を作って流通、それから加工までも含んだものをやろうとしている時代がやってきました。ですからある時点で、それが市のプランになるというか、これはプランとしてプロセスを持っていく、プロセスを経れば良いのです。そのためにはこういうことを一次で出しましたと、二次の意見でこう出ましたと、これはもう市の意見にしてみらいたいのである、というふうに持っていけば、今まで私がマスタープランと百人会議、2回そのプロセスで、提案で入っていますから、策定できることに、それは実例がありますから大丈夫だと思います。いかにやるかということです。

参加者：今後のこういう場とか、報告書の取り扱いについて、二つほど意見があって、おっしゃるように市の中でどのように統合的に扱うかという話もあると思うのですが、私はどちらかというと、ミクロというか、市民感覚の方向から言いますと、二つあります。

一つは、先ほど意見が出たように、こういう報告書が市民の目に届くというのはまず無いと思います。例えどこか、資料センターみたいな所に設置しても、多分皆さん見に来ないですし、HPに設置しても見に来ない、それから報告会をやるというのはすごく良いことなのですが、非常に限られた人しか来ないはずで、それで何回か言っていますが、例えばフェイスブックですとかツイッターですとか色々なソーシャルメディアは一瞬のうちに、こういう場でこういう議論があつて「こういう意見とこういう意見があつたとか、皆さんどう考えますか」みたいなことをすごく多くの人に流せます。しかもお金がそんなに掛からないです。そうしたソーシャルメディアを使った告知というのも市役所の方で、あるいは漁業者の方で、あるいは我々自身ももっと考えても良いのではないのかなというのが1点です。

第13回ワークショップ議事録

もう1点が、さっきソフトウェアの活動の重要性という話をしましたが、例えばうちの近隣で、漁協の方と、恐らくどこかの老人ホームの方が、協力してイワシのつみれ汁などを配ったりする会などをやられていたと思います。ああいうのはすごく良いと思います。その場でたぶん漁業者の方がこういうふうにしてこの魚獲ったのだよ、と説明をしていたのではないかと思うのですが、まさにああいう活動を地道にたくさん続けていくと、市民の方から、この魚を守りたいとか、食べたいとか、という話もあります。端的に、うちの娘に漁港がうちの前にできるかもしれないのだよと話す。「じゃあ津波が来たら造ったのが壊れちゃって造らなきゃ良かったねという話になっちゃうね」とすごく単純にそういうことを言うのです。そういうことに対して、ちゃんと、いやこういう意味で漁港は必要なのだとか、それがあからお魚食べられるんだとか、津波の対策はこうすると良いかもしれないとか、そういう話を小学生にでもしてあげると、多分ちゃんと理解すると思います。ですから先ほどソフトウェアの話をした繋がりと言うと、こういう場でただ大人たちが議論するだけだと、おっしゃるように、また同じ話が何度も蒸し返しになると思います。小学生には安全性とか、食文化の大切さ、それから先ほどの中学生の話がありましたが、職業体験的なもの、高校生、大学生になったらもう少し、ビジネス的なトータルの流通の側面、そういったものを複層的に学んだり、体験するような、そういうトータルソフトウェアの活動体系が、きちんとこれから議論されていくなり、実践されていくと、相当、3年、5年で違う話になっているはず。それをやらずにこういう場で集まって、大人たちだけがハード中心に造るか造らないかの話をしても、多分延々に同じ議論の繰り返しになるので、せっかくこの2年でこれだけ議論したのですから、ここを分岐点にソフトの活動と、若い人たちを巻き込んだ体系的なコーディネーションみたいなものをきちんと考える、そういう場であれば継続してこういう集まりというのは意味があると思いますし、それをやらない限りは、多分何回でも同じようになってしまうので、今後考えていく時に、そこについては市役所の方も漁業者の方も真剣に考えていただくと良いと思いますし、そういうトータルなコーディネーションができる中で、色々なイベントや活動があるのだったら喜んで協力したいなと思います。

F T : 何人かの方々からですね、このWSのアウトプット、公開の仕方について様々な提案がありました。そのことについて、追加で、例えばこうしたらどうかといったアドバイスはございませんか。そもそも皆さん方の

第13回ワークショップ議事録

意見の中には、この場で議論しなければ分からなかったことが大分わかって、非常に良かったという、こういう感触を市民皆に持ってもらいたいということだと思うのです。それで、HPで公開しても見られる人は限られているし、イベントをやっても来る人は限られているかもしれないから、もっと広く知らしめる方法と、イベント等を組み合わせるとか、色々方法があると思います。そんなことがありうると思いますが、ここで、こんなのはどうだとか、お答えあればうかがいたいのですが、いかがでしょうか。

参加者：皆さんのおっしゃっていることはことごとく正解です。ただし、17万4千人の鎌倉市民の、赤ちゃんから年配、ウルトラ高齢者もいるという訳です。物事には限界というのがあるのです。ですからその辺の見極めを誰がするかというと、一応民主主義ですから、やはりその部署を任されている、議会とかあるいは行政組織がどこかで経過を踏まえた上でより良い判断をしなければいけません。それで津波云々というところまでありましたが、これは鎌倉全員は助かりませんよ、簡単に、マンガっぽく言うと。本当に14m来た時に、15mの高さ制限の建物や、今あるものはいじれないということになってしまっていますから、17万人にダンプトラックの中のゴムチューブのきついやつでも配らなければ、それに掴まってカナダまで流れてくって私はよく言うんですけどね。ですからどこかでやはり覚悟しないと見極めきれないですよ、議論していると。ですから、より良いものを決断するのは、何かというと民主主義ですよ。その辺に悩ましいところがあるのですが、ここまで十何回やってきたことも非常に貴重な場面だったと思いますし、それをできるだけ正確に、その判断セクションに出して、判断セクション同士の議論が私は聞きたいですよ。私ら口出さないから。加藤さん等とも最近では派閥横断的に、よく各部局の考え方なども庁内的にも掴み取りながらそれぞれのセクションが判断されてるようにはなっていますが、まだまだ至らないことがたくさんあります。そういった部署にこういった市民の声をサポートして出してやって。多分出てきますよ、出てきて一回しゃべって聞かせてくれと。庁内議論をむしろ私は聞きたいですよ、リアルにと、これも感想ですけど。

参加者：今の方のお話にもあったように、17万人もいるのに、一遍に一つの情報を流すというのは、今の世の中でもそう簡単ではないと思うので、だから逆に言うと地道にやっていくしかないと思います。ちょっと手前味噌で申し訳ない、宣伝みたいになってしまうのですが、私はあるまちづく

第13回ワークショップ議事録

り団体をやっていて、津波のシンポジウムを今年継続的にやっています。それは各地区の公民館とか公会堂に何十人という本当に少ないレベルで集まってもらいのを毎月やっていて、明日最後の報告会ということで、御成小学校で300人くらい来ていただいてやるつもりなのですが、町内会レベルだと皆さん結構まとまっていたいて、大勢来なくても良いですからと言ってやると結構集まってもらえます。だから数をこなすしかないと思います。小さい集まりをたくさんやる、という感じで、この漁港の話の報告しながら意見を聴取するというのを地道に続けていただきたいと思いました。

参加者：一つ提案ですが。本当に地味にやるのだったら、鎌倉市の広報紙の中に一セクション、漁港、これからどういう名称になるか分からないですが、小さいコーナーを設けて、そこに例えば今週ミーティングがあつてこういう話になってこういう結論出ましたとか、詳細はこのウェブサイトを見てくださいとか、広報の中にセクションを作って毎回そこに載せるのが一番到達する対象の人は多いのではないですか。それかもうポスティングですよ、やる度に誰か人を雇って郵便受けに入れていくという。

参加者：ちょっと本筋から離れてしまうかもしれないので、申し訳ない、恐縮なのですが、さっき話しかけたのですが、このWSの扱ってどうなるんだらうかというのは、ちょっと考えるところがあります。みんな知っているかどうか分からないですが、実はここ数か月の間で状況が変わってしまっていますよね。言いたいことは、何十年間この話をしていると言いながらも、市民の話を聞いたことが無い、で、これが最初の回なのですね。これ以外に市民の意見を聞いたということが全く無いです。別にこれ私が言ったことではなくて市役所がそう言っているのです、そういう位置づけな訳ですよ。個々の思惑の中では当然こんなところで結論が出る訳は無く、色々な議論をやっていくうちに段々色々な面も含めて、集約されていって一つの意見ができるのだなと思っておりました。この会は形を変えて継続です。私の頭の中では去年ぐらいでは、これは多分次の基本計画、中期実施計画を変える、3年後ぐらいの話だろうと、3年ぐらいあれば何とかなるのかなと思っていました。ところが、市役所の方は良く知っていると思いますが、急ぎよ次の、市の総合計画を前倒しで変えることになりましたよね。これを来年中に決めるということは、もう案が、早いものは今月末から春ぐらいまでに出すと言っているとすれば、その間に反映される市民の意見はこれしかないんですよ。多分時限的に良くも悪くも。だから議論を延長するのも必要だと思うの

第13回ワークショップ議事録

ですが、それって6年間の行政計画の中に入らないのですよ。そうすると、私はこのWS当初はそんなに必要な成果って出る訳はない、と思っていたのですが、これだと、根底にあるのはとにかく何か早く決着付けたいのです。これに出てくるような問題点というのは、第1次漁対協の中でも、何十年前に言っていたこととまったく同じことを言っているんです。つまり、何十年間も何も進んでいない。だから何か前進させたいのですが、急にこの数か月の間に急転直下になったので、それを行政計画に反映させる時間が無くなっているのではないですか、と思っています。だからこのWSの意見、唯一のこの問題についての市民の意見を、私がする訳ではないので、ご担当部課とすればどうアピールされる気なのかなというのがすごくあります。なぜかというと、市役所と漁業者中心でおやりになった、色々意見ありましたよね、造るとしたら漁対協で出た一つの結論と、これを結論と言うのかどうかは知りませんが、唯一やった市民から出た意見と、色々な意味で全然違う訳ですよ。これをどうやって上げるのだろうと、次の基本計画の素案の中に、で、結論じゃないと。それを私は今すごく悩んでいて、確かに行政計画となると私が口を出す話じゃないので、精々パブリックコメントで意見をするぐらいしかできないですから。だから担当部局はどうするのだろうと、WSのこの成果を、というのはすごくあります。それが皆さんにぜひ考えていただきたい問題提起その1です。

それで問題提起その2としては、あまりこれも言いたくなかったのですが、すごく気になっていることがあります。最終的に漁港を造るという話になったとしたら、ただ相当年数掛かるでしょう。恐らく、どんなに短くても10年20年掛かるでしょう。すごく引っ掛かっているのは、長々しい話で恐縮なのですが、元々水産業協同組合法があって、正会員で20人を下回ると解散しなくてはならないという法律がありますよね。事務局は詳しいと思いますが。そんなに急ぐ話じゃないと思ったから、気にしていなかったのですが、私の知る限り2年ぐらい前の情報で、確か正会員で26人か27人といった記憶があったので、その後増えた人も確かにいる中、減った人もいるなどなって、今何人でしょうかという質問をしているのですが、まだ質問の回答を頂いていませんが、多分20人ぐらいでしょうと想像しています。これは、やっているうちにとか、造ることが決まってからとか、もっと最悪なのは、この後誰か資料を配ってくれましたが、造ってから解散してしまったら、どうなるのだろうと思っています。だから皆さん共通の話として、鎌倉の漁業を守る、ブラ

第13回ワークショップ議事録

ンド化する、の前に、まず確実に将来に亘って20人以上漁業者が、正会員の方がいないといけない訳ですよ。本当の意味で喫緊の課題は漁業者の、正会員の数を増やすことではないかと思うのです。申し訳ないのですけど。漁港は必要なツールと言いますが、そうってから、待ってからやっていたら、やっているうちに無くなってしまわないかと、ちょっと意地悪なことを言って恐縮ですけど。今増やすというか守らないと、それこそ大変な無駄になりますよね。そこのビジョンが。かくなる上は、後、来年中に次の基本計画を作るのだからというのであれば、ものすごく更に急ぐ話になってしまったなと僕は思っています。ここで何を議論しようという訳ではないですが、最後に問題提起というのか、雑感というのか、させていただきましたが、ぜひともそのへんを盛り込んでですね、私の意見はもう、担当部局にお任せするしか基本的にはないのですが、しばらくは。私としてはそれはぜひ、重たいバトンを受け取ってほしいなと思うのですが。

事務局：今の方が気にされている1点目の鎌倉市の総合計画の基本計画、次期基本計画と呼んでいます。平成26年度から始まります。その改訂作業が今、ちょうど始まったところで、今、庁内関係部局を中心に、百人会議が出た時みたいに、部門別の部会を立ち上げて、そこで平成26年以降の次期基本計画に乗せる各部門別の方針であるとか、施策の目標であるとか、そういったものの見直しをしています。これは後でお話ししようと思ったのですが、今の方のおっしゃった次期基本計画の中にこのWSがどのように反映されていくかというのはまだ白紙です。これから各課で、まず各課の課題で、どうするかというのを持ち寄って、それから部会、更にはもっと上の部長クラスの中で決めていく。最終的には議会の承認という作業があります。その中に実は今回いただいたこのWSの成果というのは、これはまだ個人的で、誰にも上司にも相談もしていませんが、参考になる意見が大変ありますので、今までやってきた、例えば水産業の振興のための施策、具体的にいくつかありますが、新たに加えるものがあるのかなと、感じております。ですからそれは市の内部の作業の中でも今回のWSの成果というのは十分に活用させていただきたい、というように考えています。

先ほどの水産業協同組合法というのがありますが、それは確かに20人を下回ってしまうと解散もしなければいけないと。神奈川県漁協さんも30近くありますが、そういう危機に瀕している漁協があるのは確かです。それを救済するために、これはどこの県もそうなのですが、例え

第13回ワークショップ議事録

ばそういう組合員が20人を下回っている組合の受け皿と言いますか、そういうものを県で別の組合を立ち上げて、そういう少ないところは、そういうところに合併してなんとか存続をしていこうというような救済措置はとられています。ただし、鎌倉の漁協さんの方、先ほど20人台というお話でしたが、30人台はいるかと思えます。若い人もこの間ずらっと並んでいましたが、たくさんいらっしゃいますし、後継者の方も確保できているのではないかと思いますので、それは組合さんの方で十分意識しながらやってらっしゃると思いますので、しばらくは頑張っていただけというように私は思っています。

参加者：課長の言った後ですが、組合員は58名です。その中の正組合員は30名。正組合員というのは90日以上働いている方です。その中で今日も来ています。若い人はいないのではないかと、今日、こちらから見た左側の人は皆後継者で、漁をやっています。毎日のように出ています。それで、今、反対だ、どうだ、こうだと言っている人は坂ノ下だけしか見ていない人が主だと思うんです。材木座にもいます。

参加者：違います。誤解です。

参加者：人の意見を聞いてから言ってください。手を挙げてからね。そういうふうにやっている中で、無くなっちゃうだの、どうだ、こうだのではなくて、育っています、ということをお知らせいたします。

参加者：正会員は30人ということですね。

参加者：正会員は組合員ということですか。組合員は60名います。その中で90日以上働いているのは30名と。

参加者：解散する、しないの話は、90日以上120日以内で、過去組合で決めた就業日数を越えている人を正会員と呼んでいて、正会員数が20人未満になった時には解散、という規定なので、そういうおっしゃる意味合いでの正会員は30人ということですね。

参加者：正組合員とすれば。会員というと60名います。その中でも90日以上漁をやっている人もいらっしゃるってことです。

参加者：私は法に基づく、正組合員数というのが30名であると。

参加者：それで1年に1回、審査委員会というのがあり、漁業者の場に公益を代表する方と、学識経験者という方が入って、それで審査をしています。

参加者：30人というそういう数字だけが知りたかったので、何人いるのだろうかという。

参加者：前の前の方が先ほどちょっと大事なポイントを言われて、課長が答弁されてらっしゃいますが、平成26年度を初年度とするその次期基本計画

第13回ワークショップ議事録

云々、これはこの春一応提案協議の形で監査法人のトーマツが総合コンサルテーションを受けて経営企画まで突っ込んでくるので、その中間の過程だと思っています。3月か4月に発注したものですから、今月の29日に審議委員会でお集まりいただいて、行政が作ったペーパーについて討議がありますよ。3時から5時までの日程でありますね。それは12月の本会議で多少は今後のことに触れる場面があるので、そういうスケジューリングだと思うのですが、その中で現在WSでやってきたことの位置づけがどのように置かれているのか、そして今度の総合計画でまた30年という馬鹿みたいに長ったらしいものを作ってこれで変えない、みたいなことをやるから、これだけ変化が激しい時代で鎌倉市がどんどんおかしなことをきたしていると、ということで、その辺は多分今度からは3年か5年のローリングシステムでまず全部見直すというようになっていけば良いなと思って、私は気にしているのですが、その辺で今度決まってしまう中間報告かな、なんかの位置づけはどこまでどうなのですか。お話しただけないかもしれませんが。

事務局：私もまだ詳しくスケジューリングが頭に入っていないのですが、確かにおっしゃるとおりに、まだ課の段階で揉んでくれという段階なのですね。12月議会の報告はこんな形で今やっています、という報告ぐらいしかできないのではないかな、と私は思っています。その中で今、各課で言われているのは、自分のところの総合計画での位置づけ、方針これについてどうですかと、確かに、コンサルが入って、ヒアリングとか受けています。そこは取りまとめた原案を、私どもがこうじゃない、ああじゃないと注文をつけるのですが、その時点ではまだWSの方向性というのは出ていない段階でしたので、それを私どもの方で手を入れる段階、というようになっています。すぐに年内にコンクリートとなってしまう訳ではないので、先ほどおっしゃたように26年度からの次期基本計画の話にもなってくるかと思しますので、長期的には結構大幅に見直したいなど、個人的には思っています。後の4年間、次期基本計画の前期、これにどんなものを盛り込んでいくかというのは慎重に考えていきたいと思っています。

参加者：課長に質問があります。9月議会で市議会議員が市長に質問しました。鎌倉漁港について実施計画にまで載せられているが、これは市長がトーンダウンして進んでいない、これをどうするのか、という質問です。あなたは聞かれたと思います。本議会です、定例会です。その時の市長の答えは今、皆さんもパソコンで録音でも聞けますよ。「着々と進めていき

第13回ワークショップ議事録

いと思います」と。この辺のところの質問を、私は今、出してありますが、あなたは庁内会議で、市長が議会で市議会議員に答えられたあの返事はどういうことなのでしょうかというように質問していただきたい。プロセスとして。

参加者：「着々」の中身ね。

参加者：そうです、具体的に。「着々」じゃ分からない。担当課として聞いていただきたい。というよりあなたはそれをどういうふうに理解しているのですか。

事務局：このWSが終わった後、市長を含めて、今後どう進めていくかというのは協議しますが、あの時確か市長が答えられていたのは、当面の支援の話をしていました。漁港について、すぐにはできないかもしれないが、それは着実にというか粛々と、というか、やっていくと。これについては並行して検討していきたい、という話だったと思います。それをどのぐらいのレベルで、または総合計画の中に位置づけるかというのは。

参加者：はっきりしているのは、ノーと言わなかったってこと。

事務局：そうですね。そのとおりです。これから皆様とも、この後これ、いただいた後報告することになっています。

参加者：では、質問が出たと言ってくださいよ。

参加者：ちゃんと残っていますよ。

参加者：先ほどちょっと自分の頭の中のスケジュール感が変わったというのはこの話にも実はありまして、私は元々3年ぐらいかかるだろうなと思っている中に、議員の選挙もあるし、市長の選挙もあるし、その中に色々な人の色々な思いがあって、そんな形で行政サイドも漁港が段々見えてくるのかという。ところが現実には来年議員選挙もあるし、市長選挙もあるし、おまけに総合計画をやるというということは、誰がやるか分からないところで一気に全部変わるのでですね。それを私はすごく危惧しています。おっしゃる通り普通の市民ですから、総合計画の基本計画は大事だと思っているので、それは非常に重要なポイントだなと思っています。

一方で基本計画というのは鎌倉市全体の話をしていきますから、決して漁港の話をしている訳ではない、漁業の話だけをしている訳ではないですから、多分全体の中で何分も話をしていないでしょう。恐らく、予想ですけどね。ということは、担当部局、しかも人が変わるかもしれないという中においては、あげられた、こんなもので、というのを前提に考えて決められるでしょうから、ここから先、非常に担当部局が、どのようにこれを、例えばこのWSの意見についてどのようにアピールするつ

第13回ワークショップ議事録

もりかが非常に重要な部分があるなと思っているので、そこはぜひ、私の想いとすれば大事に受け止めてほしいなというのがお願いの一番重要な向きである訳です。それは今の話だと、6年間はそれで行くという話なので。ただ、確かに今現在走っている、現在の基本計画は、確かに色々な審議会だ、なんだというプロセスを経て辿り着いている結論は「漁港の整備を検討する」とほぼ1行なのですよね。検討すると言っているのだから検討するのだよね、と、別にその通りのことをやっている訳で、不満は無いのですが、果たしてその言葉を、良くも悪くも横並びにはできないのではないか、という私は予想、印象があって、持っている情報とか、初めて出た市民の意見が多少なりとも違うのであれば、横並びの意見にはならないだろう、それはどうするんだろう、というのが先ほど差し上げた問題提起の部分です。ですからぜひともよろしく願います。

F T : それではちょっと整理しますが、一つはこういったWSの成果なりなんなりを、市の総合計画にどういう風に反映していくのかということに、皆さんとても関心を持っていらっしゃる。それは市として受け止めていただきたいと思います。それから先ほど、少し前の話では公開をどうやっていくかということについて、色々な工夫があるだろうから多面的に展開して、かつ地道にやっていくべきだ、というご意見がありました。このことについては、今、市としては何か具体的な案とかがありますか。

事務局 : 地道に町内会単位というやり方もあるかとは思いますが、物理的に中々回り切れないというのはあります。考えられるのは、例えばツイッター等でこういう会議があって、こういう話がありました、ということ発信すれば、かなりの方が見ていただける可能性があり、拡がっていくのかなというのがあります。うちもツイッターをやっていますので、ぜひそういうのは入れることができるのかなと。それから、先ほど広報で例えばこういうことやっています、見てくださいというだけでも、市民の方の目に留まるかなと思ったので、それは今回、このWSが一回区切りがつきますので、こういうようなことをやりました、ということの一つ一つご案内していけたら良いなと思っています。

F T : イベントだとか、今の所アクティブなものはないですか。

事務局 : うちのイベントではないですが、例えば鎌倉漁協さんがやっていたり、朝市とか、月1回やっていますけど、ああいう場なども活用したいなと思っています。3世代交流などそういった海の関係するイベントなどはいくつかありますので、そういう時は活用していきたいなと思います。

第13回ワークショップ議事録

この後フォーラムやったら良いのではないか、この発表会やったら良いのではないか、についてはちょっと今すぐ、具体的にいつやりますとは言えませんが、持ち帰ってそれは検討していきたいと思っています。

参加者：ちょっと私、申し上げたいことが一つあるのですが、もちろんそういう手段とか、さっき私も出しましたが、場の話もすごく重要なのですが、何をメッセージするか、何をそういう場で伝えるか、あるいは逆に何が聞きたいのか、何を市民から聞きたいのか、その目的のところがとても重要だと思います。前の方のご指摘は私はそうだなとすごく思っていて、つまり、この場であれば、こういう場がありましたということ、単純にメッセージするのと、こういう結論なり、こういうメッセージがありましたというように伝えるのとではだいぶ違うと思うのですよ。私が繰り返し申し上げたいのは、恐らくハードウェアで特に港というものをすぐに建設するのは無理だろうということがこの理念の結論だと思うのですね。一方でソフトウェアの活動は特にさっき出た後継者にしたって、30人よりもっと増えた方が良いはずな訳ですよ。若い人たちの中から漁業者になろうとか、あるいは少なくとも応援しようとか、あるいは少なくともこの近隣の魚をもっと食べようとか、そういう人たちがどんどん増えていくような活動をするということに関しては、多分誰も反対していない気がします。ですから総合計画にしても、港を建設しますという、検討しますということがずっと歩いていくのではなくて、ここでハードウェアというのには無理だが、そういうものの建設に向けたというか、ソフトウェアの市民理解を得たり、後継者を作っていく、流通を変えていく、そういう活動をこの何年間で注力すべきだと、そういう予算をつけていくべきだというぐらいまでのところに、もしコンセンサスが得られるのだったら、踏み込むべきなのではないかと思いますし、それが無い限りは、先ほどもおっしゃっていたように何年経ってもハードの話になるとそれは無理だね、ということの繰り返しになりますし、そういうソフトの市民理解を得たり、流通を変えていくという活動が、いつまでも盛んにならないのではないのかなというように思います。

参加者：ちょっと他の地区の人も随分来ていると思いますが、私は御成町ですからすぐそこです。倉屋敷という自治会で私のところは10班と11班が日常的な連絡ネットなのですね。で、回覧板が来るのですよ。皆さんのところに回覧版ってあるのですか。（「来る」「ある」の発言多数）皆さん回覧板見ますか。見たことないという人。（参加者：回覧板でこのWSのことも1度か2度回りましたね）（参加者：出ましたね）メッセージは新

第13回ワークショップ議事録

聞の見出しじゃないですけどヘッドライン的に3行くらいで良いと私は思ったんです。それは詳しいことをお聞きになりたければ、こうしてくださいとガイドすれば、後は市民が無関心か関心か、真剣か不真面目か、どうでも良いと思っているかのレベルですから、そこまで斟酌することは無いと私は思うのですよ。回覧板って良いと思います。あと、老人組織も、私は仕方がないから入っていますが、4千人ぐらいいるとのことですよ。 「みらいふる」の方たちがそれ専門にやっていますし、割とあれは通知がいきやすいネットワークだと思います。「みらいふる」って4千何百人いるっていうのですよね。(参加者：5千人)5千人ですか、増えましたね。

F T : 公開周知の仕方については色々あります。それから漁業者さんに向けて、市民を巻き込んだイベントをもう少しアクティブに活性化してもらえないかというご意見もたくさんありましたが、漁業者の方、いかがでしょうか、その展開の可能性は。

漁業者 : 先ほど言われたように「みらいふる鎌倉」という老人会の会長さんから3世代交流というのをしたいということで、2回ほど打合せ会をした時に、つみれ汁を今の子供さんは食べたことが無いから、骨が弱いのではないかなどという話が出て、そういう話から、つみれ汁にしたというのは、小魚を使って味噌汁にして食べようということで。お年寄りの人のアイデアでつみれ汁をやって、それだけじゃ何だから、せっかく集まってもらったのだから、海の漁業の様子をお話して、交流を図ったということです。そういうイベントがあればできる範囲のことはしようと思っています。

もう一つ、障害のある方に仕事が無いというお話を頂いて、何か第1次産業として仕事はできないかということで、来年度から養殖ワカメの干す手伝いをしてもらうようなことを今計画しているところです。

F T : 地元の人たちと漁業者さんの間で色々今後どうしたら良いかという、相談会や勉強会ができると良いですね。他に何か振り返ってご意見ございますか。

参加者 : これ、今日でとりあえずおしまいですか。

F T : そうです。

参加者 : なんだ、じゃ今日ぐらいつみれ汁かブイヤベースぐらいは。

F T : ここはお茶も出ない会ですからね。

参加者 : いや交通問題のWS時、最後はね、私が500円ずつ手持ちでも良いから缶ビールくらい飲んで打ち上げしようよって言ったら、図書券くれまし

第13回ワークショップ議事録

たよ。上等だと思いましたよ。それなら来る気になるかなって。

F T : 頂いた意見を基にして、この報告書の改訂作業を行います。この改訂作業とは別に様々な宿題、展望についてご意見をいただきましたので、これは市の方で少し整理をしていただいで、持ち帰ってできることはできるということを進めていくことになります。

今後この報告書をどのように編集し、どのように皆さんに確認していただくか、市として何か考えお持ちではないですか。

事務局 : WSを開くという形では今日で最後だと思いますので、今日頂いた意見を1回取りまとめまして、郵送等で送らせていただいで、メール、ファックス、電話、または直接来ていただいで結構ですが、皆さんとやり取りをして、年内には編集を経て公表していきたいと思っています。皆さんにまたご迷惑をかけてしまいますが、この本編、それから議事録等、ご覧いただきまして、今日この場で気が付かなかったこと、ご意見、受け付けますので、今月いっぱい意見があれば、市の方にお寄せていただいで、その間、今日頂いた意見についてはどんどん改訂作業を進めてまいりますので、でき次第、11月末でしめたところで、でき上がり次第皆さんの所にお送りして、見ていただき、それで完成と、それから配布なり報告なりをしていきたい、そのように考えております。

F T : できれば報告書に関する意見だけではなくて、色々な展望が出ましたので、それについて書ける方で結構ですでお書きいただき、市としては、お送りする時に、こう考えている、というようなメッセージをお返しいただければありがたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

プログラムでは最後に感想ということになっていますが、先ほど感想を述べられた方がたくさんいらっしゃいましたので、特におっしゃりたいことがあれば伺いたいと思います。いかがでしょうか。

第2部

③ 今回のワークショップに参加してご感想

参加者 : 私が思うに、漁港がすぐにできない、皆さん色々開発したい人がいたり、総合計画が何年もあるというのもわかるのですが、普通に自分がいつも海に行って疑問に思うのは、今漁業者の小屋に台風が来て被害に遭ったのをどうするのという。WSで漁業者は、私たちはただ遊んでいるだけと誤解されるかもしれないですが、水産業を応援したいという気持ちは持っているんですよ。今危ないという状況をWSでは何も考えないの、

第13回ワークショップ議事録

というふうに思ってしまうのです。漁港に反対したから、次に被害があったら心が痛むのですよね。私たちが反対して漁業者が後片付けしたりするのが自分たちのせいかな、とあってしまったりするから。何か改善する方法を、まだまだ長い、色々な事をしていかなければいけない、ビジョンを考えたり、ソフトが先、とかわかるのですが、今、改善した方が良いという所とか、危険だという所を、じゃあ何もしないの、とあってしまうので、そこのところを今後どうするのかという検討会は無いですか。

事務局：これは確かメッセージの2番目にあっただと思うのですが、「行政が早急に具体的対策を実施することが必要である。」これはうちに対していただいた命題だと思っています。これについては、関係するところと今後どうしたら良いか調整します。正直あそこは市が管理している海岸じゃないので中々手が付けられないので県に行って、海岸には今仮設しか建てられませんが、どうしたらできるのかという相談であるとか、そういうことをしていかなければならないと思っています。何をしたら良いかというご意見はいただいているので、実際に実現していくというのはうちの役割だとは思っています。

参加者：今、私たちも養浜事業のことを色々やっていて、その時は一時的に養浜をして砂じゃないですよ、この間入れられたのは。川原の大きな石で、シルトといって、泥でもなければ砂でもないような海に全く合わない素材のものをたくさん入れられてしまって、一時的には養浜して砂浜が戻ったね、と思わせておいて、次に何かあった時はもう田んぼのような状態で、コンクリートみたいな形で固まって、今度は岩崖のような状態になっている訳です。もちろん漁業者の浜小屋を守るために養浜もしていると思うので、県の方の養浜事業というのも試行錯誤であって、すごく怖いなというのをこの間実感したばかりなので、なんとかその辺、横のつながりを持って、鎌倉の湾を考えてもらいたいと思っています。

事務局：その話も承知しております。うちの方にも問い合わせがありまして、県の藤沢土木事務所の汐見台庁舎の方にやっていたいて、良い砂があれば良いのですが、漁業者の話を見ると、コンクリートみたいな、瓦礫みたいなものが入ったりするのは問題外ですが、やはり軽い砂だとすぐ持ってかれてしまうので、ある程度粒径が大きい方が良いということがあります。実際、砂浜を歩いている方にとってみたら、サラサラの砂が良いのかもしれないですが、サラサラなのはすぐに飛んでしまったりか、流れてしまったりかあって、浜小屋の周りにはなるべくそういう、漁業者

第13回ワークショップ議事録

が良いよというような物を使ってほしいという要望で、いきなり砂を持ってきて入れるのではなくて、一応漁業者と藤沢土木事務所でどんなものが良いかということは、その仲介として市も入ってやっていますので。この間入れてしまったものは苦情が出て仕方がないものだったようなので、それは県に言ってあります。だから今度入れる時は事前に調整を図ってやっていきたいと考えています。

参加者：すいません、最後にもう1回お話ししたいと思うことがあります。「現地調査後に寄せられたご意見」にまとめていますが、私なりに2年近くかなりの回数をかけてきた結論とは、多分ハードウェアを早急に整備するのは難しいと、だがソフトの活動をしっかりして市民理解を得るということをするべきだ、というところが一言でいうとこのWSの成果ではないかと思っています。ぜひ考えなければいけないのは、市民理解って一体何なのだ、どこまで行ったら理解が得られるのだ、ということです。これがもし、そのハードを進めるにしても、大切な要素だと思うんですよ。例えばここに書きましたが、浜売りの来場者数が何人になったとか、何千人になったとか、さっきの3世代交流会のようなものが何回開かれて実に何万人になったのか。また、鎌倉の子供たちの2人に1人は参加したとか、あるいはもっと進むと、こういう豊かな食文化に触れてそれを残したい、残すためにインフラの整備でこれぐらいの税金を使うのは良いか、という問いに対して、市民の半分がそれだったら良いじゃないか、この文化を残すのだったら良いじゃないかとなったら、多分大手を振って基本計画なり行政計画にも反映できると思うのですよね。せっかく今から中長期の計画を立てて、5年10年、もっと言うと20年の視野で計画を立てられるのであれば、そういうスコープをきちんと持った方が良いと思うのですよ。例えば5年後に市民のこれぐらいの人がそういう食文化を体験していて、ネット調査でこれぐらいのパーセンテージ、これぐらいの人数はそれに理解を示している状態を作ろうとか、そこをはっきり、特に行政の方と漁業者の方が、しっかりそこのプロセスとかビジョンをつくっていかないと、多分本当に何回集まっても同じになってしまうと思うのですね。そこをぜひここを出発に考えられたら良いのではないかと、というのが意見です。

参加者：もう時間も少ないので、漁協の思いとしてのお願いということで一言いわせていただきたいと思います。今話を聞いて、漁協としては漁港が必要ですが、皆さんの話を聞くと、漁港建設が長くなりそうだったら、毎年来る台風の被害をなくすために、安心して安全な何かしらの施設を願

第13回ワークショップ議事録

いするということで、よろしく申し上げます。

参加者：感想は最後にとということだったので、ちょっと言わせていただきます。

先ほどから色々な意見が出ていましたが、一番思うのは子供たちの世代に、負担に、無駄になるようなものは残したくない、というのがやはり一番です。今良くも悪くも上の世代を下の世代が支えるというような形になっています。皆さんもそうですし、自分たちもまた下の世代に支えてもらうというようになっていきますから、負担する子供たちの世代に説明ができるようなものを作っていただきたい。これは別に、漁港に限らず何でもそうだと思います。例えば先ほど、ちょっとびっくりしたのですが、平塚の例が出てきましたが、ちょっとこの資料しかないのですが、判断できないのですが、こんなのは無駄だと思うし、こういうのは子供たちの世代に説明がつかないと思うのですね。なので、とにかく子供たちに、そうだよね、これは必要だよね、自分たちで負担してやっていくよ、と思ってもらえるようなものを、説明できるものを作ってほしいというのがやはり一番です。

今、漁業者の方からお話がありましたが、やはり直近の問題は早くやらないと、待っていても何も解決しないと思います。せつかく、とりあえず、まずは漁港ではなく、三つの提案があったと思うので、将来の話だとか、今やらなければいけないこと、それを早く進めていただきたい。

今後なのですが、先ほどお話があった町内会単位みたいな、多分それが一番市民の色々な人の意見をまとめられる方法だという気がします。確かに広報紙とかそういうのでばらまくのは良いのですが、一方通行かなと思います。そういう会で話して、何もなかったら何もないかもしれませんが、意見を集めるのは一番誰もが納得する方法じゃないかと思います。ここだと市民といっても一部の人間だろ、という話も出ていたので。本当はそれが良いのではないかと思っていたのですが、先ほどのお話だと、どうやら市の計画に反映するにはもう時間が無いみたいなことだったと思うので、やるならば、唯一、この市民とか、漁業者の方とか色々な立場の方が対等に話をしたのが、このWSになるので、これを市へのお願い、というか要望ですが、参考とかではなくて反映させていただきたいです。これが唯一のものとなってしまった訳ですね、もし間に合わないのであれば、ここにある訳ですから、これは絶対に反映させていただきたいです。でなければこの長い間やって来た意味が、参考ですねと言われてしまうと、私たちは何だったのだろうと思うので。間に合わないのだったら、間に合わないのはおかしいと思うのですが、本当はもっと色々やるべきだと思うのですが、間に合わないのだったら、これは

第13回ワークショップ議事録

絶対に反映させてください、というのを最後をお願いして終わりたいと思います。

参加者：今、ちょっと話を聞いていて、安全対策はすぐにやらなくてはならないと思いました。ぱっと思ったのですが、毎年台風が来るたびに何かやってというのは、毎回そういうことをちまちま繰り返すよりは、耐久性の高い、永続的な対策を最初にやった方が長期的には、実はそっちの方が費用が掛からなくて良いのかもしれないなというようにちょっと思いました。

あと、これを反映させるというご意見がありました。もしこれを反映させる、そもそもこれが反映させるものとわかっていれば、もうちょっと議論も具体的で、例えばベースがあって、論点の根拠があって、というようなものにしていただけないかと思いました。例えばこの意見はそんな本当に深い裏付けがあって、という訳でもなさそうだし、ある意味思い付きの意見を言って、で、まとめて終わり、というようなものなので、これが市の行政に本当に反映されてしまって良いかなとは若干思います。それだったらもっと深い、ちゃんと裏付けのある意見をまとめるべきだったのではないかなと私は思います。

参加者：そうですね。ちょっと言葉は適切じゃないかもしれませんが、今回事務局がまとめたものが、行政のあるレベルに、こういうことでしたとレポートが上がっていくと、上の人は悪知恵がありますからね、逆手に取って、そこを汲んだからこういうことだよ、というような論理のすり替えのようなことが必ず出てきます。それは今日まで議論してきたことほとんど反映されていない、意見はわかったと、よくある行政の管理職のセリフですよ。「市民の皆さん確かに様々に色々なことを言ってこられるのだ」と、「だから今日あなたがおっしゃられている事も私は賛成ですが…」でボツです。というのがあなたの言ったことと少し重なるのですが。悪口を言っている訳ではないのですがね。

F T：最終的に絶望的な話になってきましたね。

参加者：だから、事務局の出し方によって、実はこの先はずいぶん変わるんですよ。そこは私が口を出せない世界が確かにあるので、原案部分はですね。だからそこをなんとか埋めてほしいというところです。

参加者：繋がる糸を、どこかできちんとね。

参加者：一方的に私の意見が届いてほしいと言っているのではなくて、確かに混沌としたこの情報、でも何がしか事務局としてはまとめてあげなければいけない、と思うのですけどね。そのあげ方でもものすごく変わるので。

第13回ワークショップ議事録

参加者：先ほど、私は一言で言うと、ハードじゃなくてソフトだと申し上げましたが、その点について。今の時点ではこれをもとにそういうメッセージを、そういう計画に、ほんと一言で良いですが、反映させようとされているのですか。

参加者：WSに無断では一切やらない、とかね。

事務局：総合計画の中でも、基本的な施策とか、大きな目標があって、それから段々具体的な取り組みがあって、そして個別の計画とある訳です。その中の多分このメッセージは理念的なものと言うのでしょうか、抽象的な表現が出てくるので、それは十分取り入れていける、細かい議論をしなくても、こういう方向性で原局としてご意見をいただいてやっていきたいということは十分にアピールできる。逆に言えば、我々がどうしようかというところに、何の市民意見もない中で作るよりも、一つの裏付けというものにはなると思います。そういう意味では、今回初めてやった取組でこれだけの意見、2年かけてやらせていただいたことは決して無駄にはしたくないと思っていますから、どこまでこれを上の方に理解していただくか、という努力はしてまいりたいと思いますし、なるべく皆さんの今言われたことについても、伝えてぜひやっていきたいと思っていますので、あまり悲観的にならないでいただいて、何とか担当課の方でも努力していきたいと。今の段階では絶対できますとは言えませんが、こういう形で担当課の方としては積極的にPRしていきたいと思っています。

F T：課長が直接の担当である限りはね。一緒に苦しんできましたから。

事務局：我々の総合計画策定では、ちょうどこの部会に所属しますので、その中で、最初は大きな方向性というか、目標を作り直しますので、その中で先ほど言ってもらったソフトの面という事について具体的に今日お話を聞いて整理をして、どのように入れたら良いかと、今までそういった視点での括りが無かったので、新しい一つの方向性として良いのではないかなと。今の第6次産業化とかそういうものにも合致している部分もありますから、うけるのではないかと個人的にはちょっと考えました。だから検討したいと思います。

参加者：今回おしまいということで、結局、課長がどう反映させてくれるか、そこ次第なんだなと思います。だからもう私たちの役目はおしまいだなと。じゃ何ができるかなと今考えていたのですが、WS後にできることはやはり鎌倉の魚を食べることかなと思っています。実はあまり食べてないのですね。シラスはよく使わせてもらっています。三郎丸さん、喜楽丸

第13回ワークショップ議事録

さんにもとても美味しいシラスを食べさせていただいて、最近は気を使って、今日はこっち行ったりとかしています。朝の浜売りも買いたいのですが、ちょっと問題があります。カミさんが、以前に釣り等に行って魚を持ってくると、非常に嫌うのですね、捌くのが大変だから持ってこないでと。カミさんが言うには、最近捌いて味付けしてすぐ調理できるようなものが売っているので、そういうのを鎌倉ではやってほしいなど言っています。私個人としては、強行突破、朝、浜辺に行って自分で調理してちゃんと片付けもして、食べるようにしていきたいと今、思っています。

F T : 時間がまいりましたので、13回最後のWSをこれでしめたいと思います。どうも長らくありがとうございました。

終わりに

④ 事務局より

事務局：では事務局の方からもお礼申し上げたいと思います。13回お付き合いいただきまして、本当にありがとうございました。1回目2回目辺りはかなり紛糾をして、この後どうなるのかと正直思いました。今日最後も、色々な意見をいただきましたが、皆さん、意見は色々お持ちの方がいらっしゃるのですが、それぞれ気を使って話していただいているというのが、最後そのように終わって非常に良かったのかなと思います。ぜひこの13回の成果を無駄にしないように、私どもとしても上の方にもあげて、なるべく実現に向けて、また漁港という漁業者の命題というか、宿願もありますので、それはそれとして並行してやっていきたいと思いますので、また色々な機会に、先ほどフォーラムとか色々なイベントという話もありましたが、そういったことがあった時には、ぜひまたご参加をいただけたらと思います。1年2か月でしょうか、本当にありがとうございました。